

うるま市高齢者実態把握調査報告書

平成27年3月

沖縄県うるま市

< 目 次 >

I うるま市の高齢者を取り巻く現状

- 1. 高齢者人口、高齢者世帯の推移と計画値の検証 1
- 2. 介護保険サービスの利用実態 16

II 日常生活圏域ニーズ調査結果

II-1 市全域

- 1. 調査の概要 25
- 2. 調査結果 26

II-2 日常生活圏域別

- 1. 回答者の属性 99
- 2. 評価項目別の結果 102
- 3. 疾病 110
- 4. 介護 113
- 5. 考察 115

- 参考資料** 117

I うるま市の高齢者を取り巻く現状

1. 高齢者人口、高齢者世帯の推移と計画値の検証 ... 1
2. 介護保険サービスの利用実態..... 16

Ⅰ うるま市の高齢者を取り巻く現状

1. 高齢者人口、高齢者世帯の推移と計画値の検証

(1) 総人口及び年齢階層別人口

住民基本台帳よりうるま市の総人口をみると、平成26年10月現在で121,329人、平成22年と比較すると2,661人増となっている。

年齢3階層別人口（平成26年）をみると、年少人口（0～14歳）が21,294人（17.5%）、生産年齢人口（15～64歳）が77,289人（63.7%）、老年人口（65歳以上）が22,746人（18.7%）となっている。平成22年と比較すると、年少人口が減少し、老年人口が増加しており、徐々に少子高齢化が進行している。

沖縄県と比較すると、3階層とも沖縄県と同様の割合となっているが、本市の方が若干高齢化が進んでいる状況にある。

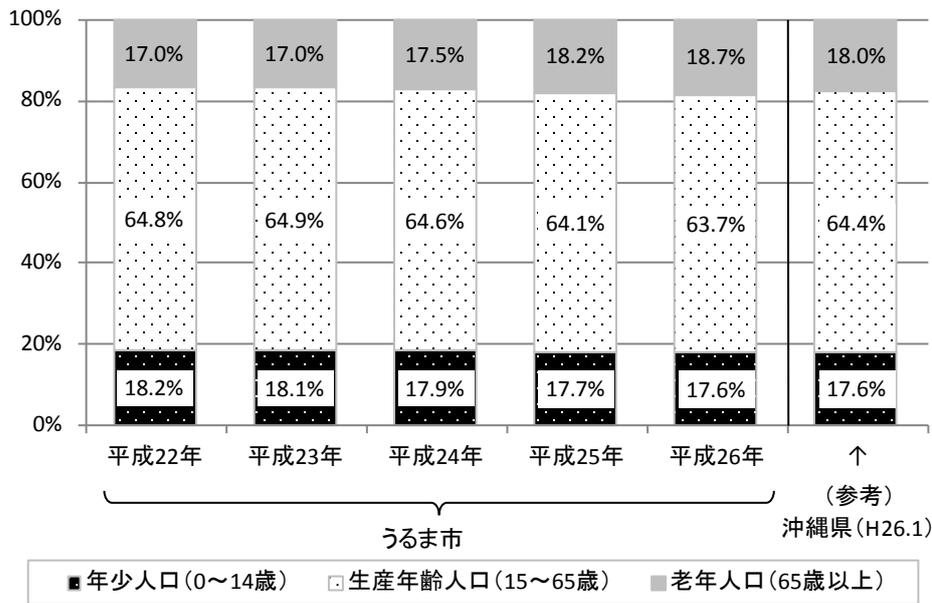
■年齢区分別及び高齢者人口の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口	118,668	119,349	120,205	120,860	121,329
総人口の伸び	0.8%	0.6%	0.7%	0.5%	0.4%
年少人口 (0～14歳)	21,575	21,549	21,491	21,373	21,294
生産年齢人口 (15～64歳)	76,868	77,508	77,637	77,473	77,289
老年人口 (65歳以上)	20,225	20,292	21,077	22,014	22,746
前期高齢者 (65～74歳)	10,017	9,643	10,037	10,544	10,947
後期高齢者 (75歳以上)	10,208	10,649	11,040	11,470	11,799
65歳以上人口の伸び	0.7%	0.3%	3.9%	4.4%	3.3%
65歳以上に占める 前期高齢者の割合	49.5%	47.5%	47.6%	47.9%	48.1%
65歳以上に占める 後期高齢者の割合	50.5%	52.5%	52.4%	52.1%	51.9%
高齢化率	17.0%	17.0%	17.5%	18.2%	18.7%

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

注）平成24年7月9日より外国人住民についても日本人と同様、住民基本台帳法の適用対象に加え、住民票が作成されることとなり、平成24年以降の住民基本台帳では外国人を含む人口となっている

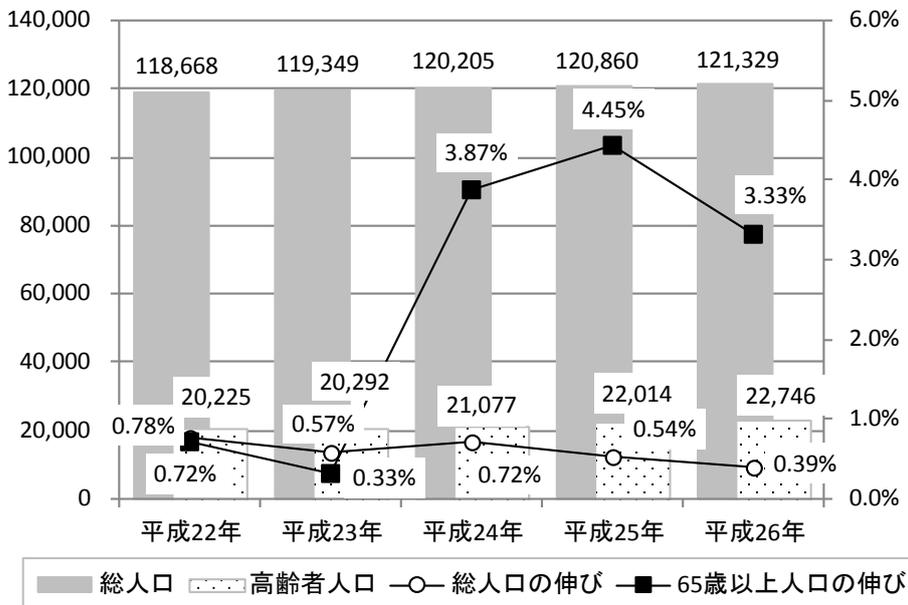
■年齢3階層別人口割合の推移



資料:住民基本台帳(各年10月1日現在)

総人口の伸び率と65歳以上人口の伸び率について、平成22年からの推移をみると、総人口の伸び率は増減を繰り返しながらもほぼ横ばいである。一方で、65歳以上の伸び率は、団塊の世代が高齢者に移行し始めた平成24年以降大きく上昇している。

■総人口及び65歳以上人口の伸び率の推移



資料:住民基本台帳(各年10月1日現在)

(2) 日常生活圏域別高齢者人口

①日常生活圏域別高齢者人口

平成26年10月現在の地区別人口をみると、勝連地区で13,921人、与那城地区で12,217人、具志川第1地区で36,531人、具志川第2地区で34,899人、石川地区で23,761人となっている。

地区別の高齢化率をみると、勝連地区で21.1% (2,934人)、与那城地区で24.5% (2,991人)、具志川第1地区で17.9% (6,526人)、具志川第2地区で16.5% (5,747人)、石川地区で19.1% (4,548人)、となっており、他地区と比べて与那城地区の高齢化が進んでいる。さらに、65歳以上人口に占める後期高齢者の割合についても56.6%と最も高い。

平成22年からの人口の推移をみてみると、具志川第1地区の総人口の伸びが1,036人、具志川第2地区で1,814人、石川地区で423人と増加している。一方で、与那城地区、勝連地区それぞれの総人口の伸びは▲147人、▲465人と減少傾向にある。

平成22年と平成26年の高齢化率を比較すると、全地区において平成26年の高齢化率が高くなっており、うるま市全体で高齢化が進んでいる。

■日常生活圏域別高齢者人口

	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区	合計
地区総人口	13,921	12,217	36,531	34,899	23,761	121,329
年少人口 (0～14歳)	2,209	1,710	6,718	6,586	4,071	21,294
生産年齢人口 (15～64歳)	8,778	7,516	23,287	22,566	15,142	77,289
老年人口 (65歳以上)	2,934	2,991	6,526	5,747	4,548	22,746
前期高齢者 (65～74歳)	1,340	1,298	3,133	2,952	2,224	10,947
後期高齢者 (75歳以上)	1,594	1,693	3,393	2,795	2,324	11,799
65歳以上人口の伸び	10.7%	5.4%	15.9%	13.8%	12.2%	12.5%
65歳以上に占める 前期高齢者の割合	45.7%	43.4%	48.0%	51.4%	48.9%	48.1%
65歳以上に占める 後期高齢者の割合	54.3%	56.6%	52.0%	48.6%	51.1%	51.9%
高齢化率	21.1%	24.5%	17.9%	16.5%	19.1%	18.7%
世帯数	5,457	4,880	14,181	13,771	9,989	48,278
要介護認定者数*	641	751	1,374	1,069	840	4,675
地区の65歳以上人口 に対する認定率*	21.8%	25.1%	21.1%	18.6%	18.5%	20.6%

*認定者数は平成27年1月現在

資料：住民基本台帳

□平成22年値

平成22年10月1日現在

	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区	合計
地区人口	14,068	12,682	35,495	33,085	23,338	118,668
65歳以上人口	2,651	2,837	5,736	4,948	4,053	20,225
高齢化率	18.8%	22.4%	16.2%	15.0%	17.4%	17.0%

資料：住民基本台帳

□平成22年から26年の増減

	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区	合計
地区総人口の伸び	▲147	▲465	1,036	1,814	423	2,661
65歳以上人口の伸び	283	154	790	799	495	2,521
高齢化率	2.2%	2.1%	1.7%	1.5%	1.8%	1.7%

②高齢者世帯数の推移

高齢者世帯数の推移をみると、平成25年では高齢者のいる世帯が15,712世帯(33.4%)、うち高齢者単身世帯は5,134世帯(10.9%)、高齢者世帯3,023世帯(6.4%)となっている。

平成15年以降の推移みると、高齢者のいる世帯では、平成20年の増加率が20.6%、平成25年の増加率が6.3%と増加傾向にある。高齢者単身世帯でも、増加率が52.8%(平成20年)、13.8%(平成25年)、高齢者世帯でも、増加率が74.2%(平成20年)、18.5%(平成25年)とともに大幅に増加している。

さらに、高齢者のいる世帯等の割合を県内他10市と比較をすると、高齢者のいる世帯は3番目、高齢者単身世帯は5番目、高齢者世帯は4番目と、いずれも上位に位置している。

■高齢者のいる世帯数の推移

(単位：世帯、%)

		平成15年	平成20年	平成25年
総世帯数	実数	38,899	42,940	47,009
	増加率	—	10.4%	9.5%
高齢者のいる世帯	実数(構成比)	12,260 (31.5%)	14,782 (34.4%)	15,712 (33.4%)
	増加率	—	20.6%	6.3%
高齢者単身世帯	実数(構成比)	2,954 (7.6%)	4,513 (10.5%)	5,134 (10.9%)
	増加率	—	52.8%	13.8%
高齢者世帯	実数(構成比)	1,464 (3.8%)	2,551 (5.9%)	3,023 (6.4%)
	増加率	—	74.2%	18.5%
その他	実数(構成比)	7,842 (20.2%)	7,718 (18.0%)	7,555 (16.1%)
	増加率	—	-1.6%	-2.1%

※ 各市町村の住民基本台帳のデータに基づく数値。各年10月1日現在。

※ 高齢者世帯=65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯。

※平成15年については石川市、具志川市、与那城町、勝連町を合わせた数値である。

資料：高齢者福祉関係基礎調査

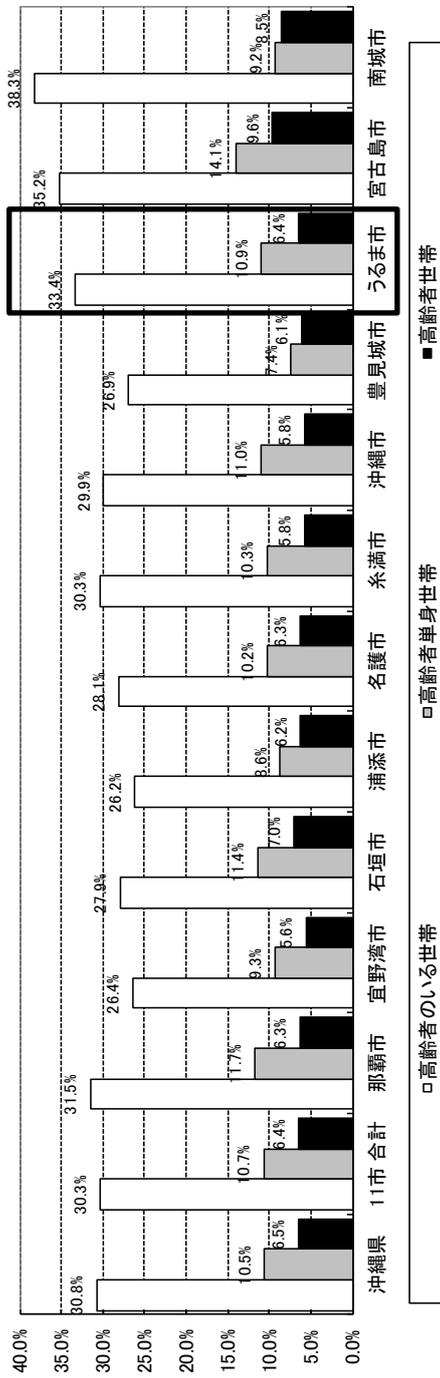
(平成25年10月1日現在)

(世帯)

	沖縄県	11市 合計	那覇市	宜野湾市	石垣市	浦添市	名護市	糸満市	沖縄市	豊見城市	うるま市	宮古島市	南城市
総世帯数	597,248	467,229	140,969	40,480	22,542	46,381	27,298	23,428	56,099	22,719	47,009	25,082	15,222
高齢者のいる世帯	183,844	141,611	44,432	10,700	6,298	12,132	7,675	7,110	16,773	6,108	15,712	8,841	5,830
高齢者単身世帯	62,977	50,011	16,551	3,759	2,572	4,007	2,793	2,411	6,176	1,677	5,134	3,527	1,404
高齢者世帯	38,887	30,046	8,905	2,268	1,581	2,880	1,717	1,353	3,232	1,392	3,023	2,404	1,291
その他	81,980	61,554	18,976	4,673	2,145	5,245	3,165	3,346	7,365	3,039	7,555	2,910	3,135

(平成25年10月1日現在)

	沖縄県	11市 合計	那覇市	宜野湾市	石垣市	浦添市	名護市	糸満市	沖縄市	豊見城市	うるま市	宮古島市	南城市
高齢者のいる世帯	30.8%	30.3%	31.5%	26.4%	27.9%	26.2%	28.1%	30.3%	29.9%	26.9%	33.4%	35.2%	38.3%
高齢者単身世帯	10.5%	10.7%	11.7%	9.3%	11.4%	8.6%	10.2%	10.3%	11.0%	7.4%	10.9%	14.1%	9.2%
高齢者世帯	6.5%	6.4%	6.3%	5.6%	7.0%	6.2%	6.3%	5.8%	5.8%	6.1%	6.4%	9.6%	8.5%
その他	13.7%	13.2%	13.5%	11.5%	9.5%	11.3%	11.6%	14.3%	13.1%	13.4%	16.1%	11.6%	20.6%



資料：高齢者福祉関係基礎調査

③高齢者の生活環境

平成 25 年住宅・土地統計調査より高齢世帯の居住面積水準についてみると、ほぼ最低居住面積水準*以上（99.7%）となっている。

市内の住宅のうち、高齢者のための何らかの設備がある住宅は 31.4%となっており、沖縄県（31.5%）と同等で全国（50.9%）に比べて低い状況にある。また、所有関係別でみると、「借家」は「持ち家」に比べ、高齢者対応が遅れている状況にある。

うるま市の高齢世帯の住まいの状況を見ると、65歳以上親族のいる一般世帯、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯ともに「持ち家」が8～9割と大半を占める。また、高齢単身世帯で「民営借家」が23.0%と、65歳以上親族のいる一般世帯、高齢夫婦世帯に比べて高い。

■高齢世帯の居住面積水準（うるま市、平成 25 年）

	世帯構成	総数	最低居住面積水準以上の世帯	最低居住面積水準未満世帯
うるま市	高齢夫婦世帯	2,900	2,890 99.7%	10 0.3%
	高齢単身世帯	3,480	3,370 96.8%	100 2.9%
沖縄県	高齢夫婦世帯	36,600	36,100 98.6%	600 1.6%
	高齢単身世帯	46,200	42,900 92.9%	3,200 6.9%
全国	高齢夫婦世帯	5,551,400	5,478,700 98.7%	68,300 1.2%
	高齢単身世帯	5,517,400	5,105,600 92.5%	390,000 7.1%

資料：住宅・土地統計調査

※最低居住面積水準

世帯人員に応じて、健康で文化的な住生活を営む基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準

1 二人以上の世帯で、床面積の合計(延べ面積)が次の算式以上を確保している。

$$10\text{m}^2 \times \text{世帯人員} + 10\text{m}^2$$

2 単身世帯の場合は、以下のいずれかを確保している。

(1) 29歳以下の単身者で、専用の台所があり、居住室の畳数が「4.5畳」以上

(2) 29歳以下の単身者で、共用の台所があり、居住室の畳数が「6.0畳」以上

(3) 30歳以上の単身者で、床面積の合計(延べ面積)が「25㎡」以上

■住宅の種類別高齢者等のための設備状況（平成25年）

	総数 ① ※1	総数 ② ※2	高齢者等のための設備がある											またぎやすい高さの浴槽	廊下などの幅が車椅子で通行可能	段差のない屋内	道路から玄関まで車椅子で通行可能	高齢者等のための設備はない
			手すりがある															
			総数 ③ ※3	玄関	トイレ	浴室	脱衣所	廊下	階段	居住室	その他							
うるま市	住宅総数	41,350	13,000 31.4%	8,750 21.2%	2,570 29.4%	4,890 55.9%	3,850 44.0%	750 8.6%	1,550 17.7%	4,190 47.9%	570 6.5%	290 3.3%	2,980 7.2%	5,690 13.8%	5,590 13.5%	3,090 7.5%	27,780 67.2%	
	専用住宅 ※3	40,710	12,770 31.4%	8,590 21.1%	2,540 29.6%	4,760 55.4%	3,810 44.4%	730 8.5%	1,520 17.7%	4,140 48.2%	560 6.5%	290 3.4%	2,880 7.1%	5,520 13.6%	5,510 13.5%	3,070 7.5%	27,410 67.3%	
	持ち家	23,380	9,770 41.8%	6,570 28.1%	2,210 33.6%	4,300 65.4%	3,340 50.8%	680 10.4%	1,360 20.7%	2,580 39.3%	530 8.1%	270 4.1%	2,670 11.4%	3,920 16.8%	3,930 16.8%	2,230 9.5%	13,600 58.2%	
	借家	16,800	3,000 17.9%	2,030 12.1%	330 16.3%	460 22.7%	470 23.2%	50 2.5%	170 8.4%	1,560 76.8%	30 1.5%	20 1.0%	210 1.3%	1,600 9.5%	1,570 9.3%	840 5.0%	13,810 82.2%	
	店舗その他の併用住宅	640	230 35.9%	160 25.0%	30 18.8%	130 81.3%	40 25.0%	10 6.3%	30 18.8%	50 31.3%	10 6.3%	-	100 15.6%	170 26.6%	90 14.1%	30 4.7%	370 57.8%	
沖縄県	住宅総数	537,300	169,500 31.5%	112,000 20.8%	29,600 26.4%	59,000 52.7%	50,100 44.7%	9,300 8.3%	17,200 15.4%	53,600 47.9%	6,100 5.4%	6,200 5.5%	36,200 6.7%	59,500 11.1%	77,500 14.4%	36,200 6.7%	356,000 66.3%	
	専用住宅 ※3	529,700	166,300 31.4%	109,600 20.7%	29,100 26.0%	57,700 51.5%	49,400 44.1%	9,000 8.0%	16,900 15.1%	52,200 46.6%	5,900 5.3%	6,100 5.4%	35,500 6.7%	58,400 11.0%	76,200 14.4%	35,600 6.7%	351,900 66.4%	
	持ち家	251,500	114,200 45.4%	82,800 32.9%	23,000 20.5%	48,400 43.2%	41,100 36.7%	7,200 6.4%	14,700 13.1%	36,500 32.6%	5,200 4.6%	4,400 3.9%	29,300 11.7%	40,800 16.2%	49,800 19.8%	25,900 10.3%	137,400 54.6%	
	借家	266,600	52,100 19.5%	26,800 10.1%	6,100 22.8%	9,300 34.7%	8,300 31.0%	1,800 6.7%	2,200 8.2%	15,800 59.0%	800 3.0%	1,700 6.3%	6,200 2.3%	17,600 6.6%	26,400 9.9%	9,700 3.6%	214,500 80.5%	
	店舗その他の併用住宅	7,600	3,300 43.4%	2,300 30.3%	500 21.7%	1,300 56.5%	700 30.4%	200 8.7%	300 13.0%	1,400 60.9%	100 4.3%	100 4.3%	700 9.2%	1,100 14.5%	1,200 15.8%	600 7.9%	4,100 53.9%	
全国	住宅総数	52,102,200	26,544,300 50.9%	21,233,900 40.8%	5,297,200 24.9%	10,342,000 48.7%	11,920,800 56.1%	1,587,000 7.5%	2,749,000 12.9%	13,436,600 63.3%	686,200 3.2%	424,900 2.0%	10,763,500 20.7%	8,457,200 16.3%	11,165,800 21.4%	6,436,300 12.4%	24,140,400 46.3%	
	専用住宅 ※3	50,981,700	25,886,300 50.8%	20,644,100 40.5%	5,183,500 25.1%	10,068,700 48.8%	11,672,300 56.5%	1,538,900 7.5%	2,650,300 12.8%	12,975,900 62.9%	661,100 3.2%	411,900 2.0%	10,538,200 20.7%	8,313,100 16.3%	11,007,400 21.6%	6,317,900 12.4%	23,706,000 46.5%	
	持ち家	31,184,200	20,518,800 65.8%	17,278,200 55.4%	4,217,600 24.4%	8,347,500 48.3%	9,868,800 57.1%	1,193,600 6.9%	2,308,400 13.4%	11,504,900 66.6%	526,700 3.0%	318,900 1.8%	9,063,500 29.1%	6,745,500 21.6%	8,551,400 27.4%	4,717,700 15.1%	10,665,400 34.2%	
	借家	18,408,000	5,367,400 29.2%	3,365,900 18.3%	965,900 28.7%	1,721,200 51.1%	1,803,500 53.6%	345,300 10.3%	341,900 10.2%	1,471,000 43.7%	134,300 4.0%	93,000 2.8%	1,474,700 8.0%	1,567,600 8.5%	2,456,000 13.3%	1,600,200 8.7%	13,040,600 70.8%	
	店舗その他の併用住宅	1,120,500	658,100 58.7%	589,800 52.6%	113,600 19.3%	273,200 46.3%	248,500 42.1%	48,100 8.2%	98,700 16.7%	460,700 78.1%	25,100 4.3%	13,000 2.2%	225,200 20.1%	144,100 12.9%	158,500 14.1%	118,400 10.6%	434,400 38.8%	

※1 高齢者等のための設備状況「不詳」を含む
 ※2 複数回答であるため、内訳の合計とは必ずしも一致しない。
 ※3 専用住宅の所有の関係「不詳」を含む
 ※4 下段の%は総数①に対する割合。但し「手すりがある」の各項目については総数③に対する割合

資料：住宅・土地統計調査

■高齢世帯の所有関係別世帯数（平成25年）

	世帯構成	総数	持ち家	公営・公団・公社の借家	民営借家	給与住宅
うるま市	65歳以上親族のいる一般世帯	14,720	12,650 85.9%	220 1.5%	1,850 12.6%	0 0.0%
	高齢夫婦世帯	2,900	2,780 95.9%	0 0.0%	130 4.5%	0 0.0%
	高齢単身世帯	3,480	2,640 75.9%	30 0.9%	800 23.0%	0 0.0%
沖縄県	65歳以上親族のいる一般世帯	167,500	129,100 77.1%	7,200 4.3%	30,800 18.4%	100 0.1%
	高齢夫婦世帯	36,600	30,500 83.3%	1,300 3.6%	4,700 12.8%	0 0.0%
	高齢単身世帯	46,200	28,600 61.9%	3,200 6.9%	14,300 31.0%	100 0.2%
全国	65歳以上親族のいる一般世帯	20,843,900	17,246,600 82.7%	1,285,100 6.2%	2,229,300 10.7%	46,700 0.2%
	高齢夫婦世帯	5,551,400	4,872,400 87.8%	299,100 5.4%	364,200 6.6%	11,300 0.2%
	高齢単身世帯	5,517,400	3,621,800 65.6%	651,000 11.8%	1,209,800 21.9%	13,000 0.2%

※住宅の所有の関係「不詳」を含む

資料：住宅・土地統計調査

(3) 推計人口の検証

①人口フレーム検証

第5期計画(うるま市高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画)で示されている平成24年、平成25年の人口推計値(計画値)と住民基本台帳のデータ(実績値)を比較すると、外国人を除く総人口では、平成24年で182人実績値が下回り、平成25年で47人実績値が上回っている。

外国人を除く年齢構成別でみると、0～39歳では、平成24、25年ともに実績値が計画値を下回っている、一方で40～64歳では上回っている。第1号被保険者である65歳以上では、平成24年実績値が計画値を下回り、平成25年では上回っている。

65歳以上の内訳をみると、前期高齢者では、平成24、25年で実績値が上回っており、後期高齢者では、平成24年で実績値が下回り、平成25年で上回っているが、前期・後期高齢者ともに大きな差はない。

■推計値(計画値)と実績値の比較(外国人を除く)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年			平成25年		
	2009年	2010年	2011年	2012年			2013年		
	実績値	実績値	実績値	計画値	実績値	実績-計画	計画値	実績値	実績-計画
総人口	117,748	118,668	119,349	119,892	119,710	▲182	120,279	120,326	47
0～39歳	60,165	60,124	59,818	59,451	59,228	▲223	59,009	58,698	▲311
40～64歳(第2号被保険者)	37,502	38,319	39,239	39,396	39,469	73	39,462	39,690	228
65歳以上(第1号被保険者)	20,081	20,225	20,292	21,044	21,013	▲31	21,808	21,938	130
前期高齢者(65～74歳)	10,316	10,017	9,643	9,986	9,995	9	10,462	10,489	27
後期高齢者(75歳以上)	9,765	10,208	10,649	11,059	11,018	▲41	11,345	11,476	131
高齢化率	17.1%	17.0%	17.0%	17.6%	17.6%	—	18.1%	18.2%	—
65歳以上に占める前期高齢者の割合	51.4%	49.5%	47.5%	47.5%	47.6%	—	48.0%	47.8%	—
65歳以上に占める後期高齢者の割合	48.6%	50.5%	52.5%	52.5%	52.4%	—	52.0%	52.3%	—

※各年10月1日の実績値である。

※数字の単位未満は四捨五入することを原則としているため、内訳が一致しない場合がある。

資料:住民基本台帳

■推計値(計画値)と実績値の比較(外国人を含む)

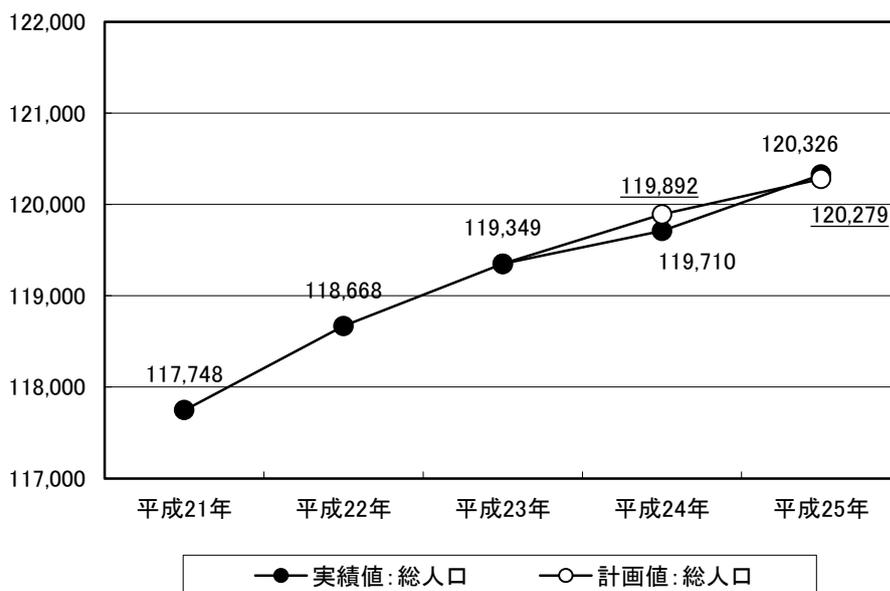
	平成24年			平成25年		
	2012年			2013年		
	計画値	実績値	実績-計画	計画値	実績値	実績-計画
総人口	119,892	120,205	313	120,279	120,860	581
0～39歳	59,451	59,471	20	59,009	58,952	▲57
40～64歳(第2号被保険者)	39,396	39,657	261	39,462	39,894	432
65歳以上(第1号被保険者)	21,044	21,077	33	21,808	22,014	206
前期高齢者(65～74歳)	9,986	10,037	51	10,462	10,544	82
後期高齢者(75歳以上)	11,059	11,040	▲19	11,345	11,497	152
高齢化率	17.6%	17.5%	—	18.1%	18.2%	—
65歳以上に占める前期高齢者の割合	47.5%	47.6%	—	48.0%	47.9%	—
65歳以上に占める後期高齢者の割合	52.5%	52.4%	—	52.0%	52.2%	—

※各年10月1日の実績値である。

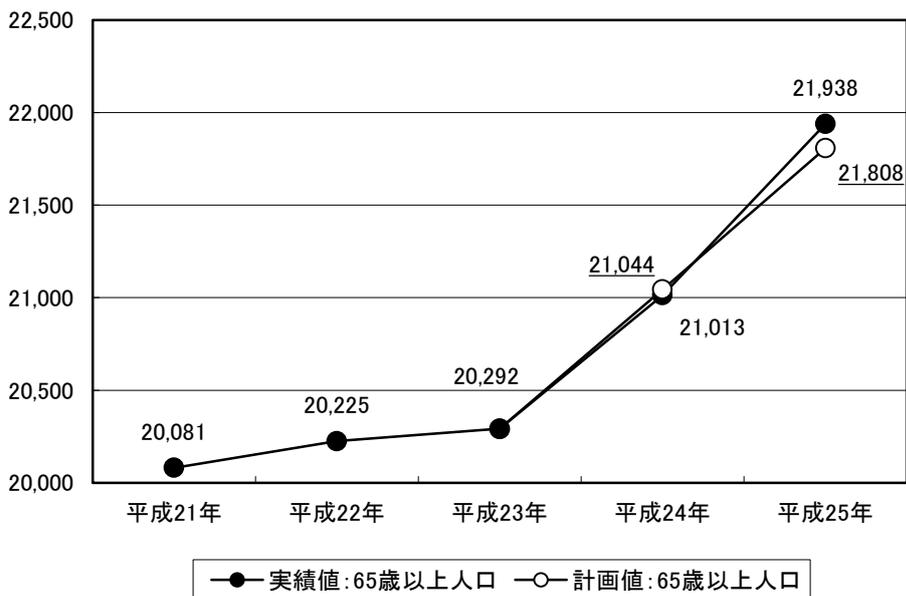
※数字の単位未満は四捨五入することを原則としているため、内訳が一致しない場合がある。

資料:住民基本台帳

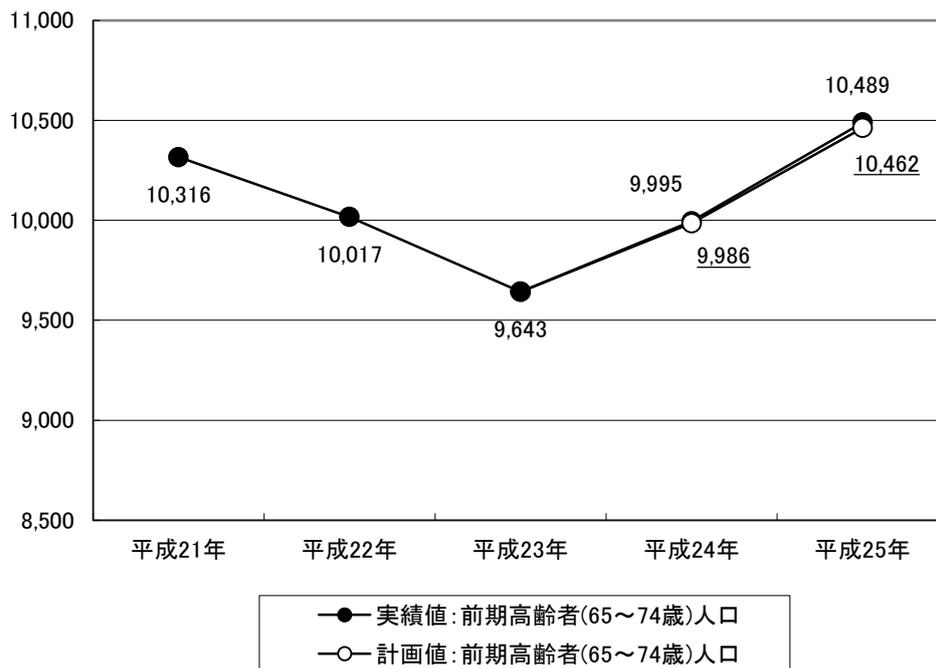
■ 総人口の実績値と計画値の比較



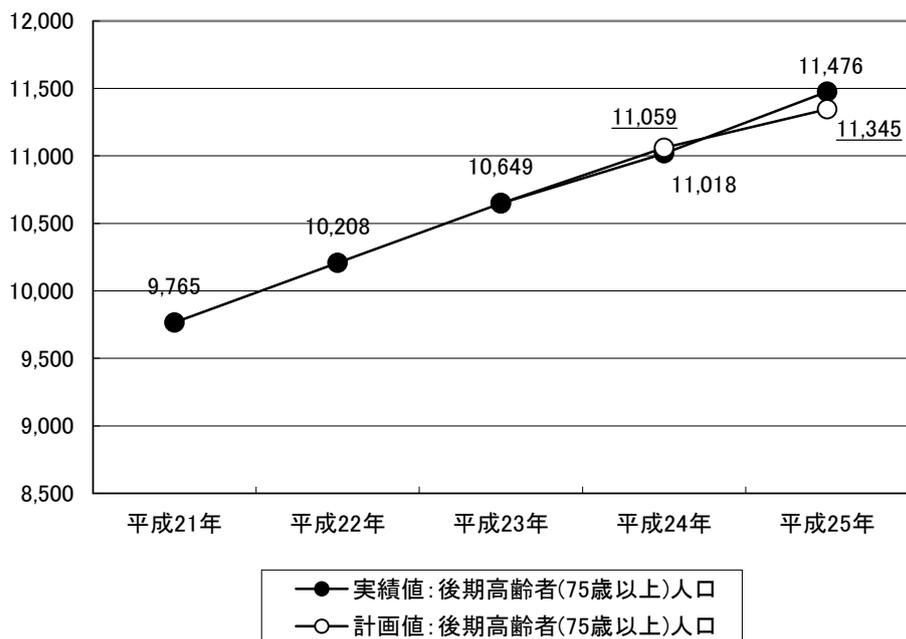
■ 65歳以上人口の実績値と計画値の比較



■ 65～74 歳（前期高齢者）人口の実績値と計画値の比較



■ 75 歳以上（後期高齢者）人口の実績値と計画値の比較



②要介護度別人口

要介護度別人口をみると、平成25年10月現在では、要支援1,090人、要介護3,369人となり、平成21年以降年々増加している。

平成21年の認定者人数を100とした伸び率の状況をみると、要介護2以下(軽度)、要介護4以上(重度)は増加傾向にある。要介護3(中程度)の伸びも増減を繰り返しながら平成25年にピークとなっている。

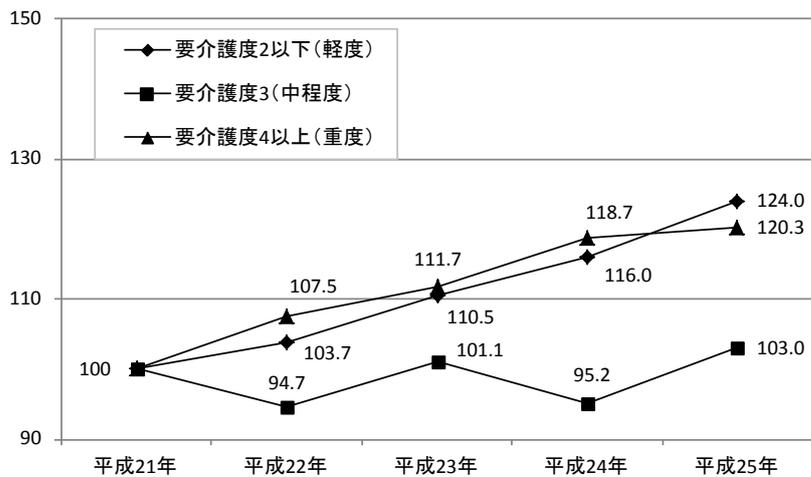
要介護度別認定者の割合をみると、平成21年から平成25年まで、軽度(要介護2以下)では増加傾向、中程度(要介護3)は、減少傾向で推移をしている。また、要介護4以上(重度)では増減があるものの、ほぼ横ばいで推移している。

■要介護度別認定者数の推移

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
総人口	117,748	118,668	119,349	120,205	120,860
介護保険被保険者人口					
65歳以上(第1号被保険者)	20,081	20,225	20,292	21,077	22,014
40～64歳(第2号被保険者)	37,502	38,319	39,239	39,657	39,894
合計	57,583	58,544	59,531	60,734	61,908
要介護度別人口(各年10月分)					
要支援1	265	290	347	371	404
要支援2	549	561	604	629	686
計	814	851	951	1,000	1,090
要介護1	633	601	630	654	685
要介護2	599	670	679	720	763
要介護3	640	606	647	609	659
要介護4	598	651	655	700	740
要介護5	451	477	517	545	522
計	2,921	3,005	3,128	3,228	3,369
合計	3,735	3,856	4,079	4,228	4,459
被保険者に占める認定者の割合	6.5%	6.6%	6.9%	7.0%	7.2%

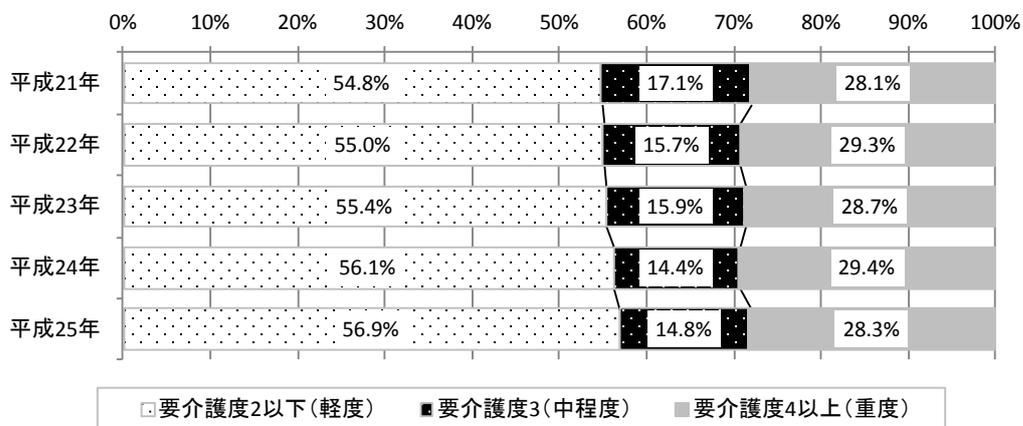
資料:介護保険事業状況報告(各年10月利用分)介護長寿課

■介護度別認定者の伸び(趨勢比、平成21年=100)



資料:介護保険事業状況報告(各年10月利用分)介護長寿課

■要介護度別認定者の割合



資料:介護保険事業状況報告(各年10月利用分)介護長寿課

③要介護認定者数に係る現計画の検証

要介護認定者数について、平成 24、25 年の実績値と計画値を比較すると、平成 24 年の要介護 3 を除いて実績値が計画値を大きく上回る状況となっている。

内訳をみると、要支援 1、2 で計画値と実績値の差が特に大きくなっており、実績値が計画値を上回っている。

■要介護度別認定者数(計画／実績)

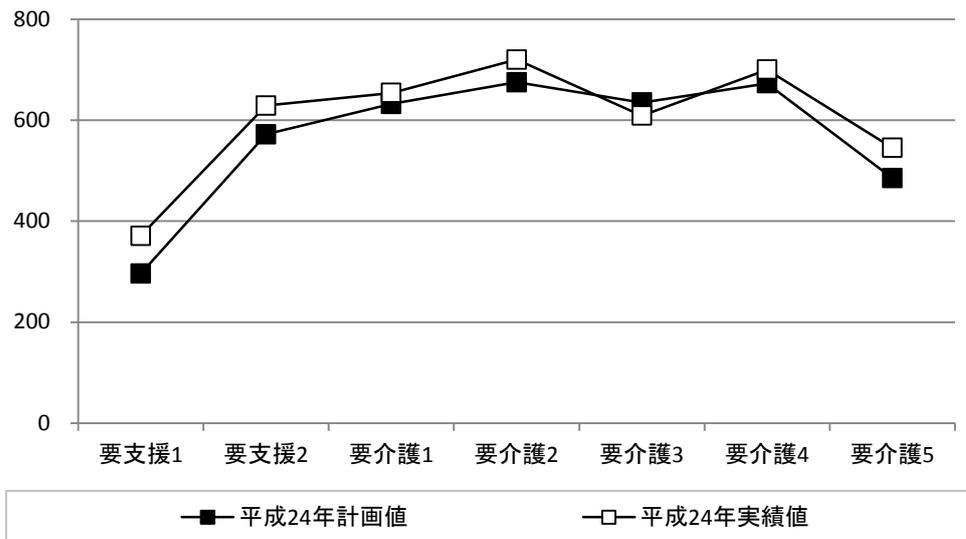
(各年10月認定者数)

	平成24年			平成25年		
	2012年			2013年		
	計画値	実績値	実績－計画	計画値	実績値	実績－計画
介護保険被保険者人口						
65歳以上(第1号被保険者)	21,044	21,077	33	21,808	22,014	206
40-64歳(第2号被保険者)	39,396	39,657	261	39,462	39,894	432
合計	60,440	60,734	294	61,270	61,908	638
要介護度別人口(各年10月分)						
要支援1	296	371	75	305	404	99
要支援2	572	629	57	589	686	97
計	868	1,000	132	894	1,090	196
要介護1	632	654	22	651	685	34
要介護2	675	720	45	695	763	68
要介護3	635	609	▲26	654	659	5
要介護4	673	700	27	693	740	47
要介護5	485	545	60	499	522	23
計	3,100	3,228	128	3,192	3,369	177
合計	3,968	4,228	260	4,086	4,459	373
被保険者に占める認定者の割合	6.6%	7.0%	-	6.7%	7.2%	-

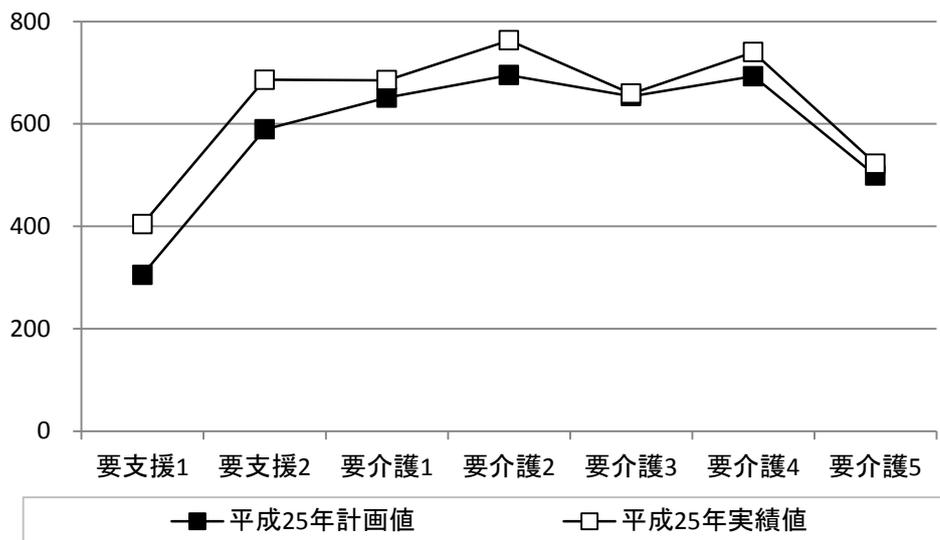
※認定者数は2号被保険者を含む

資料：介護保険事業状況報告(各年10月利用分)介護長寿課

■平成 24 年計画値、実績値



■平成 25 年計画値、実績値



(4) 第2号被保険者の特定疾病の推移

第2号被保険者（40～64歳）が要介護認定を受ける要因となった特定疾病者数の推移は下表の通りとなっている。

平成25年10月現在の特定疾病者数は総数で200名となっており、疾病別にみると「脳血管疾患」の割合がどの年も6割を超えて高い状況となっている。

平成21年からの推移をみると、平成21年から平成24年まで増加傾向、平成25年に減少している。

■ 第2号被保険者の特定疾病者数の推移（各年10月現在）

特定疾病名	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	実数	割合								
筋萎縮性側索硬化症	4	2.4%	5	2.8%	5	2.6%	4	1.9%	3	1.5%
後縦靭帯骨化症	2	1.2%	2	1.1%	2	1.0%	2	0.9%	3	1.5%
骨折を伴う骨粗しょう症	2	1.2%	1	0.6%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.0%
多系統萎縮症	0	0.0%	2	1.1%	4	2.0%	5	2.3%	1	0.5%
初老期における認知症	10	5.9%	11	6.1%	14	7.1%	16	7.4%	10	5.0%
脊髄小脳変性症	2	1.2%	3	1.7%	2	1.0%	3	1.4%	1	0.5%
脊柱管狭窄症	1	0.6%	1	0.6%	1	0.5%	4	1.9%	4	2.0%
早老症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症	14	8.3%	15	8.4%	13	6.6%	14	6.5%	10	5.0%
脳血管疾患	112	66.3%	126	70.4%	134	68.4%	132	61.1%	132	66.0%
パーキンソン病関連疾患	4	2.4%	3	1.7%	3	1.5%	7	3.2%	6	3.0%
閉塞性動脈硬化症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
がん(末期)	11	6.5%	4	2.2%	9	4.6%	19	8.8%	18	9.0%
慢性関節リウマチ	6	3.6%	5	2.8%	6	3.1%	8	3.7%	8	4.0%
慢性閉塞性肺疾患	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性関節症	1	0.6%	1	0.6%	1	0.5%	1	0.5%	2	1.0%
合計	169	100.0%	179	100.0%	196	100.0%	216	100.0%	200	100.0%

2. 介護保険サービスの利用実態

(1) 居宅・施設別サービス利用者数の推移（前回資料）

平成 25 年 10 月現在の介護保険の利用人数をみると、総数で 3,924 人となっており、その内訳は居宅サービス利用者が 2,947 人、地域密着型サービス利用者が 173 人、施設サービス利用者が 804 人で、総数に占める居宅サービス利用者の割合は 8 割弱(79.5%)となっている。

この間の推移をみると、居宅サービス利用者数及び割合では、平成 21 年の 2,506 人、75.5% から年々増加しており、居宅サービス利用が進んでいる。一方で、施設サービス利用者数は平成 22 年にピークを迎えているが、23 年以降は減少がみられ、25 年で再び増加している。

また、現計画（第 5 期介護保険事業計画）で算出した利用者数の計画値と実績を比較すると、居宅サービス利用者の割合は、平成 24、25 年ともに実績値が計画値を上回っている。

■介護保険サービス利用者の推移(平成 21～25 年)

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
実績値	合 計 (人)	3,321	3,563	3,563	3,707	3,924
	居宅サービス利用人数 (地域密着型サービス含む) (人)	2,506	2,735	2,784	2,938	3,120
	施設サービス利用人数 (人)	815	828	779	769	804
	居宅サービス利用人数の割合	75.5%	76.8%	78.1%	79.3%	79.5%
第5期 事業計画 計画値	合 計 (人)	—	—	—	3,483	3,578
	居宅サービス利用人数 (地域密着型サービス含む) (人)	—	—	—	2,714	2,814
	施設サービス利用人数 (人)	—	—	—	769	764
	居宅サービス利用人数の割合	—	—	—	77.9%	78.6%

資料：介護保険事業報告

(2) サービス別利用者数の推移

①居宅サービス利用状況

平成 25 年 10 月現在の介護度別居宅サービス利用率を見ると、全体では「通所介護」(39.0%)、「福祉用具貸与」(25.6%)、「通所リハビリテーション」(13.1%)、「訪問介護」(11.8%)の利用率が高く、『訪問通所サービス』が居宅サービスの9割強(92.7%)を占めている。

■介護度別居宅サービス種類別利用者数・利用率(平成 25 年 10 月期)

	全体		要支援1		要支援2		予防給付計		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		介護給付計	
	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率
訪問通所サービス	4,938	92.7%	349	97.5%	706	98.5%	1,055	98.1%	746	94.4%	1,011	94.2%	790	92.3%	781	88.6%	555	85.1%	3,883	91.3%
訪問介護	627	11.8%	57	15.9%	98	13.7%	155	14.4%	103	13.0%	121	11.3%	76	8.9%	97	11.0%	75	11.5%	472	11.1%
訪問入浴介護	22	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	3	0.3%	17	2.6%	22	0.5%
訪問看護	88	1.7%	1	0.3%	4	0.6%	5	0.5%	9	1.1%	12	1.1%	10	1.2%	24	2.7%	28	4.3%	83	2.0%
訪問リハビリテーション	58	1.1%	0	0.0%	4	0.6%	4	0.4%	3	0.4%	9	0.8%	7	0.8%	14	1.6%	21	3.2%	54	1.3%
通所介護	2,079	39.0%	194	54.2%	326	45.5%	520	48.4%	377	47.7%	447	41.7%	317	37.0%	265	30.1%	153	23.5%	1,559	36.7%
通所リハビリテーション	700	13.1%	59	16.5%	123	17.2%	182	16.9%	141	17.8%	147	13.7%	99	11.6%	81	9.2%	50	7.7%	518	12.2%
福祉用具貸与	1,364	25.6%	38	10.6%	151	21.1%	189	17.6%	113	14.3%	275	25.6%	279	32.6%	297	33.7%	211	32.4%	1,175	27.6%
短期入所サービス	137	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	2.2%	21	2.0%	30	3.5%	38	4.3%	31	4.8%	137	3.2%
短期入所生活介護	100	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	1.6%	15	1.4%	23	2.7%	28	3.2%	21	3.2%	100	2.4%
短期入所療養介護(老人保健施設)	37	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.5%	6	0.6%	7	0.8%	10	1.1%	10	1.5%	37	0.9%
短期入所療養介護(介護療養型医療施設)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他の単品サービス	200	3.8%	5	1.4%	2	0.3%	7	0.7%	21	2.7%	26	2.4%	26	3.0%	57	6.5%	63	9.7%	193	4.5%
居宅療養管理指導	156	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	1.5%	19	1.8%	21	2.5%	47	5.3%	57	8.7%	156	3.7%
特定施設入所者生活介護	44	0.8%	5	1.4%	2	0.3%	7	0.7%	9	1.1%	7	0.7%	5	0.6%	10	1.1%	6	0.9%	37	0.9%
福祉用具購入費	29	0.5%	1	0.3%	4	0.6%	5	0.5%	4	0.5%	9	0.8%	6	0.7%	3	0.3%	2	0.3%	24	0.6%
住宅改修費	23	0.4%	3	0.8%	5	0.7%	8	0.7%	2	0.3%	6	0.6%	4	0.5%	2	0.2%	1	0.2%	15	0.4%
合計	5,327	100.0%	358	100.0%	717	100.0%	1,075	100.0%	790	100.0%	1,073	100.0%	856	100.0%	881	100.0%	652	100.0%	4,252	100.0%

資料:介護保険事業報告

予防給付の居宅サービス利用率の推移を見ると、利用の多いサービスは上記と同様に「通所介護」等であるが、「通所介護」、「福祉用具貸与」の利用率は増加傾向、「通所リハビリテーション」、「訪問介護」は減少傾向で推移している。

■居宅サービス種類別利用者数・利用率(予防給付)(平成 21~25 年、各年 10 月期)

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率
訪問通所サービス	791	98.3%	845	97.7%	922	97.2%	977	97.0%	1,055	98.1%
訪問介護	159	19.8%	144	16.6%	160	16.9%	155	15.4%	155	14.4%
訪問入浴介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
訪問看護	8	1.0%	9	1.0%	9	0.9%	9	0.9%	5	0.5%
訪問リハビリテーション	6	0.7%	5	0.6%	8	0.8%	3	0.3%	4	0.4%
通所介護	336	41.7%	390	45.1%	414	43.6%	459	45.6%	520	48.4%
通所リハビリテーション	194	24.1%	198	22.9%	210	22.1%	199	19.8%	182	16.9%
福祉用具貸与	88	10.9%	99	11.4%	121	12.8%	152	15.1%	189	17.6%
短期入所サービス	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
その他の単品サービス	1	0.1%	4	0.5%	5	0.5%	8	0.8%	7	0.7%
居宅療養管理指導	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%	0	0.0%
特定施設入所者生活介護	0	0.0%	4	0.5%	4	0.4%	6	0.6%	7	0.7%
福祉用具購入費	7	0.9%	10	1.2%	10	1.1%	7	0.7%	5	0.5%
住宅改修費	6	0.7%	4	0.5%	12	1.3%	14	1.4%	8	0.7%
合計	805	100.0%	865	100.0%	949	100.0%	1,007	100.0%	1,075	100.0%

資料:介護保険事業報告

介護給付の居宅サービス利用率の推移をみると、予防給付と同様に「通所介護」、「福祉用具貸与」の利用率は増加傾向、「通所リハビリテーション」、「訪問介護」は減少傾向で推移している。

■居宅サービス種類別利用者数・利用率(介護給付)(平成21～25年、各年10月期)

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	利用人数	利用率								
訪問通所サービス	3,049	92.1%	3,200	91.0%	3,454	92.1%	3,648	90.8%	3,883	91.3%
訪問介護	455	13.8%	453	12.9%	428	11.4%	448	11.2%	472	11.1%
訪問入浴介護	24	0.7%	23	0.7%	17	0.5%	21	0.5%	22	0.5%
訪問看護	88	2.7%	82	2.3%	81	2.2%	84	2.1%	83	2.0%
訪問リハビリテーション	45	1.4%	51	1.5%	52	1.4%	59	1.5%	54	1.3%
通所介護	1,093	33.0%	1,182	33.6%	1,338	35.7%	1,394	34.7%	1,559	36.7%
通所リハビリテーション	581	17.6%	598	17.0%	622	16.6%	601	15.0%	518	12.2%
福祉用具貸与	763	23.1%	811	23.1%	916	24.4%	1,041	25.9%	1,175	27.6%
短期入所サービス	132	4.0%	148	4.2%	149	4.0%	157	3.9%	137	3.2%
その他の単品サービス	98	3.0%	134	3.8%	123	3.3%	172	4.3%	193	4.5%
居宅療養管理指導	81	2.4%	111	3.2%	97	2.6%	140	3.5%	156	3.7%
特定施設入所者生活介護	17	0.5%	23	0.7%	26	0.7%	32	0.8%	37	0.9%
福祉用具購入費	17	0.5%	25	0.7%	15	0.4%	22	0.5%	24	0.6%
住宅改修費	13	0.4%	10	0.3%	9	0.2%	17	0.4%	15	0.4%
合計	3,309	100.0%	3,517	100.0%	3,750	100.0%	4,016	100.0%	4,252	100.0%

資料:介護保険事業報告

②地域密着型サービス利用状況

平成25年10月現在の地域密着型サービスの利用率をみると、予防給付では「小規模多機能型居宅介護」が約9割(90.9%)と大半を占め、介護給付では「小規模多機能型居宅介護」(35.0%)、「認知症対応型共同生活介護」(33.8%)、「認知症対応型通所介護」(31.3%)がそれぞれ3割強となっている。

■介護度別地域密着型サービス種類別利用者数・利用率(平成25年10月期)

	全体		要支援1		要支援2		予防給付計		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		介護給付計	
	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率
地域密着型サービス	171	100.0%	3	100.0%	8	100.0%	11	100.0%	23	100.0%	38	100.0%	50	100.0%	34	100.0%	15	100.0%	160	100.0%
夜間対応型訪問介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
認知症対応型通所介護	51	29.8%	0	0.0%	1	12.5%	1	9.1%	7	30.4%	9	23.7%	21	42.0%	8	23.5%	5	33.3%	50	31.3%
小規模多機能型居宅介護	66	38.6%	3	100.0%	7	87.5%	10	90.9%	9	39.1%	13	34.2%	14	28.0%	15	44.1%	5	33.3%	56	35.0%
認知症対応型共同生活介護	54	31.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	30.4%	16	42.1%	15	30.0%	11	32.4%	5	33.3%	54	33.8%
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

資料:介護保険事業報告

■地域密着型サービス種類別利用者数・利用率(予防給付)(平成21～25年、各年10月期)

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	利用人数	利用率								
地域密着型サービス	12	100.0%	10	100.0%	12	100.0%	12	100.0%	11	100.0%
夜間対応型訪問介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
認知症対応型通所介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	1	9.1%
小規模多機能型居宅介護	12	100.0%	10	100.0%	12	100.0%	11	91.7%	10	90.9%
認知症対応型共同生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

■地域密着型サービス種類別利用者数・利用率(介護給付)(平成21～25年、各年10月期)

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	利用人数	利用率								
地域密着型サービス	97	100.0%	98	100.0%	113	100.0%	151	100.0%	160	100.0%
夜間対応型訪問介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
認知症対応型通所介護	25	25.8%	28	28.6%	26	23.0%	49	32.5%	50	31.3%
小規模多機能型居宅介護	31	32.0%	28	28.6%	38	33.6%	43	28.5%	56	35.0%
認知症対応型共同生活介護	41	42.3%	42	42.9%	49	43.4%	59	39.1%	54	33.8%
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

③施設サービス利用状況

介護保険3施設の利用状況をみると、平成25年(10月期)の利用人数は合計804人となっている。

施設別の利用人数をみると、介護福祉老人施設(以下、特養)が455人、介護老人保健施設(以下、老健)が323人、介護療養型医療施設(以下、療養型)が26人となっており、平成21年からの推移をみると、この間、特養及び老健は、僅かに増減を繰り返しながらも横ばいとなっている。療養型にいたっては、平成22年から平成23年にかけて大きく減少しているものの、平成23年以降はほぼ横ばいとなっている。

また、介護度別の利用状況をみると、重度(要介護4以上)の利用者数は536人で、全体に対する重度者の割合は合計66.7%となっており、国の示している目標値(70%以上)を下回っている。施設別でみると、療養型では9割を超え(96.2%)、特養は7割強(74.5%)、老健は5割強(53.3%)となっている。

■施設サービス種類別利用者数・利用率(平成21～25年、各年10月期)

	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	利用人数	利用率								
介護老人福祉施設(特養)	434	52.8%	441	52.8%	454	57.5%	446	56.4%	455	56.6%
伸び(人、伸び率)	—		7	1.6%	13	2.9%	-8	-1.8%	9	2.0%
介護老人保健施設(老健)	313	38.1%	319	38.2%	310	39.3%	319	40.3%	323	40.2%
伸び(人、伸び率)	—		6	1.9%	-9	-2.8%	9	2.9%	4	1.3%
介護療養型医療施設(療養型)	75	9.1%	76	9.1%	25	3.2%	26	3.3%	26	3.2%
伸び(人、伸び率)	—		1	1.3%	-51	-67.1%	1	4.0%	0	0.0%
合計	822	100.0%	836	100.0%	789	100.0%	791	100.0%	804	100.0%
伸び(人、伸び率)	—		14	1.7%	-47	-5.6%	2	0.3%	13	1.6%

資料：介護保険事業報告

■介護度別・施設サービス利用者数(平成25年10月期)

	全体	要支援1	要支援2	予防給付合計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護給付合計
介護老人福祉施設(特養)	455	0	0	0	7	15	94	187	152	455
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設(老健)	323	0	0	0	36	43	72	107	65	323
介護療養型医療施設(療養型)	26	0	0	0	0	0	1	10	15	26
合計	804	0	0	0	43	58	167	304	232	804

資料：介護保険事業報告

■重度者(要介護4・5)の占める割合(平成25年10月期)

	利用者数	要介護4以上	利用者に占める割合	(参考) H26年度目標値
介護老人福祉施設(特養)	455	339	74.5%	80.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	—	80.0%
介護老人保健施設(老健)	323	172	53.3%	55.0%
介護療養型医療施設(療養型)	26	25	96.2%	90.0%
合計	804	536	66.7%	70.0%

資料：介護保険事業報告

④施設・居住系サービス利用状況

施設・居住系サービス種類別利用状況をみると、平成25年(10月期)の利用人数は合計902人となっており、利用者数は増加傾向にある。

施設・居住系サービス利用者数の要介護2以上認定者数(2,684人)に対する割合は33.6%となっており、平成21年以降減少傾向にある。

■施設・居住系サービス種類別利用者数(平成25年10月期)

		全体	要支援 1	要支援 2	予防給 付合計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	介護給 付合計
施設系サービス	介護老人福祉施設	455	0	0	0	7	15	94	187	152	455
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護老人保健施設	323	0	0	0	36	43	72	107	65	323
	介護療養型医療施設	26	0	0	0	0	0	1	10	15	26
	計	804	0	0	0	43	58	167	304	232	804
居住系サービス	特定施設入所者生活介護	44	5	2	7	9	7	5	10	6	37
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	認知症対応型共同生活介護	54	0	0	0	7	16	15	11	5	54
	計	98	5	2	7	16	23	20	21	11	91
合計		902	5	2	7	59	81	187	325	243	895
認定者数		4,459	404	686	1,090	685	763	659	740	522	3,369

資料：介護保険事業報告

■施設・居住系サービス種類別利用者数の推移

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
施設系サービス	介護老人福祉施設	434	441	454	446	455
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0
	介護老人保健施設	313	319	310	319	323
	介護療養型医療施設	75	76	25	26	26
	計	822	836	789	791	804
居住系サービス	特定施設入所者生活介護	17	27	30	38	44
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0
	認知症対応型共同生活介護	41	42	49	59	54
	計	58	69	79	97	98
合計		880	905	868	888	902
要介護2以上認定者数		2,288	2,404	2,498	2,574	2,684
施設・居住系サービス利用者数/要介護2以上認定者数		38.5%	37.6%	34.7%	34.5%	33.6%

資料：介護保険事業報告

(3) 介護保険サービス給付額の推移

①給付額の状況

給付費は平成25年10月現在で約6.1億円となっており、その内訳は居宅介護サービスが約3.7億円(60.4%)、地域密着型サービス0.3億円(5.4%)、施設サービス約2.1億円(34.2%)となっている。この間の推移をみると、居宅介護サービス及び地域密着型サービスの給付費は増加傾向、施設サービスは平成23年度に減少し、その後微増傾向となっている。各サービスの割合をみると、居宅介護サービス、地域密着型サービスが微増傾向、施設サービスは減少傾向となっている。

平成25年の給付費を計画値と比較すると、通所介護の利用が計画値を大きく上回っており、他サービスに比べて利用が進んでいる。一方、通所リハビリテーションでは計画値を大きく下回っている。

■総給付費の推移(平成21~25年、各年10月期)

(単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
居宅介護サービス	285,202 55.0%	297,940 55.3%	328,048 59.2%	348,751 59.6%	368,926 60.4%
地域密着型サービス	18,585 3.6%	20,369 3.8%	23,787 4.3%	31,396 5.4%	32,715 5.4%
施設サービス	214,878 41.4%	220,309 40.9%	202,581 36.5%	205,365 35.1%	208,681 34.2%
総数	518,665	538,618	554,415	585,512	610,322

資料：介護保険事業報告

■サービス種類別給付費(計画/実績)

(単位：千円)

	計 画				実 績				計画と実績の差(実績-計画)			
	平成24年度		平成25年度		平成24年10月		平成25年10月		平成24年度		平成25年度	
	うち予防給付分		うち予防給付分		うち予防給付分		うち予防給付分		うち予防給付分		うち予防給付分	
居宅介護サービス	343,236	30,015	356,048	30,864	348,751	32,955	368,926	34,398	5,515	2,940	12,878	3,535
訪問介護	32,185	3,270	33,377	3,359	30,894	3,298	32,517	3,335	-1,291	28	-860	-24
訪問入浴介護	1,719	0	1,719	0	1,693	0	1,442	0	-26	0	-278	0
訪問看護	2,665	229	2,729	229	2,806	278	3,540	218	140	49	811	-12
訪問リハビリテーション	2,044	90	2,044	90	2,317	108	2,494	175	273	18	449	85
居宅療養管理指導	713	5	736	5	787	14	896	0	73	9	160	-5
通所介護	170,770	14,207	177,613	14,631	179,123	15,614	199,847	17,421	8,352	1,408	22,234	2,790
通所リハビリテーション	72,165	7,940	75,000	8,178	67,780	7,929	60,774	7,283	-4,386	-11	-14,226	-895
短期入所サービス	12,181	39	12,589	39	11,567	19	10,861	0	-614	-20	-1,728	-39
福祉用具・住宅改修サービス	13,490	1,020	13,920	1,041	15,619	1,961	17,354	2,037	2,129	941	3,434	997
特定施設入所者生活介護	9,321	516	9,321	516	6,780	513	7,843	509	-2,541	-4	-1,478	-7
介護予防支援・居宅介護支援	25,983	2,699	27,000	2,776	29,388	3,222	31,360	3,421	3,405	522	4,360	645
地域密着型サービス	29,951	1,049	30,388	1,049	31,396	696	32,715	743	1,445	-353	2,327	-306
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	4,821	0	4,821	0	7,902	70	7,494	68	3,081	70	2,674	68
小規模多機能型居宅介護	13,142	1,049	13,579	1,049	9,501	626	11,673	675	-3,641	-423	-1,906	-374
認知症対応型共同生活介護	11,988	0	11,988	0	13,993	0	13,547	0	2,005	0	1,559	0
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設サービス	199,281	0	198,009	0	205,365	0	208,681	0	6,084	0	10,672	0
介護老人福祉施設	112,477	0	112,830	0	112,519	0	114,371	0	41	0	1,541	0
介護老人保健施設	81,252	0	81,400	0	83,501	0	84,639	0	2,249	0	3,239	0
介護療養型医療施設	5,552	0	3,779	0	9,345	0	9,671	0	3,793	0	5,892	0
総数	572,468	31,064	584,444	31,912	585,512	33,651	610,322	35,142	13,044	2,588	25,877	3,229

資料：介護保険事業報告

②要介護度別の支給限度額比率

対支給限度額比は要介護1がこの間伸びを見せている。その他はほぼ横ばい若しくは微減微増を繰り返している。

■要介護度別平均費用額・対支給額限度額比率の推移

	平均費用額(円)					支給限度額 (円)
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
要支援1	29,318	29,482	31,375	31,414	31,659	49,700
対支給限度額比	63.2%	63.7%	63.1%	63.1%	63.7%	
要支援2	53,649	51,769	54,641	53,333	54,404	104,000
対支給限度額比	51.3%	52.3%	52.5%	51.3%	52.3%	
要介護1	104,319	96,364	116,068	115,221	125,823	165,800
対支給限度額比	69.5%	75.9%	70.0%	69.5%	75.9%	
要介護2	133,398	125,441	153,996	153,109	154,620	194,800
対支給限度額比	78.6%	79.4%	79.1%	78.6%	79.4%	
要介護3	182,123	163,592	212,787	208,704	213,390	267,500
対支給限度額比	78.0%	79.8%	79.5%	78.0%	79.8%	
要介護4	207,839	203,807	249,144	246,125	246,169	306,000
対支給限度額比	80.4%	80.4%	81.4%	80.4%	80.4%	
要介護5	236,695	235,361	276,307	278,771	280,909	358,300
対支給限度額比	77.8%	78.4%	77.1%	77.8%	78.4%	

資料：介護保険事業報告

Ⅱ 日常生活圏域ニーズ調査結果

Ⅱ－1 市全域

- 1. 調査の概要.....25
- 2. 調査結果.....26

Ⅱ－2 日常生活圏域別

- 1. 回答者の属性.....99
- 2. 評価項目別の結果.....102
- 3. 疾病.....110
- 4. 介護.....113
- 5. 考察.....115

II 日常生活圏域ニーズ調査結果

II-1 市全域

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本市の介護保険事業計画の策定にあたり、本市の高齢者の状況や課題を把握することを目的とする。

(2) 調査の概要

調査対象：本市に居住する 65 歳以上の高齢者（要支援・要介護認定者を含む）

調査方法：調査員による配布・回収

調査期間：平成 26 年 8 月 5 日～同年 9 月 8 日

(3) 回収結果

対象者：2,145 件、有効回収数：1,617 件、有効回収率：75.4%

(4) 集計にあたって

- ・回答結果の割合について、回答率は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が 100%にならない場合がある。
- ・複数回答の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、割合を出している。そのため、比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- ・表や図中で、選択肢の文章が長いものは省略して載せている場合がある。また、「n」は集計の対象者数（設問の限定条件に該当する人の数）を表している。

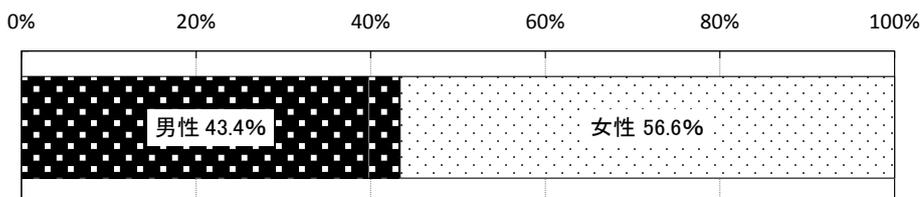
2. 調査結果

(1) 回答者の属性、生活状況等

1) 回答者の属性

①性別

- 回答者の性別は、男性が4割強（43.4%）、女性が6割弱（56.6%）となっている。



②年齢構成

- 回答者の年齢は、65～69歳が3割弱（26.6%）と多く、70～74歳（21.5%）および75～79歳（19.9%）が2割前後、80～84歳（17.0%）および85歳以上（15.0%）が2割弱となっている。
- 男女別にみると、女性の85歳以上の割合が男性と比べやや高くなっている。

上段:件数、下段:割合(%)

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
総数	1,617 100.0	430 26.6	348 21.5	321 19.9	275 17.0	243 15.0
男性	702 100.0	214 30.5	162 23.1	138 19.7	112 16.0	76 10.8
女性	915 100.0	216 23.6	186 20.3	183 20.0	163 17.8	167 18.3

③認定状況

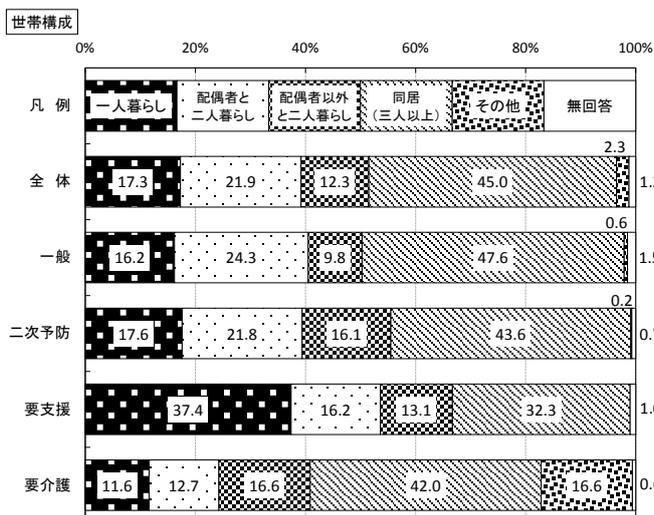
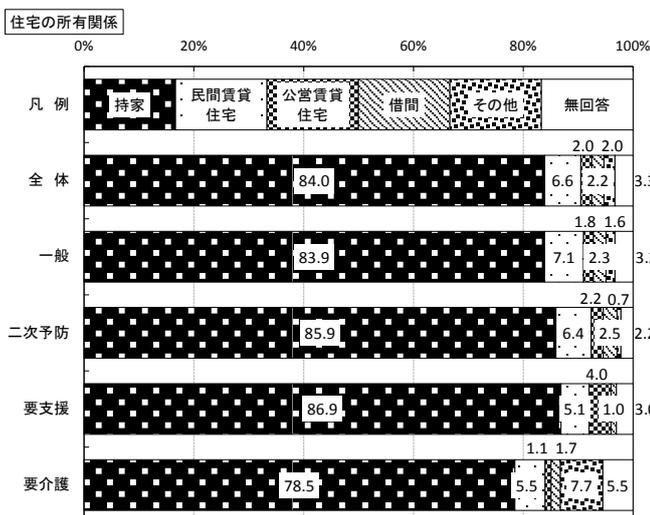
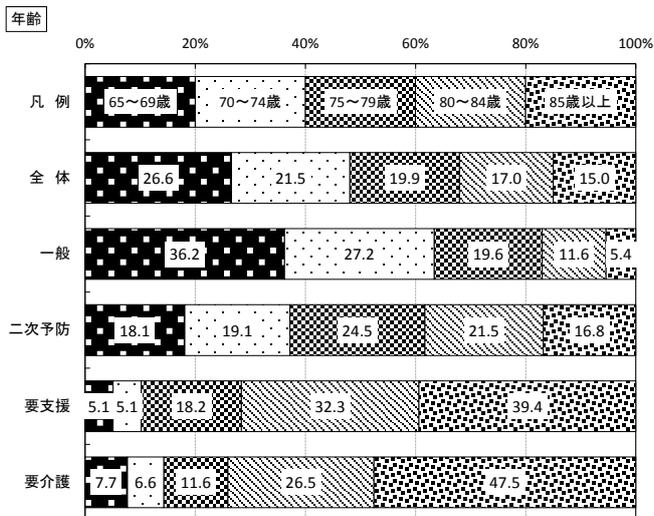
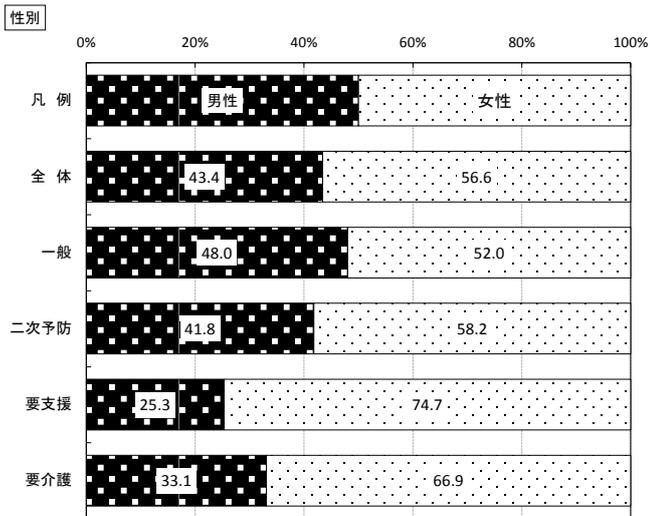
- 非認定者が8割強（82.7%）、認定者が2割弱（17.3%）となっている。
- 男女別にみると、男性では1割強（12.1%）、女性では2割強（21.3%）が認定者となっている。

上段:件数、下段:割合(%)

	全体	非認定	認定							
				支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
総数	1,617 100.0	1,337 82.7	280 17.3	41 2.5	58 3.6	56 3.5	50 3.1	26 1.6	34 2.1	15 0.9
男性	702 100.0	617 87.9	85 12.1	12 1.7	13 1.9	20 2.8	13 1.9	12 1.7	11 1.6	4 0.6
女性	915 100.0	720 78.7	195 21.3	29 3.2	45 4.9	36 3.9	37 4.0	14 1.5	23 2.5	11 1.2

(認定状況別の属性)

- ・【性別】女性の方が介護認定（要支援・要介護）を受ける割合が高い。
- ・【年齢】認定状況があがるにつれ高い年齢が占める割合も高くなる傾向にあり、『75歳以上』が占める割合は、一般高齢者4割弱（36.6%）に対し、二次予防事業対象者は6割強（62.8%）、要支援認定者は約9割（89.9%）、要介護認定者は9割弱（85.6%）を占める。
- ・【住宅の所有関係】どの認定状況においても「持家」が多いが、要介護認定者は他の認定状況に比べて「その他」の割合が高い。
- ・【世帯構成】要支援認定者では、「一人暮らし」の割合が4割弱（37.4%）を占め、他の認定状況よりも割合が高い。



④日常生活圏域

- ・具志川第1地区が2割強（21.9%）、勝連地区、与那城地区、具志川第2地区、石川地区がそれぞれ約2割となっている。なお、地区ごとの回収率は、具志川第1地区が9割弱（88.5%）とやや高く、具志川第2地区は8割弱（78.8%）とやや低い。

上段:件数、下段:割合(%)

	全 体	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
総 数	1,617 100.0	319 19.7	315 19.5	354 21.9	315 19.5	314 19.4
男性	702 100.0	148 21.1	133 18.9	149 21.2	145 20.7	127 18.1
女性	915 100.0	171 18.7	182 19.9	205 22.4	170 18.6	187 20.4

(参考) 地区ごとの回収数 (率)

	全 体	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
対象者	1,950	380	380	400	400	390
回収数	1,617	319	315	354	315	314
回収率%	82.9	83.9	82.9	88.5	78.8	80.5

⑤住宅の所有関係

- ・「持家」が8割強（84.0%）を占め、次いで「民間賃貸住宅」（6.6%）となっている。

上段:件数、下段:割合(%)

	全 体	持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅	借間	その他	無回答
総 数	1,617 100.0	1,358 84.0	107 6.6	32 2.0	35 2.2	32 2.0	53 3.3
男性	702 100.0	600 85.5	43 6.1	12 1.7	13 1.9	14 2.0	20 2.8
女性	915 100.0	758 82.8	64 7.0	20 2.2	22 2.4	18 2.0	33 3.6

2) 家族や生活状況など

①世帯構成

- ・「同居（三人以上）」が5割弱（45.0%）を占め、以下「配偶者と二人暮らし」（21.9%）、「一人暮らし」（17.3%）、「配偶者以外と二人暮らし」（12.3%）と続いている。

上段:件数、下段:割合(%)

	全 体	一人暮らし	配偶者と 二人暮らし	配偶者以外 と二人暮らし	同居 (三人以上)	その他	無回答
総 数	1,617 100.0	280 17.3	354 21.9	199 12.3	728 45.0	37 2.3	19 1.2
男性	702 100.0	117 16.7	191 27.2	52 7.4	322 45.9	15 2.1	5 0.7
女性	915 100.0	163 17.8	163 17.8	147 16.1	406 44.4	22 2.4	14 1.5

②同居家族【問1-Q1-1】

- ・同居している家族は、「配偶者」が6割強（61.5%）で最も多く、次いで「息子」（46.4%）、「娘」（20.5%）、「孫」（19.7%）と続いている。

上段:件数、下段:割合(%)

		同居されている方はどなたですか(複数回答)							
		配偶者	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
総 数 (n=1,281)		788 61.5	595 46.4	263 20.5	140 10.9	252 19.7	45 3.5	63 4.9	52 4.1
生活 圏 域	勝連 (n=258)	172 66.7	122 47.3	41 15.9	35 13.6	56 21.7	9 3.5	9 3.5	16 6.2
	与那城 (n=248)	138 55.6	124 50.0	50 20.2	23 9.3	53 21.4	9 3.6	11 4.4	7 2.8
	具志川第1 (n=281)	174 61.9	133 47.3	73 26.0	35 12.5	60 21.4	8 2.8	17 6.0	10 3.6
	具志川第2 (n=244)	148 60.7	111 45.5	52 21.3	31 12.7	52 21.3	10 4.1	8 3.3	9 3.7
	石川 (n=250)	156 62.4	105 42.0	47 18.8	16 6.4	31 12.4	9 3.6	18 7.2	10 4.0

③日中、一人になること【問1-Q1-2】

- ・「一人暮らし」、「その他（施設入居など）」以外の方で、日中一人になることがあるかを尋ねたところ、「たまにある」が約4割（39.5%）、「よくある」が2割強（24.4%）で、「ない」は約3割（29.0%）となっている。

上段:件数、下段:割合(%)

		全 体	日中、一人になることがありますか			
			よくある	たまにある	ない	無回答
総 数		1,281 100.0	313 24.4	506 39.5	372 29.0	90 7.0
生活 圏 域	勝連	258 100.0	56 21.7	97 37.6	87 33.7	18 7.0
	与那城	248 100.0	65 26.2	94 37.9	73 29.4	16 6.5
	具志川第1	281 100.0	68 24.2	118 42.0	80 28.5	15 5.3
	具志川第2	244 100.0	56 23.0	98 40.2	65 26.6	25 10.2
	石川	250 100.0	68 27.2	99 39.6	67 26.8	16 6.4

④年金の種類【問1-Q3】

- 年金の種類は「国民年金」が6割強(58.7%)を占め、次いで「厚生年金(企業年金なし)」(14.1%)、「厚生年金(企業年金あり)」(11.9%)となっている。一方、「無年金」も5%程度みられる。

上段:件数、下段:割合(%)

		全体	年金の種類						
			国民年金	厚生年金 (企業年金あり)	厚生年金 (企業年金なし)	共済年金	無年金	その他	無回答
総数		1,617 100.0	949 58.7	192 11.9	228 14.1	90 5.6	70 4.3	36 2.2	52 3.2
生活圏域	勝連	319 100.0	213 66.8	29 9.1	36 11.3	12 3.8	12 3.8	5 1.6	12 3.8
	与那城	315 100.0	198 62.9	39 12.4	38 12.1	12 3.8	11 3.5	9 2.9	8 2.5
	具志川第1	354 100.0	192 54.2	46 13.0	62 17.5	15 4.2	19 5.4	7 2.0	13 3.7
	具志川第2	315 100.0	154 48.9	39 12.4	54 17.1	30 9.5	18 5.7	10 3.2	10 3.2
	石川	314 100.0	192 61.1	39 12.4	38 12.1	21 6.7	10 3.2	5 1.6	9 2.9

⑤暮らしの状況(経済的状況)【問1-Q4】

- 現在の暮らしの状況は「やや苦しい」4割強(44.1%)を占め、次いで「ややゆとりがある」(29.1%)となっている。
- 暮らしが『苦しい(苦しい+やや苦しい)』と感じている回答者が6割強(62.7%)としており、『ゆとりがある(ややゆとりがある+ゆとりがある)』と感じているのは3割強(32.1%)にとどまる。

上段:件数、下段:割合(%)

		全体	現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じますか				
			苦しい	やや苦しい	ややゆとり がある	ゆとりがある	無回答
総数		1,617 100.0	301 18.6	713 44.1	471 29.1	48 3.0	84 5.2
生活圏域	勝連	319 100.0	60 18.8	143 44.8	83 26.0	10 3.1	23 7.2
	与那城	315 100.0	64 20.3	157 49.8	79 25.1	9 2.9	6 1.9
	具志川第1	354 100.0	64 18.1	159 44.9	100 28.2	7 2.0	24 6.8
	具志川第2	315 100.0	63 20.0	124 39.4	98 31.1	15 4.8	15 4.8
	石川	314 100.0	50 15.9	130 41.4	111 35.4	7 2.2	16 5.1

⑥住居の状況【問1-Q5~Q7】

- 住まいの形態は「一戸建て」が8割強(76.7%)を占め、「集合住宅」は1割未満(6.2%)である。また、所有関係は「持家」が8割強(84.0%)を占め、次いで「民間賃貸住宅」(6.6%)となっている。
- 2階以上に住まいがある割合は約2割(20.5%)となっている。具志川第2地区では2階以上に住まいがある割合が若干高く、逆に与那城地区では若干低い。

上段:件数、下段:割合(%)

	全 体	住まいの形態			住まいの所有関係						
		一戸建て	集合住宅	無回答	持家	民間賃貸住宅	公営賃貸住宅	貸間	その他	無回答	
総 数	1,617 100.0	1,241 76.7	100 6.2	276 17.1	1,358 84.0	107 6.6	32 2.0	35 2.2	32 2.0	53 3.3	
生活圏域	勝連	319 100.0	258 80.9	4 1.3	57 17.9	285 89.3	8 2.5	2 0.6	6 1.9	8 2.5	10 3.1
	与那城	315 100.0	267 84.8	8 2.5	40 12.7	291 92.4	9 2.9	1 0.3	2 0.6	9 2.9	3 1.0
	具志川第1	354 100.0	257 72.6	22 6.2	75 21.2	289 81.6	27 7.6	5 1.4	10 2.8	4 1.1	19 5.4
	具志川第2	315 100.0	232 73.7	29 9.2	54 17.1	253 80.3	33 10.5	7 2.2	4 1.3	8 2.5	10 3.2
	石川	314 100.0	227 72.3	37 11.8	50 15.9	240 76.4	30 9.6	17 5.4	13 4.1	3 1.0	11 3.5

	全 体	住まいは2階以上にありますか			
		はい	いいえ	無回答	
総 数	1,617 100.0	331 20.5	1,208 74.7	78 4.8	
生活圏域	勝連	319 100.0	57 17.9	247 77.4	15 4.7
	与那城	315 100.0	43 13.7	261 82.9	11 3.5
	具志川第1	354 100.0	72 20.3	255 72.0	27 7.6
	具志川第2	315 100.0	87 27.6	214 67.9	14 4.4
	石川	314 100.0	72 22.9	231 73.6	11 3.5

(2) 評価項目別の結果

ここでは、本調査の質問項目に含まれる基本チェックリスト評価項目（25項目）より、その評価・判定にもとづき、生活機能の低下や要支援などに移行する可能性の高い該当者（リスク者）や高齢者の状況把握を行う。

■ 二次予防判定

○基本チェックリスト

うつ予防 2問以上 「注意」	認知症 いずれか で 「注意」	閉じこもり 予防 該当 「該当」	口腔機能 2問以上 「該当」	栄養改善 全てで該 当 「該当」	運動器 3問以上 「該当」	虚弱 10問以上 「該当」	No.	質問項目	回答
							問6-Q1	バスや電車で1人で外出していますか	2.できるけどしていない or 3.できない
							問6-Q2	日用品の買い物をしていますか	2.できるけどしていない or 3.できない
							問6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか	2.できるけどしていない or 3.できない
							問7-Q5	友人の家を訪ねていますか	2.いいえ
							問7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか	2.いいえ
							問2-Q1	階段を手すりや壁につたわらずに昇っていますか	2.いいえ
							問2-Q2	いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	2.いいえ
							問2-Q3	15分位続けて歩いていますか	2.いいえ
							問3-Q1	この1年間に転んだことがありますか	1.はい
							問3-Q2	転倒に対する不安は大きいですか	1.はい
							問4-Q1	6ヶ月間で2～3kgの体重減少がありましたか	1.はい
							問4-Q2	BMIが18.5未満ですか	1.はい
							問4-Q3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい
							問4-Q4	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい
							問4-Q5	口の渇きが気になりますか	1.はい
							問2-Q5	週に1回以上は外出していますか	2.いいえ
							問2-Q6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい
							問5-Q1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」など物忘れがあるといわれますか	1.はい
							問5-Q2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2.いいえ
							問5-Q3	今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい
							問8-Q8	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1.はい
							問8-Q9	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい
							問8-Q10	(ここ2週間)以前は薬にできていたことが今はおっくうに感じられる	1.はい
							問8-Q11	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だとは思えない	1.はい
							問8-Q12	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1.はい

老研指標

①手段的自立度

問番号	設問	選択肢
問6-Q1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「1.できるし、している」または 「2.できるけどしていない」 1点
問6-Q2	日用品の買物をしていますか	
問6-Q3	自分で食事の用意をしていますか	
問6-Q4	請求書の支払をしていますか	
問6-Q5	預貯金の出し入れをしていますか	

○ 5点:高い ○ 4点:やや低い ○ 0~3点:低い

②知的能動性

問番号	項目	選択肢
問7-Q1	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1.はい」:1点
問7-Q2	新聞を読んでいますか	
問7-Q3	本や雑誌を読んでいますか	
問7-Q4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

○ 4点:高い ○ 3点:やや低い ○ 0~2点:低い

③社会的役割

問番号	項目	選択肢
問7-Q5	友人の家を訪ねていますか	「1.はい」:1点
問7-Q6	家族や友人の相談にのっていますか	
問7-Q7	病人を見舞うことができますか	
問7-Q8	若い人に自分から話かけることがありますか	

○ 4点:高い ○ 3点:やや低い ○ 0~2点:低い

(出典：日常生活圏域ニーズ調査 生活支援ソフト 評価データツール 操作マニュアル 2013.12 改修版 厚生労働省 老健局)

1) 心身機能

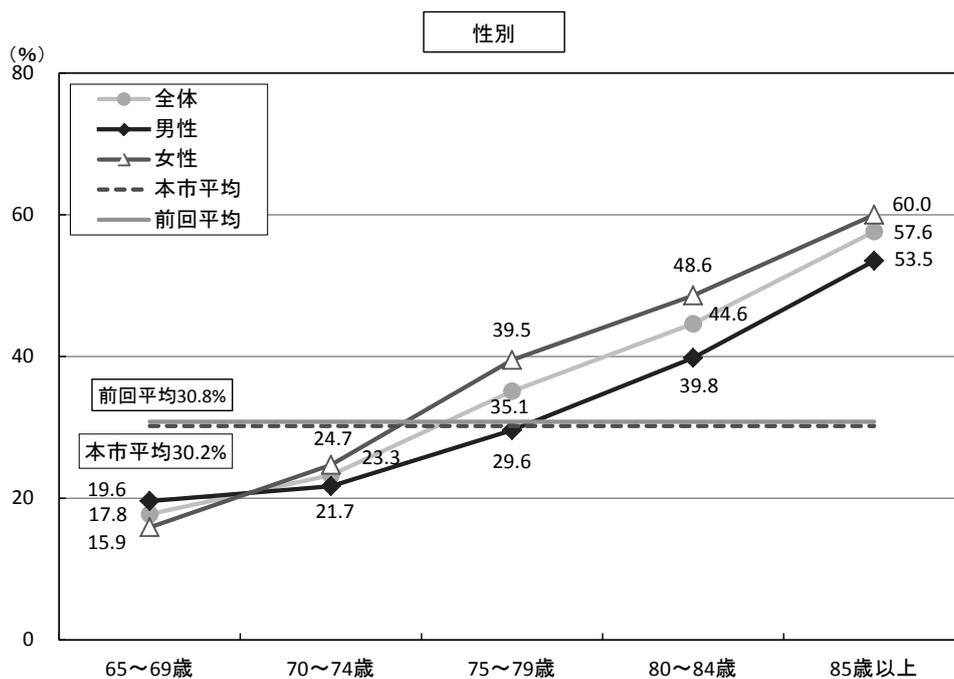
①二次予防対象者

- ・本調査の基本チェックリスト評価項目において、認定者を除き、二次予防事業対象者と判断された者の割合を属性ごとに比較した。
- ・なお、二次予防事業対象者については、運動、口腔など、複数の評価項目が重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者の割合を求めた。

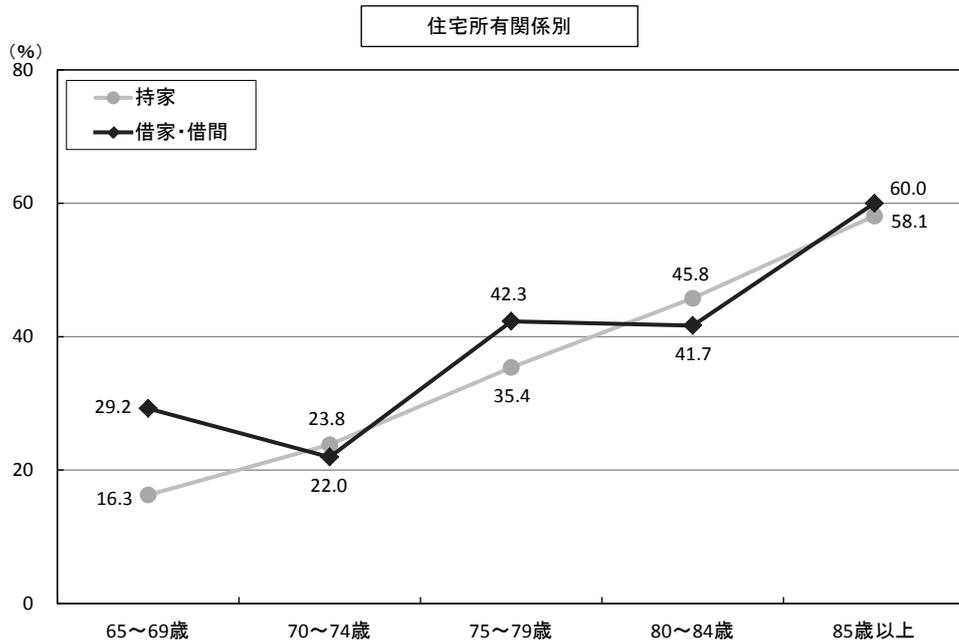
ア) 該当状況

二次予防事業対象者と判断される者(該当者)の割合(該当率)は、認定者を除くと約3割(30.2%)となっており、前回調査(30.8%)からはわずかな減少にとどまっている。高齢者のおよそ3人に1人で何らかの機能低下がみられる状況にあることから、機能低下を防ぐ介護予防活動の一層の推進が必要である。

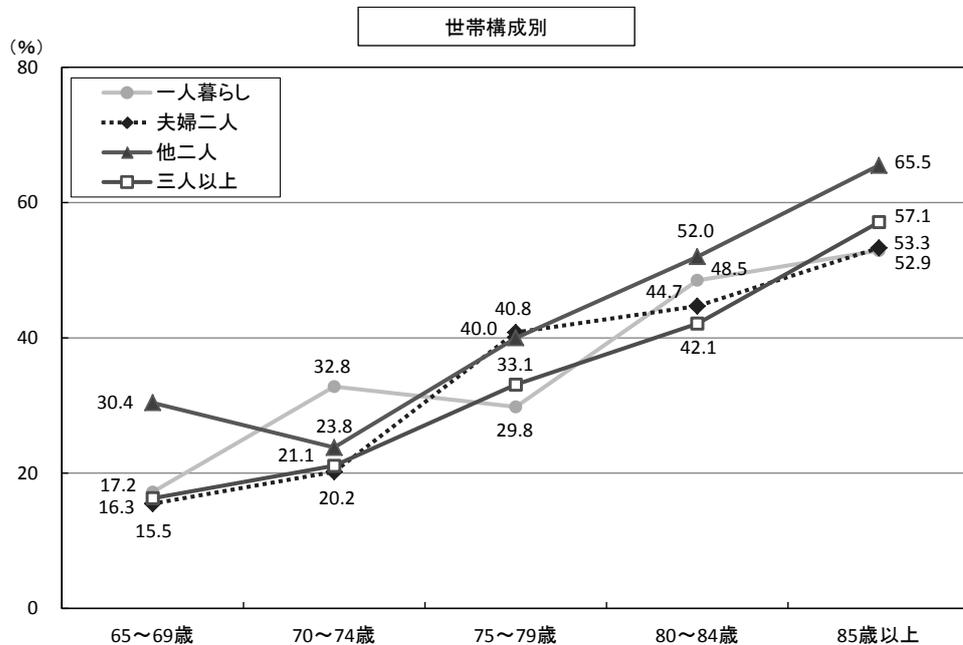
該当者を男女別にみると、ともに年齢があがるとともに該当率が高くなる傾向にある。65～69歳では「男性」の該当率が若干高いものの、70歳以上では逆転し、85歳以上では「女性」が6割(60.0%)、「男性」が5割強(53.5%)となっている。



住宅の所有関係別にみると、65～69歳で『借家・借間』に居住する者の該当率が高くなっているものの、70歳以上では大きな差はみられない。



世帯構成別にみると、65～69歳の「配偶者以外の二人世帯」、70～74歳の「一人暮らし」で該当率が、他に比べて高くなっている。



②運動器

- 基本チェックリストの『運動器』に関する設問5項目のうち、3問以上について該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

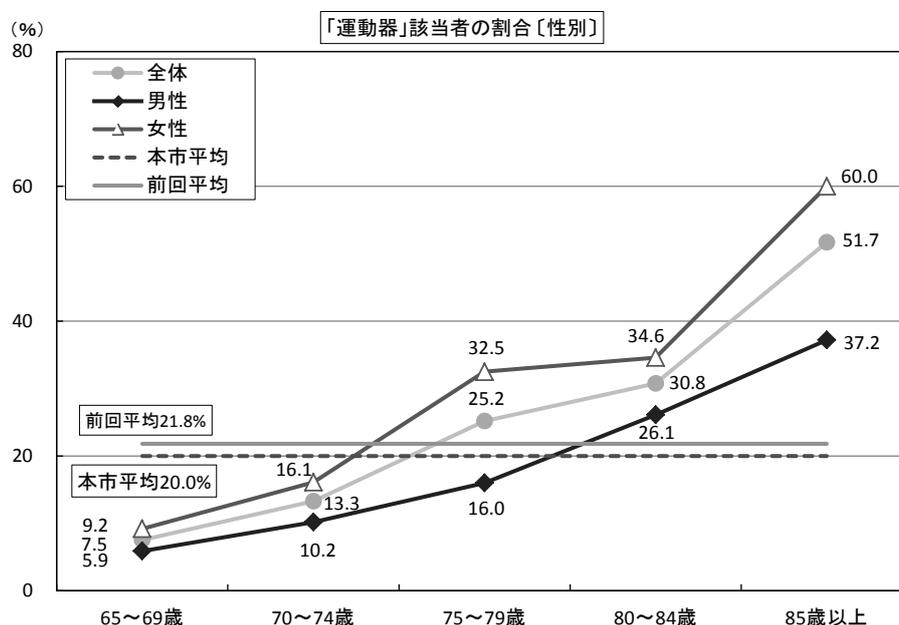
設 問	該当する選択肢
問2-Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. いいえ」
問2-Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. いいえ」
問2-Q3 15分位続けて歩いていますか	「2. いいえ」
問3-Q1 この1年間に転んだことがありますか	「1. はい」
問3-Q2 転倒に対する不安は大きいですか	「1. はい」

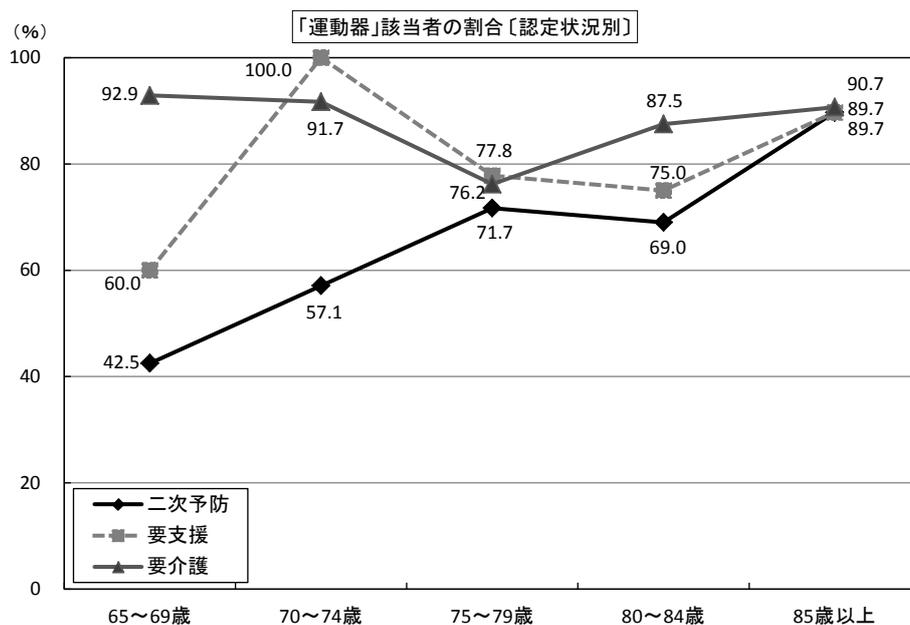
ア) 該当状況

「運動器」の該当者の割合は、認定者を除くと2割(20.0%)となっており、前回調査(21.8%)から2%程度減少している。しかしながら、認定を受けていない高齢者の5人に1人は運動機能の低下がみられる状況にあることから、早期の予防活動を推進する必要がある。

男女別でみると、全体的に「男性」よりも「女性」の該当率が高く、85歳以上では「男性」4割弱(37.2%)に対して、「女性」は6割(60.0%)が該当者となっている。

認定状況別にみると、「要介護認定者」では全体的に該当者の割合が高く、「要支援認定者」も70歳以上で該当者の割合が高い。「二次予防事業対象者」については、年齢があがるにつれて該当率が高くなり、85歳以上では認定状況による差がほとんどみられない。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、問2-Q1 および問3-Q2 では、『非認定者』においても該当すると回答している割合が4割前後と高く、とりわけ二次予防事業対象者では7～8割が該当するとしており、転倒に対する不安感が強い。

転倒の経験（問3-Q1）と転倒に対する不安感（問3-Q2）を比較すると、どの認定状況でも問3-Q2の該当率が上回っていることから、過去1年間に転倒の経験がない回答者でも、転倒に対しての不安があることがうかがえる。

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問2-Q1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (いいえ)	36.7		84.3	
	22.7	69.1	76.8	88.4
問2-Q2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (いいえ)	22.4		82.5	
	6.6	58.9	77.8	85.1
問2-Q3 15分位続けて歩いていますか (いいえ)	18.2		71.8	
	6.8	44.6	60.6	77.9
問3-Q1 この一年間に転んだことがありますか (はい)	12.6		42.9	
	5.8	28.2	49.5	39.2
問3-Q2 転倒に対する不安は大きいですか (はい)	42.4		86.4	
	28.2	75.2	90.9	84.0

③閉じこもり予防

- 基本チェックリストの『閉じこもり予防』に関する設問1項目について、該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

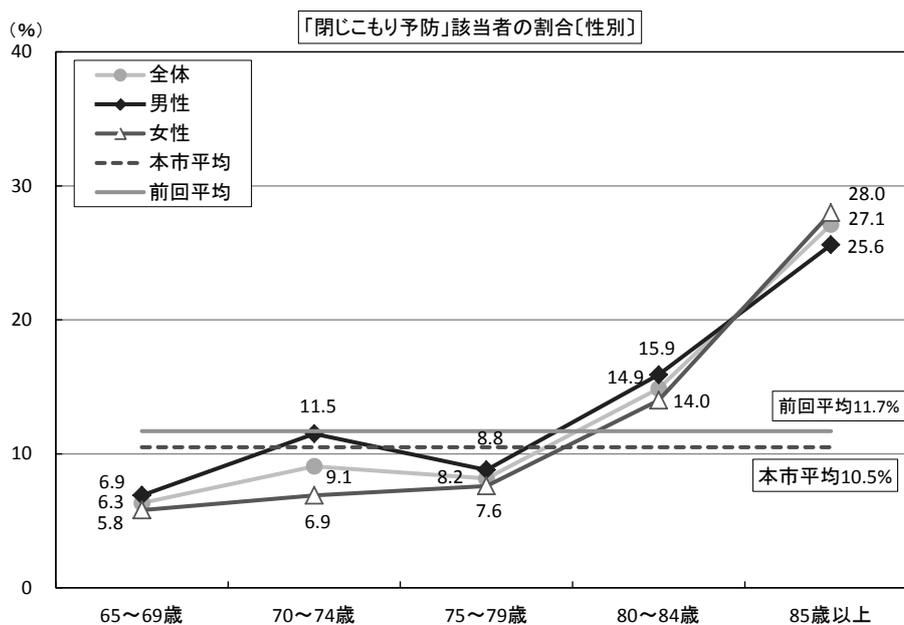
設 問	該当する選択肢
問2-Q5 週に1回以上は外出していますか	「2. いいえ」

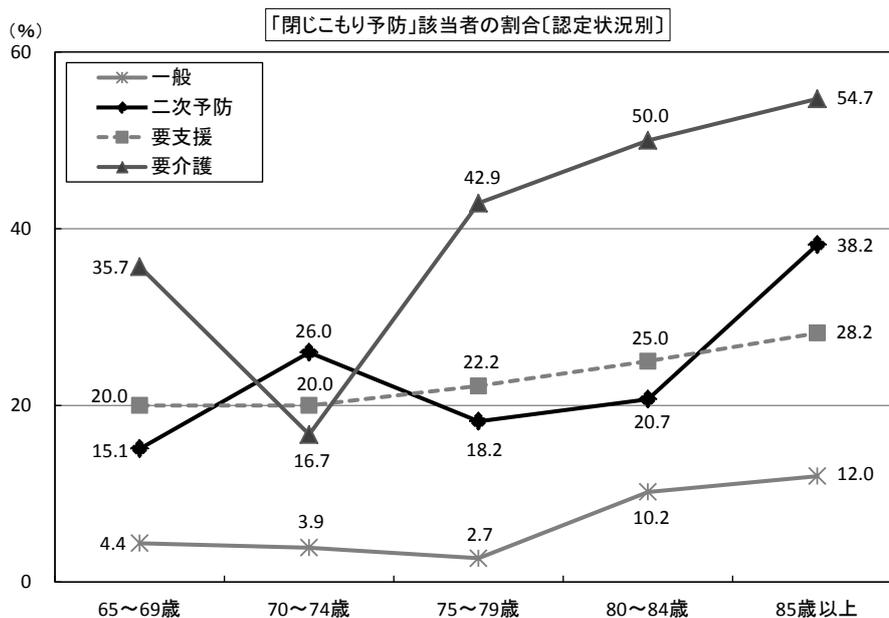
ア) 該当状況

「閉じこもり予防」の該当者の割合は、認定者を除くと約1割（10.5%）となっており、前回調査（11.7%）から1%程度減少している。

男女別でみると、70～74歳で若干開きがあるものの、全体として大きな差はみられない。

認定状況別にみると、全体的に年齢があがるにつれて該当率が高くなっているが、とりわけ75歳以上の「要介護認定者」の該当率が高く、80歳以上では要介護認定者の5割以上が該当者となっている。





イ) 回答状況

評価の基礎となった問2-Q5の回答結果をみると、非認定者と認定者との3割程度の差がみられる。

関連設問の回答状況をみると、5m歩行の可否(問2-Q4)について、認定者の4割弱(38.2%)が該当するとしており、閉じこもりの該当率(問2-Q5)とほぼ同様の値となっていることから、閉じこもりの要因として身体機能の低下が影響していることが推測される。

また、非認定者をみると、問2-Q6において、昨年よりも外出の回数が減っていると回答した者の割合が3割弱(27.4%)みられ、とりわけ二次予防事業対象者では5割弱(47.0%)に達している。

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問2-Q5 週に1回以上は外出していますか (いいえ)	10.5		40.0	
<関連設問>				
問2-Q4 5m以上歩けますか (いいえ)	0.4	12.4	18.2	49.2
問2-Q6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (はい)	27.4		69.3	
問2-Q8 外出の頻度はどのくらいですか (週1日未満) A. 買物	19.0	47.0	72.7	67.4
問2-Q8 外出の頻度はどのくらいですか (週1日未満) B. 散歩	9.9		35.7	
	6.1	18.6	36.4	35.4
	13.5		33.9	
	10.7	20.0	31.3	35.4

④転倒

- ・基本チェックリストの結果に基づく運動器の機能評価に加え、転倒リスクの評価を行う。
- ・下記の表の設問と選択肢の配点に従い、6点以上を転倒リスクありとして評価する。

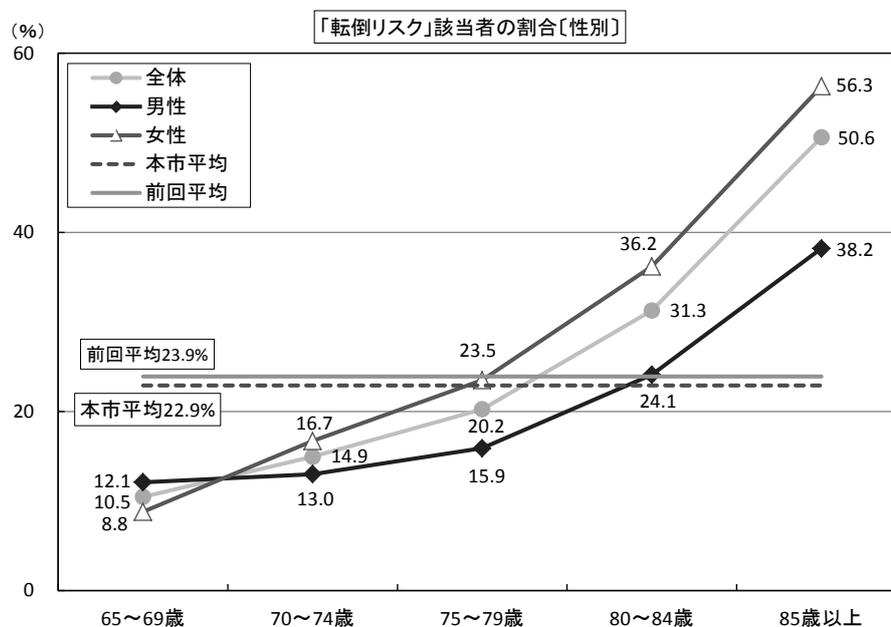
設 問	配点と選択肢
問3-Q1 この一年間に転んだことがありますか	5 : 「1. はい」 0 : 「2. いいえ」
問3-Q3 背中が丸くなってきましたか	2 : 「1. はい」 0 : 「2. いいえ」
問3-Q4 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2 : 「1. はい」 0 : 「2. いいえ」
問3-Q5 杖を使っていますか	2 : 「1. はい」 0 : 「2. いいえ」
問8-Q3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2 : 「5. 5種類以上」 0 : 「1～4または6」

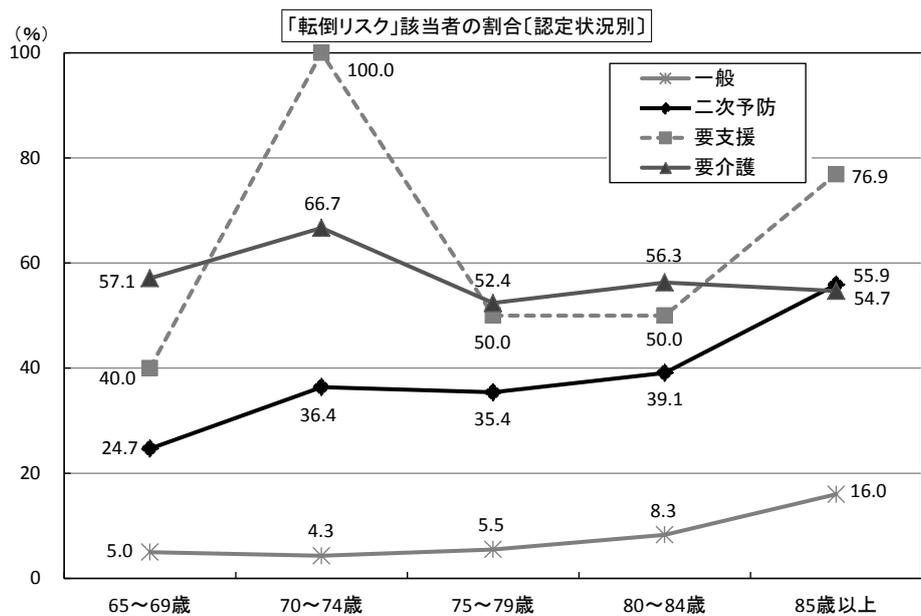
ア) リスク状況

「転倒リスク」の該当者の割合は、認定者を含む全体で2割強（22.9%）となっており、前回調査（23.9%）から1%程度減少している。

男女別にみると、65～69歳を除き、「男性」よりも「女性」の該当率が高い。また、男女ともに年齢があがるほど該当率が高くなる傾向がみられる。

認定状況別にみると、「要介護認定者」はいずれの年齢においても5割を超える高い割合となっている。「要支援認定者」についても全体的に高い割合で、とりわけ85歳以上では8割弱（76.9%）が該当するとしている。「一般高齢者」と「二次予防対象者」については、年齢とともに増加する傾向がみられる。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、問3-Q4では、非認定者においても該当すると回答した者の割合が約5割（50.7%）と高くなっている。

すべての設問で二次予防事業対象者の該当率が一般高齢者を上回っているものの、一般高齢者でも問3-Q4で歩く速度が遅くなってきたと感じている割合が4割弱（37.4%）と高くなっている。

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問3-Q1 この一年間に転んだことがありますか (はい)	12.6		42.9	
	5.8	28.2	49.5	39.2
問3-Q3 背中が丸くなってきましたか (はい)	19.1		56.8	
	11.3	37.4	52.5	59.1
問3-Q4 以前に比べ歩く速度が遅くなってきたと思いますか (はい)	50.7		80.7	
	37.4	81.4	93.9	73.5
問3-Q5 杖を使っていますか (はい)	10.8		57.1	
	4.1	26.5	70.7	49.7
問8-Q3 現在何種類の薬を飲んでますか(5種類以上)	13.4		43.9	
	10.3	20.5	36.4	48.1

⑤栄養

- 基本チェックリストの『栄養』に関する設問2項目について、2項目とも該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

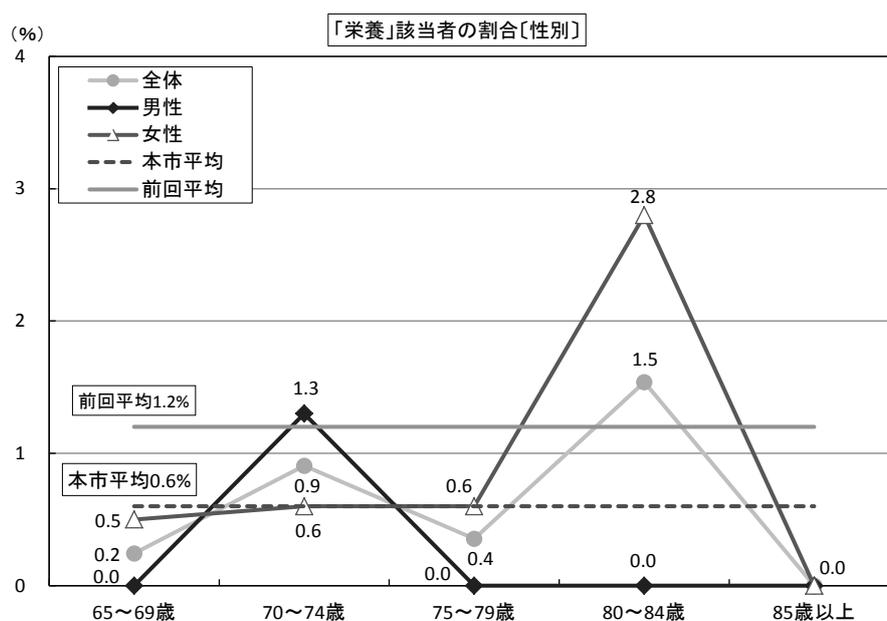
設 問	該当する選択肢
問4-Q1 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問4-Q2 身長（ ）cm、体重（ ）kg	BMI<18.5

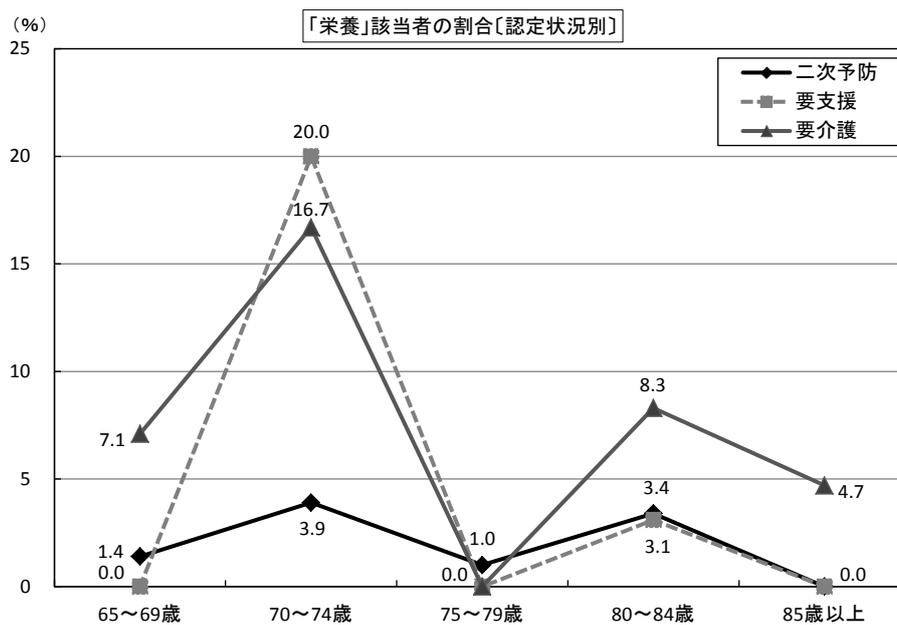
ア) 該当状況

「栄養」の該当者の割合は、認定者を除くと0.6%となっており、前回調査時(1.2%)から半減している。1%にも満たないことから、介護予防事業では対象者を個別にフォローする取り組みが中心になると考えられる。

男女別にみると、80～84歳の「女性」の該当率がやや高くなっている。

認定状況別にみると、70～74歳の「要支援認定者」(20.0%)、「要介護認定者」(16.7%)が高くなっている。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問および関連設問の回答結果を比較すると、問4-1については、一般高齢者を除き、それぞれ2割強～4割弱の回答者がこの半年間で体重が減少したとしている。

また、問6-6をみると、要介護認定者の3割強（32.6%）が食事を自分で食べられないと回答している。

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問4-1 6カ月間で2～3Kg以上の体重減少がありましたか (はい)	16.0		33.6	
	12.5	24.0	35.4	32.6
問4-2 身長、体重 (BMI=体重/(身長×身長)<18.5)	3.1		7.9	
	2.1	5.2	5.1	9.4
＜関連設問＞				
問6-6 食事は自分で食べられますか (「一部介助があればできる」または「できない」)	1.1		21.1	
	0.3	3.0	0.0	32.6

⑥口腔

- 基本チェックリストの『口腔』に関する設問3項目のうち、2問以上について該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

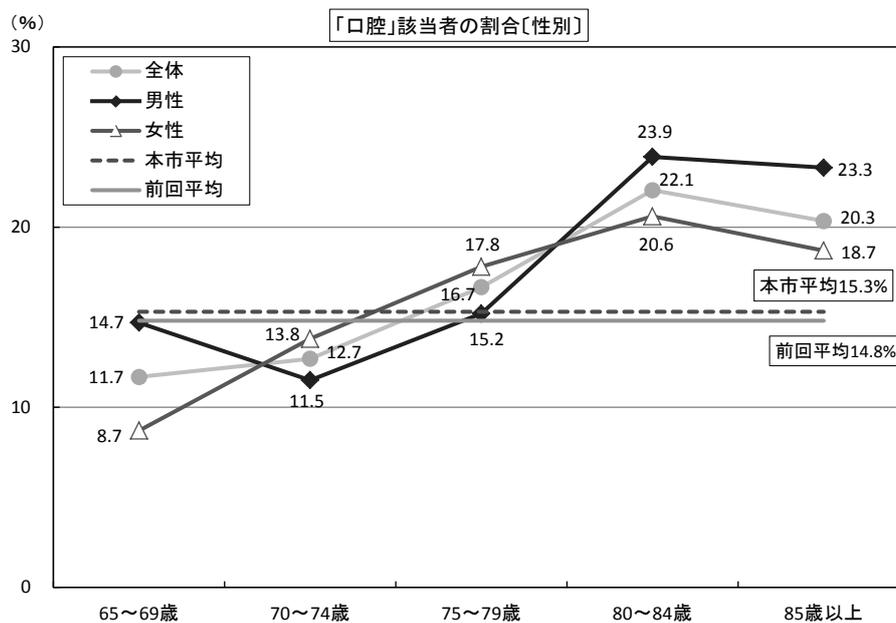
設 問	該当する選択肢
問4-Q3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問4-Q4 お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問4-Q5 口の渇きが気になりますか	「1. はい」

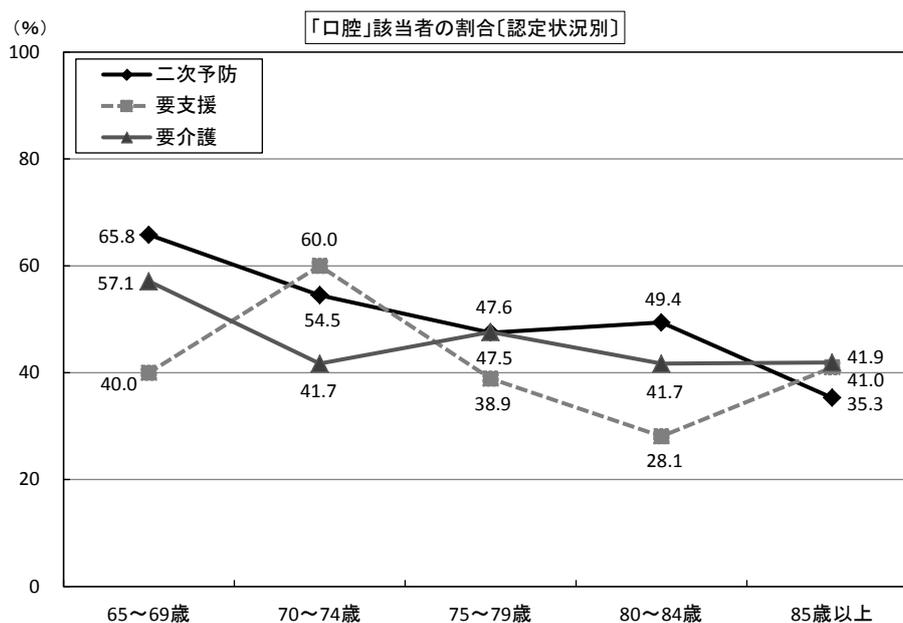
ア) 該当状況

「口腔」の該当者の割合は、認定者を除くと2割弱（15.3%）となっており、前回調査（14.8%）からわずかに増加している。認定を受けていない高齢者のおよそ6人に1人で口腔機能の低下がみられ、年齢があがるほど該当率が高くなっている。このことから、早期の予防活動の推進が必要である。

男女別にみると、65～69歳および80歳以上で「男性」の該当率が「女性」に比べ高くなっている。

認定状況別にみると、「二次予防事業対象者」は年齢があがるとともに緩やかに減少している。一方、認定者については各年齢階層で変動があり、顕著な傾向はみられない。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、問4-Q3 および問4-Q4 では二次予防対象者と要支援認定者で該当率に大きな差がなく、問4-Q5 では二次予防対象者の該当率が要支援認定者の該当率を上回っている。

関連する設問の回答結果をみると、高齢者の1~2割程度が歯磨きを毎日しておらず、また、6割弱~7割強が定期的な歯科健診を受けていない状況にある。

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問4-Q3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (はい)	30.7		58.9	
	18.1	59.7	56.6	60.2
問4-Q4 お茶や汁物等でむせることがありますか (はい)	12.1		35.7	
	3.5	31.9	30.3	38.7
問4-Q5 口の渇きが気になりますか	18.3		38.6	
	6.4	45.8	38.4	38.7
<関連設問>				
問4-Q6 歯磨きを毎日していますか (いいえ)	13.3		18.2	
	12.2	15.8	16.2	19.3
問4-Q7 定期的に歯科検診を受けていますか (いいえ)	59.8		71.4	
	55.7	69.3	65.7	74.6

⑦認知

■認知症予防

- 基本チェックリストの『認知』に関する設問3項目のうち、1問でも該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

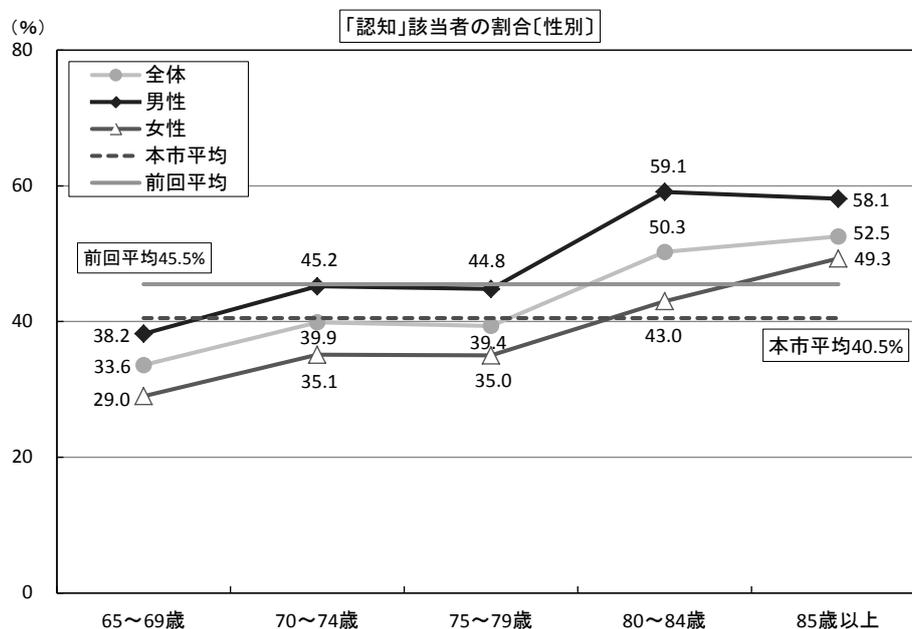
設 問	該当する選択肢
問5-Q1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	「1. はい」
問5-Q2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問5-Q3 今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

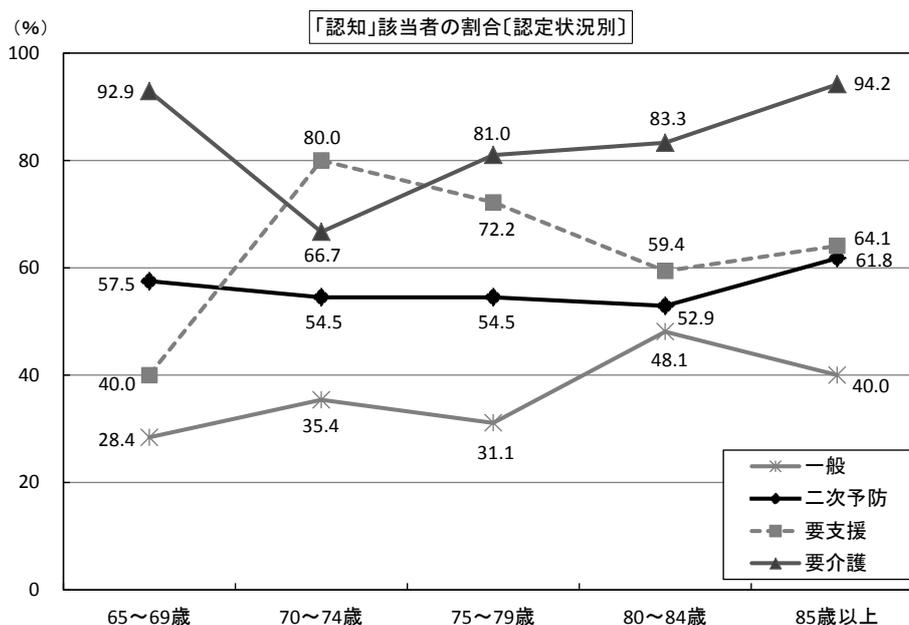
ア) 該当状況

「認知」の該当者の割合は、認定者を除くと約4割(40.5%)となっており、前回調査(45.5%)から5%程度減少している。しかしながら、認定を受けていない高齢者のおよそ2人に1人で認知機能の低下がみられることから、早期の予防活動の推進が必要である。

男女別にみると、全体的に「女性」よりも「男性」の該当率が1割程度高く、80歳以上では「男性」の該当者は6割程度に達する。

認定状況別にみると、おおむね認定者の該当率が高く、とりわけ「要介護認定者」はどの年齢層でも高い状況にある。また、85歳以上では「二次予防事業対象者」と「要支援認定者」がともに6割強と、差が小さくなっている。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、すべての設問で一般高齢者と二次予防事業対象者の該当率に差がみられる。問5-Q1 および問5-Q3 については認定状況が高くなるとともに該当率も高くなっている。

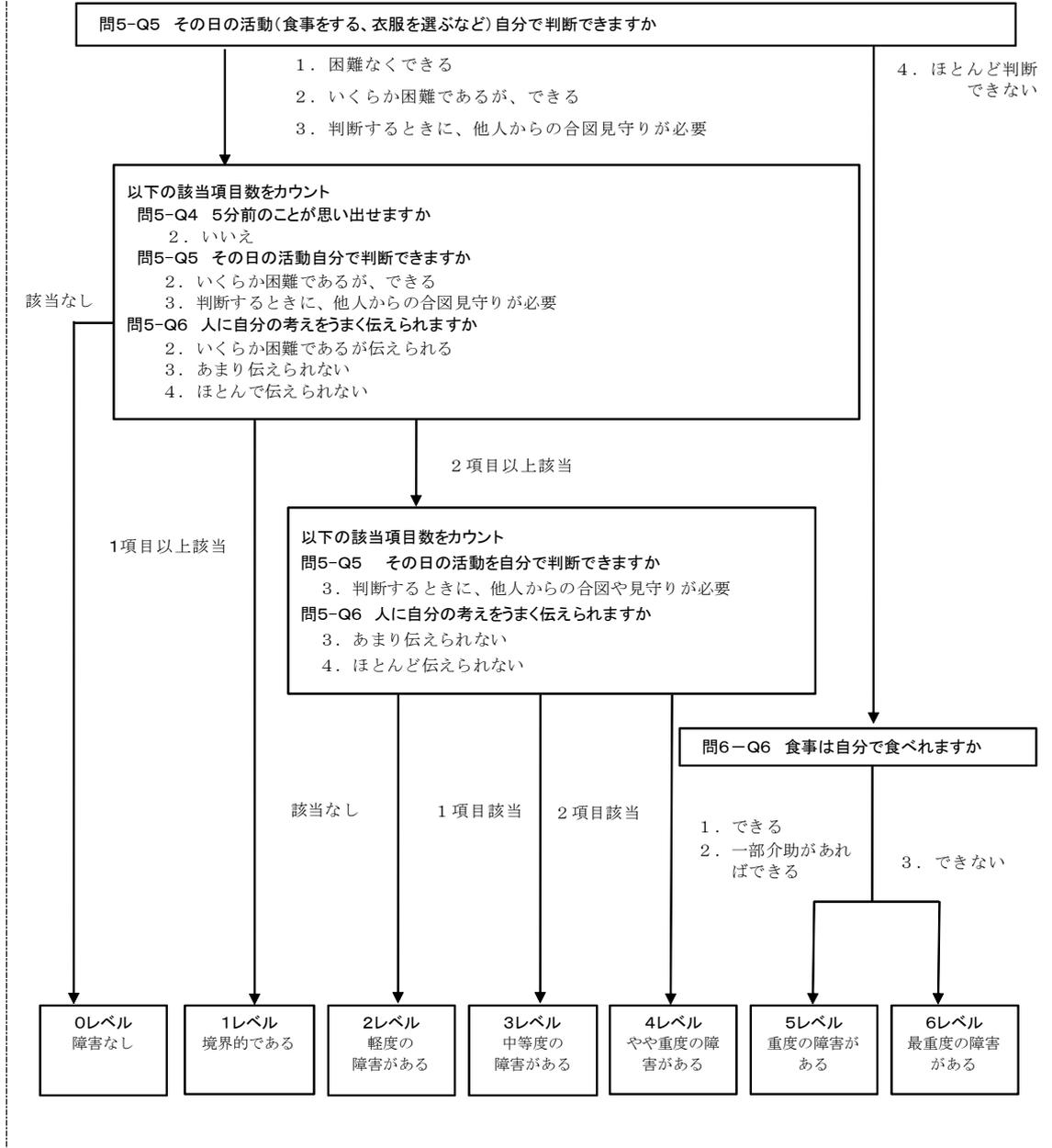
関連する設問の回答結果をみると、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者ではいずれもわずかな値となっているのに対し、要介護認定者では問1-Q2-1 で4割弱（35.3%）、問8-Q2 で3割弱（26.5%）の該当率となっている。

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問5-Q1 周りの人から物忘れがあるとされますか (はい)	14.5		51.4	
	9.9	25.2	34.3	60.8
問5-Q2 自分で電話番号を調べて電話をかけることを していますか (いいえ)	11.4		50.4	
	7.8	19.6	17.2	68.5
問5-Q3 今日が何月何日かわからない時がありますか (はい)	28.0		61.1	
	23.4	38.6	50.5	66.9
<関連設問>				
問1-Q2-1 介護・介助が必要になった主な原因は なんですか (認知症)	0.8		22.1	
	4.2	9.2	4.1	35.3
問8-Q2 現在治療中、または後遺症のある病 気はありますか (認知症)	0.7		17.9	
	0.2	1.7	2.0	26.5

■認知機能障害程度（CPS：Cognitive Performance Scale）に基づく評価

- ・認知機能の障害程度の指標として有用される認知機能障害程度区分に準じ、該当する設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）まで評価した。以下にその評価方法を示す。
- ・1レベル以上の障害程度と評価される場合を「リスク者」とする。



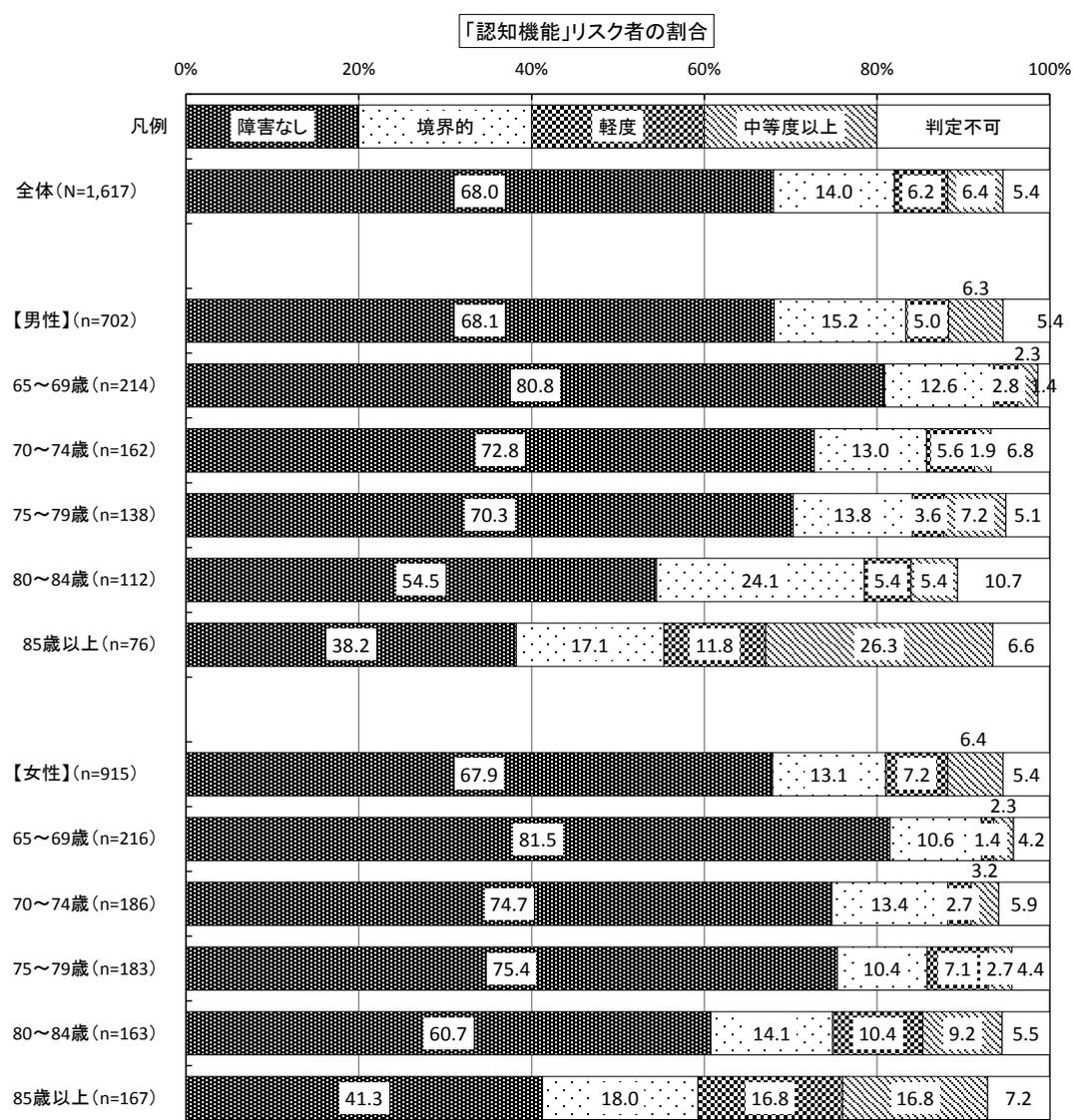
ア) リスク状況

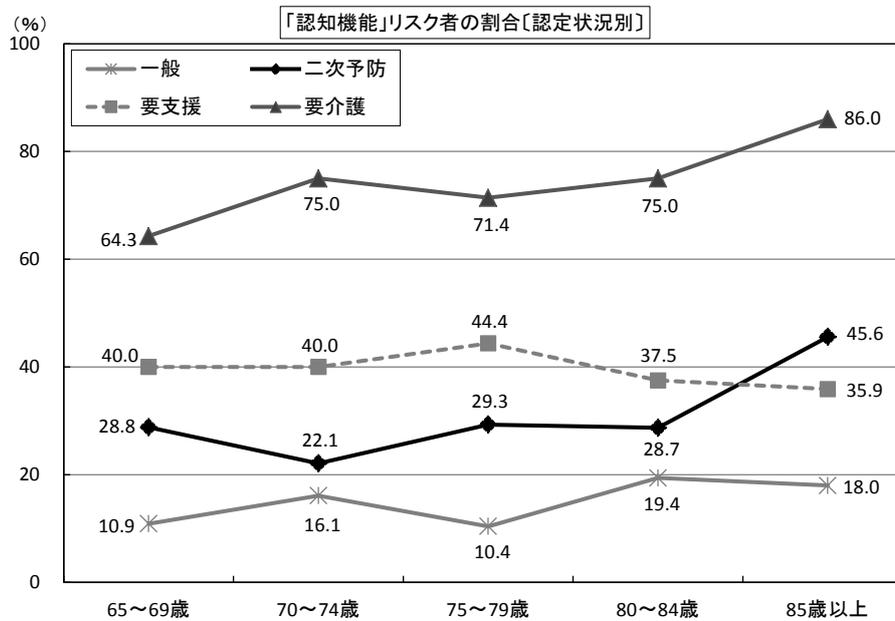
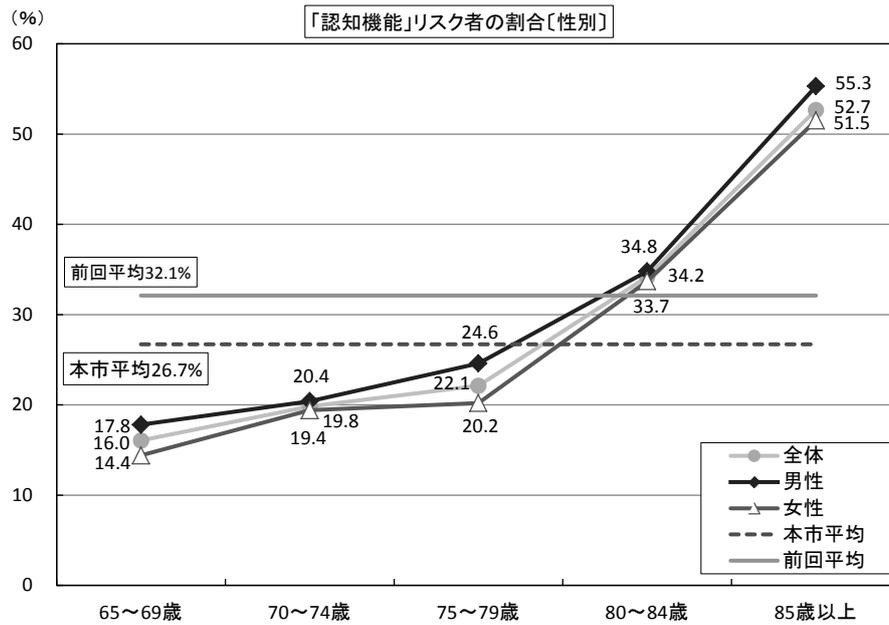
全体では「障害なし（0レベル）」が7割弱（68.0%）を占める。「境界的（1レベル）」は14.0%、「軽度（2レベル）」は6.2%、「中等度以上（3レベル以上）」は6.4%となっており、『リスク者（1レベル以上）』の割合は3割弱（26.7%）となる。

男女別にみてもリスク者の割合に大きな差はなく、男女ともに年齢があがるとともに割合が高くなる傾向にあり、85歳以上で「障害なし」は男女ともに4割程度となっている。

認定状況別に見ると、「一般高齢者」、「二次予防対象者」、「要介護認定者」については年齢があがるとともにリスク者の割合が高くなる傾向にあるが、「要支援認定者」については、年齢による大きな差はみられない。

また、要介護認定者は他の認定状況に比べてどの年齢層もリスク者の割合が高くなっている。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、すべての設問で認定者が非認定者の該当率を2～5割上回っており、特に問5-Q5では5割程度の差がみられた。

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問5-Q4 5分前のことが思い出せますか (いいえ)	8.6		36.4	
	6.5	13.4	19.2	45.9
問5-Q5 その日の活動を自分で判断できますか (いづれか困難であるができる～ほとんど判断できない)	7.6		57.5	
	3.6	16.5	28.3	73.6
問5-Q6 人に自分の考えをうまく伝えられますか (いづれか困難であるが伝えられる～ほとんど伝えられない)	10.1		47.1	
	6.5	18.4	19.2	62.5
問6-Q6 食事は自分で食べられますか (一部介助があればできる、できない)	1.1		21.1	
	0.3	3.0	0.0	32.6

⑧うつ予防

- 基本チェックリストの『うつ予防』に関する設問のうち、2問以上について該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

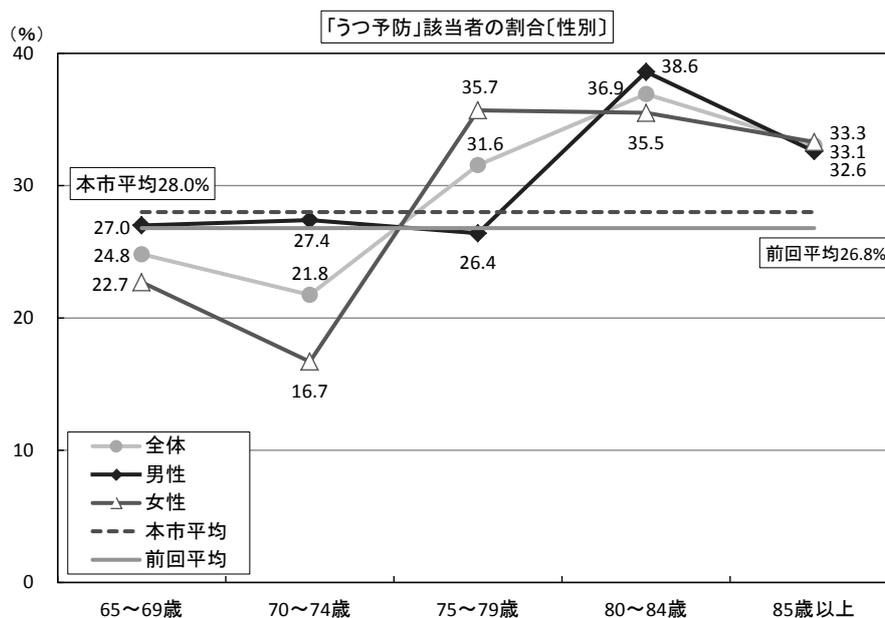
設 問	該当する選択肢
問8-Q8 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問8-Q9 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問8-Q10 (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
問8-Q11 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問8-Q12 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

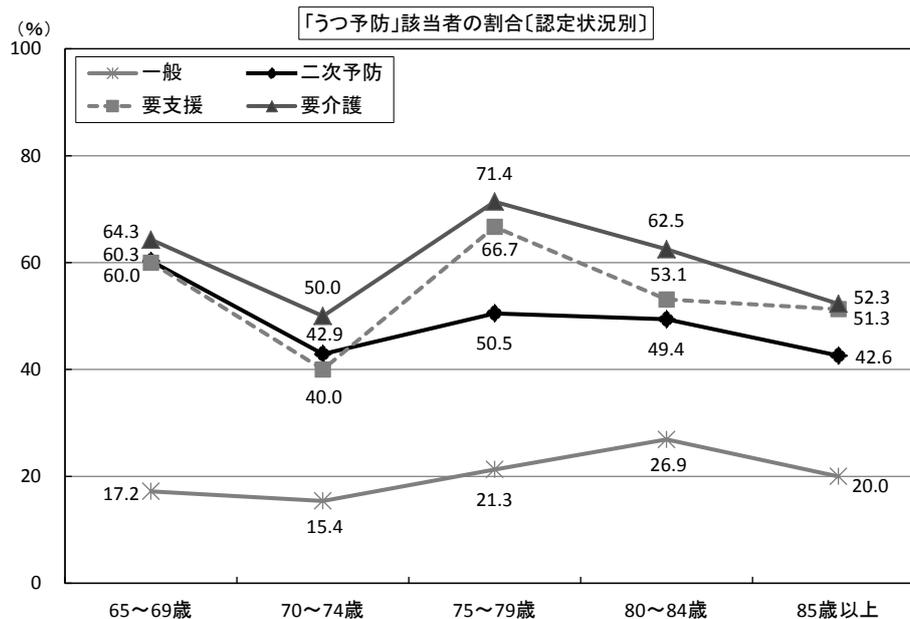
ア) 該当状況

「うつ予防」の該当者の割合は、認定者を除くと3割弱(28.0%)となっており、前回調査(26.8%)から1%程度増加している。認定を受けていない高齢者のおよそ4人に1人がうつ傾向と判定されることから、早期の予防対策が求められる。

男女別にみると、「女性」は75歳以上で、「男性」は80歳以上で該当率が上昇し、85歳以上ではともに3割強となっている。

認定状況別にみると、「一般高齢者」が各年齢で2割弱～3割弱となっているのに対し、「二次予防事業対象者」、「要支援認定者」、「要介護認定者」では、4割以上となっている。おおむね認定状況が高いほど該当率も高くなる傾向がみられるが、85歳以上では「要支援認定者」と「要介護認定者」との間に大きな差はみられない。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、すべての設問で認定者が非認定者の該当率を2～3割程度上回っている。

関連する設問の回答結果をみると、一般高齢者で「あまり健康でない、健康でない」と回答したのは2割弱（15.2%）であるのに対し、二次予防事業対象者では4割強（41.9%）、要支援認定者では6割弱（56.5%）、要介護認定者では6割強（62.4%）となり、認定状況が高いほど該当率も高くなっている。

単位: %

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問8-Q8 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない(はい)	16.7		40.4	
	12.5	26.2	37.4	42.0
問8-Q9 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった(はい)	15.8		43.9	
	9.6	30.0	43.4	44.2
問8-Q10 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる(はい)	31.2		61.1	
	20.8	55.2	61.6	60.8
問8-Q11 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない(はい)	14.3		32.1	
	9.9	24.5	29.3	33.7
問8-Q12 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする(はい)	26.2		50.4	
	17.7	45.8	52.5	49.2
<関連設問>				
問8-Q1 普段ご自分で健康だと思いますか(あまり健康でない、健康でない)	23.3		60.4	
	15.2	41.9	56.5	62.4

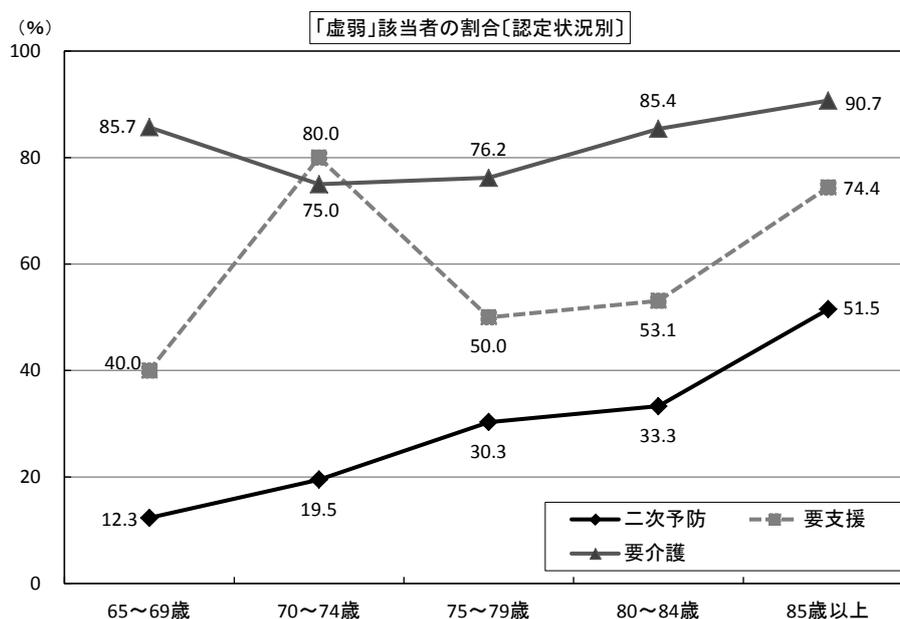
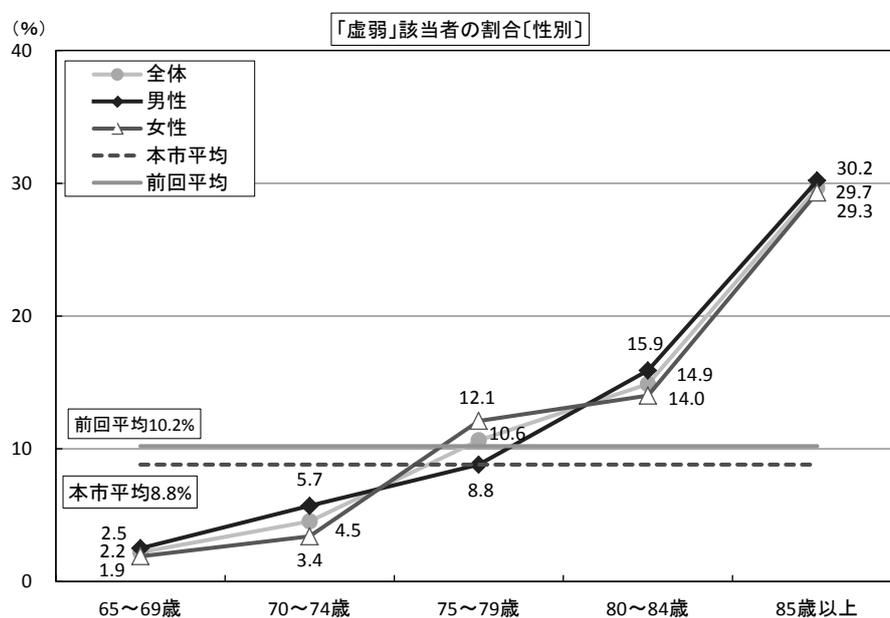
⑨虚弱

- ・基本チェックリストで、うつ予防に関する項目を除いた20項目のうち、10項目以上で該当する選択肢を回答した場合を「該当者」とする。

ア) 該当状況

「虚弱」の該当者の割合は、認定者を除くと1割弱（8.8%）となっており、前回調査（10.2%）から1%程度減少している。認定を受けていない高齢者のおよそ10人に1人となっていることから、対象者を個別にフォローする事業が中心になるものと考えられる。なお、男女別の該当率に大きな差はみられない。

認定状況別にみると、70～74歳の「要支援認定者」の該当率が8割（80.0%）と高くなっているものの、全体的には認定状況が高いほど該当率が高くなる傾向がみられ、「要介護認定者」では各年齢7～9割の該当率となっている。



イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、すべての設問で認定者が非認定者の該当率を5～6割程度上回っており、大きな差がみられる。

特に要介護認定者は外出を伴う設問（問6-Q1・Q2・Q5、問7-Q5）においてそれぞれ9割程度ができるけどしていない、又はできないと回答している。

一方、非認定者についても、一般高齢者と二次予防事業対象者とで各問2～3割程度の差がみられる。

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問6-Q1 バスやタクシー等で一人で外出していますか (できるけどしていない、できない)	23.2		85.0	
	14.1	44.3	70.7	92.8
問6-Q2 日用品の買物をしていますか (できるけどしていない、できない)	15.7		78.6	
	8.4	32.4	57.5	90.0
問6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか (できるけどしていない、できない)	21.2		72.9	
	14.4	36.6	44.5	88.4
問7-Q5 友人の家を訪ねていますか (いいえ)	27.4		80.4	
	20.5	43.3	64.6	89.0
問7-Q6 家族や友人の相談にのっていますか (いいえ)	15.9		63.2	
	10.1	29.2	37.4	77.3

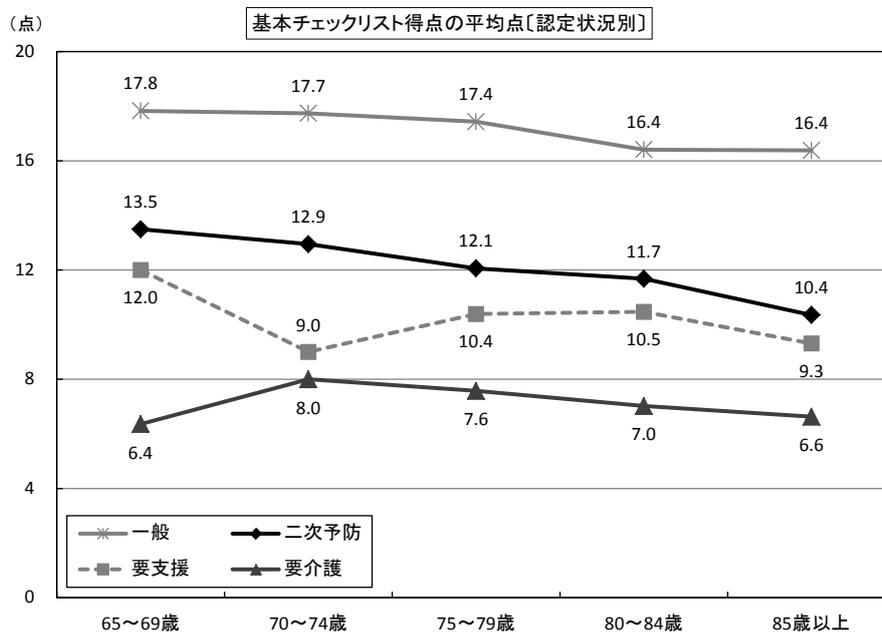
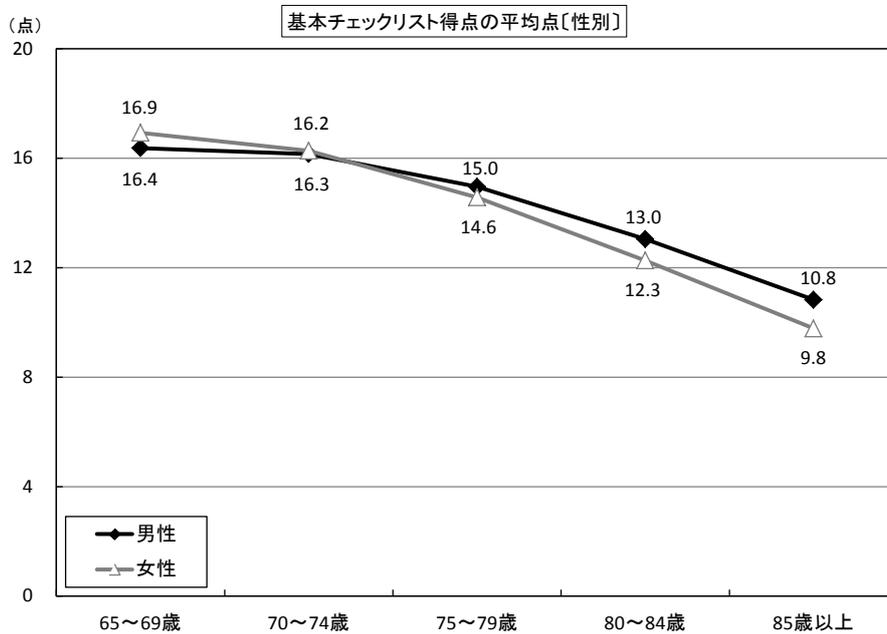
ウ) 基本チェックリスト得点

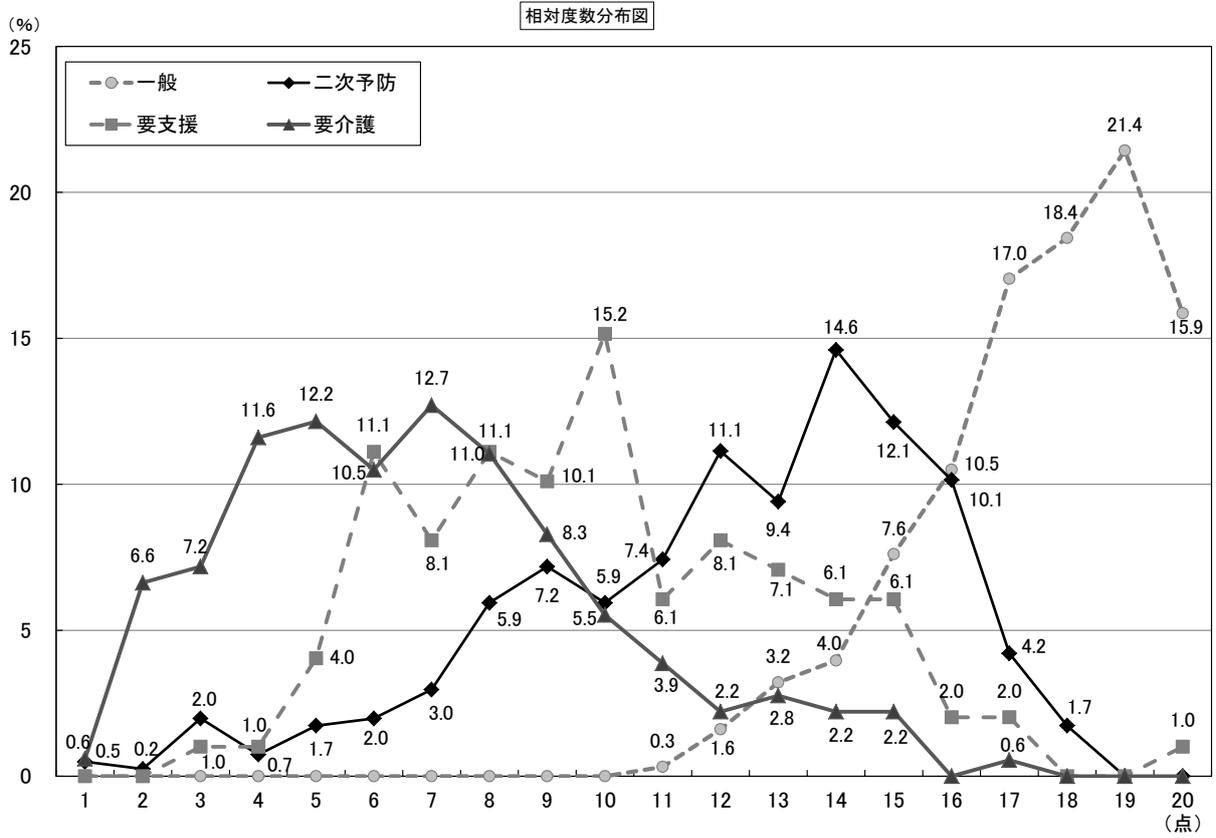
・『虚弱』に関するチェックリスト 20 項目において、それぞれ「該当しない」と回答した場合を 1 点として、その合計得点の平均を求める。

平均点を男女別にみると、男女ともに年齢があがるとともに平均点が下がる傾向にあるなか、「女性」の減少傾向がやや顕著で、85 歳以上では二次予防事業対象者となる点数（10 点以下）になっている。

認定状況別にみると、一般高齢者および二次予防事業対象者はすべての年齢で 10 点を上回っているが、「要支援認定者」は 70～74 歳及び 85 歳以上で、「要介護認定者」はすべての年齢で 10 点を下回っている。

得点の相対度数分布をみると、一般高齢者 19 点、二次予防事業対象者 14 点、要支援認定者 10 点、要介護認定者 7 点がそれぞれピークとなっている。





2) 日常生活

①手段的自立度（IADL）

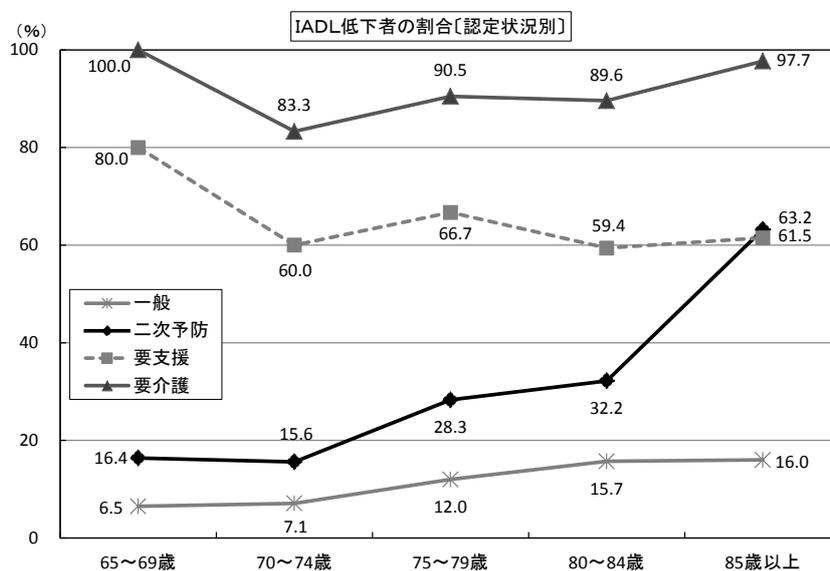
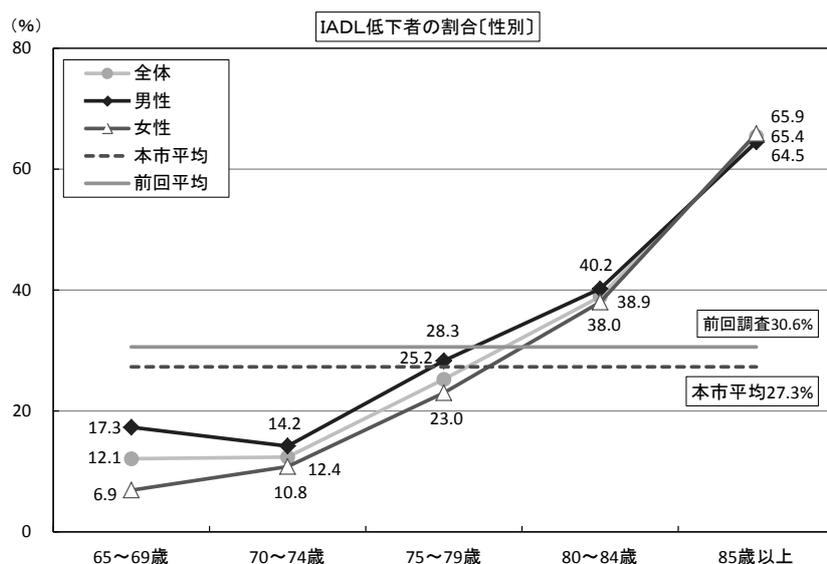
- ・手段的自立度（IADL）とは、交通機関の利用や買物、食事の用意、服装や金銭管理など活動的な日常生活をおくるための動作能力をいう。
- ・高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に基づき、問6-Q1～Q5各設問で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点中、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価し、4点以下を「低下者」と判断する。

ア) 評価結果

手段的自立度（IADL）の評価で低下者と判断される者の割合は、認定者を含む全体で3割弱（27.3%）となっており、前回調査（30.6%）から3%程度減少している。

低下者の割合を男女別にみると、65～69歳では1割程度の差がみられるが、70歳以上で男女ともに低下者の割合が高くなり、男女間の大きな差もみられなくなる。

認定状況別にみると、全体的に認定状況が高いほど低下者の割合が高く、非認定者と認定者で大きな差がみられるが、「二次予防事業対象者」は85歳以上で低下者の割合が急激に上昇し、「要支援認定者」とほぼ同様の割合となっている。



イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、非認定者においてはすべての設問で9割前後が「できる」と回答しているが、認定者では2～4割程度となっており、非認定者と認定者で大きな差がみられる。

二次予防事業対象者と要支援認定者を比較すると、「できる」割合が二次予防事業対象者で7割強～8割強となっているのに対し、要支援認定者では4割強～8割となっており、特に問6-Q1で差がみられる。また、要介護認定者は「できる」割合が1～2割程度と、大きな差がみられる。

「できるけどしていない」については、すべての設問で非認定者と認定者との間に大きな差はみられない。

①「できるし、している」、「できるけどしていない」

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問6-Q1 バスやタクシー等で一人で外出していますか (「できるし、している」「できるけどしていない」)	88.6		23.6	
	95.1	73.5	45.5	11.6
問6-Q2 日用品の買物をしていますか (「できるし、している」「できるけどしていない」)	93.2		33.6	
	97.5	83.2	65.6	16.0
問6-Q3 自分で食事の用意をしているか (「できるし、している」「できるけどしていない」)	89.1		35.7	
	92.4	81.4	71.7	16.0
問6-Q4 請求書の支払いをしているか (「できるし、している」「できるけどしていない」)	93.0		44.3	
	96.1	85.9	80.8	24.3
問6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか (「できるし、している」「できるけどしていない」)	90.9		42.5	
	94.6	82.4	78.8	22.6

②「できるけどしていない」(能力と実況状況の差)

単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問6-Q1 バスやタクシー等で一人で外出していますか (できるけどしていない)	14.4		10.4	
	11.4	21.3	17.2	6.6
問6-Q2 日用品の買物をしていますか (できるけどしていない)	10.6		13.6	
	7.8	17.1	24.2	7.7
問6-Q3 自分で食事の用意をしているか (できるけどしていない)	16.6		11.8	
	16.8	16.1	18.2	8.3
問6-Q4 請求書の支払いをしているか (できるけどしていない)	12.6		13.9	
	10.0	18.8	19.2	11.0
問6-Q5 預貯金の出し入れをしていますか (できるけどしていない)	13.9		17.1	
	11.1	20.3	25.3	12.7

②日常生活動作（ADL）

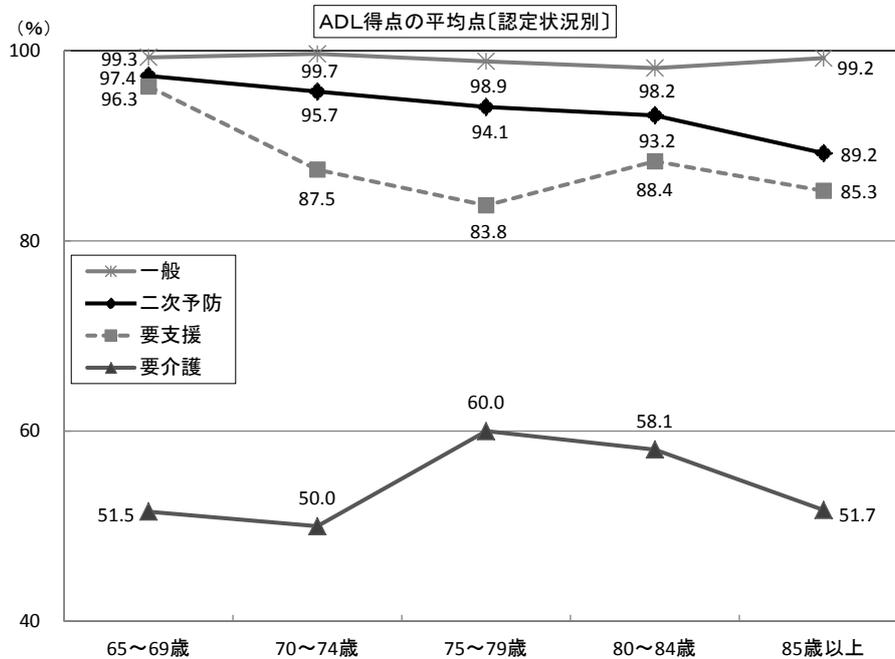
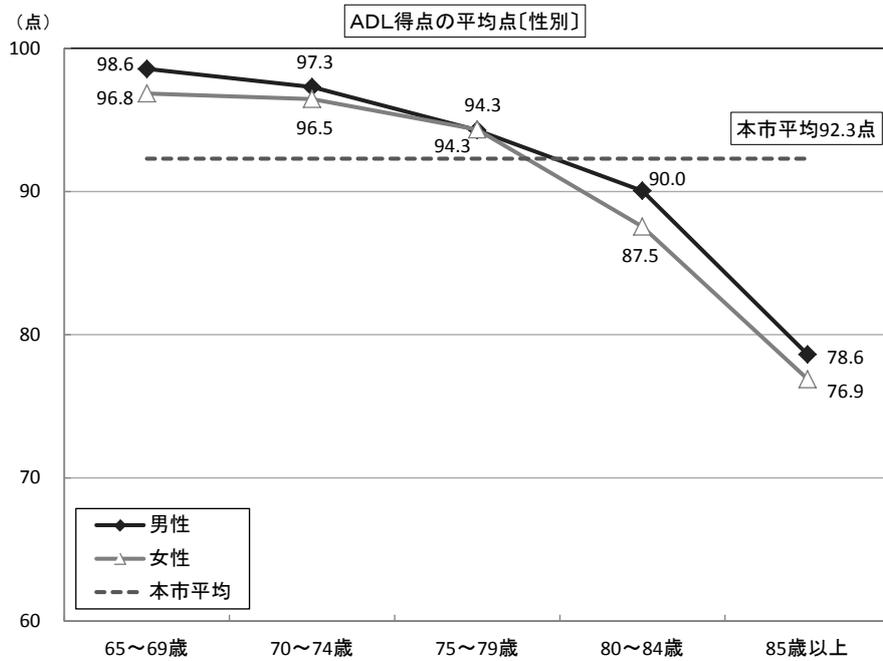
- ・日常生活動作（ADL）とは、食事や排泄、整容、移動、入浴等の日常生活を営む上での基本的な行動をさす。
- ・各設問への配点は、バーセルインデックスの評価方法に従って、10項目の合計が100点満点となるよう評価している。

設 問	項 目	配 点
問6-6	食事	10:「1. できる」 5:「2. 一部介助(おかずを切ってもらなど)があればできる」 0:「3. できない」
問6-7	ベッドへの移動	15:「1. 受けていない」 10:「2. 一部介助があればできる」 5:「3. 全面的な介助が必要」(問6-8が「1. できる」「2. 支えが必要」の場合) 0:「3. できない」(問6-8が「3. できない」の場合)
問6-9	整容	5:「1. できる」 0:「2. 一部介助があればできる」または「3. できない」
問6-10	トイレ	10:「1. できる」 5:「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 0:「3. できない」
問6-11	入浴	5:「1. できる」 0:「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」または「3. できない」
問6-12	歩行	15:「1. できる」 10:「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 0:「3. できない」
問6-13	階段昇降	10:「1. できる」 5:「2. 介助があればできる」 0:「3. できない」
問6-14	着替え	10:「1. できる」 5:「2. 介助があればできる」 0:「3. できない」
問6-15	排便	10:「1. ない」 5:「2. ときどきある」 0:「3. よくある」
問6-16	排尿	10:「1. ない」 5:「2. ときどきある」 0:「3. よくある」

ア) 評価結果

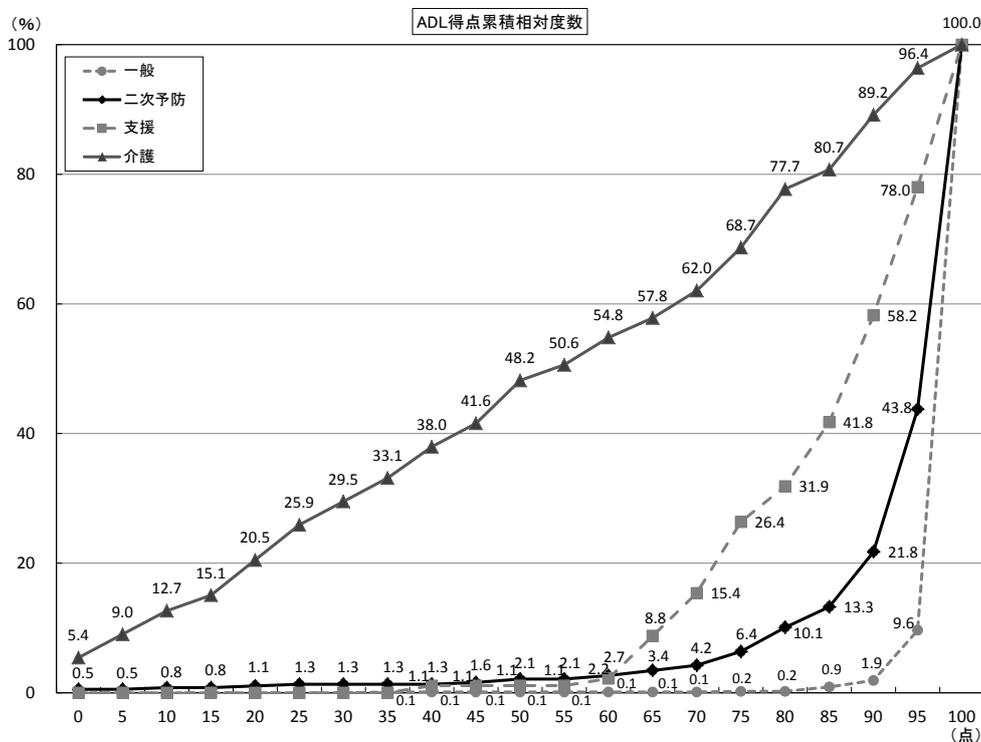
日常生活動作（ADL）の合計得点の平均値は92.3点となっている。男女ともに年齢があがるとともに平均値が下がり、85歳以上になると急激に低下している。

認定状況別にみると、「一般高齢者」、「二次予防事業対象者」、「要支援認定者」ではすべての年齢で80点以上となっているのに対し、「要介護認定者」は50～60点程度と、要介護認定者とその他で大きな差がみられる。



イ) ADL 得点累積相対度数

ADL の合計得点について、要介護認定者では高得点から低得点まで得点分散しているため、ほぼ直線状の分布となっている。一方、二次予防対象者および一般高齢者では 95 点以上が半数以上を占めるため、L 字型の分布となっている。



ウ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、非認定者においてはすべての設問で 8～9 割の該当率となっているが、認定者の該当率は 2～7 割と、設問によりばらつきがみられ、特に問 6-Q13、問 6-Q12、問 6-Q16 の該当率が低い。

二次予防事業対象者と要支援認定者で該当率に大きな差がみられたのは問 6-Q13 および問 6-Q12 で、それぞれ 3 割程度の差がある。

設問(該当する回答)	単位: %			
	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問6-Q6 食事は自分で食べられますか(できる)	97.5		77.1	
	98.1	96.0	99.0	65.2
問6-Q7 寝床に入る時、何らかの介助を受けていますか(受けない)	96.5		63.2	
	97.1	95.0	92.9	47.0
問6-Q9 自分で洗面や歯磨きができますか(できる)	97.5		67.9	
	98.0	96.5	96.0	52.5
問6-Q10 自分でトイレができますか(できる)	97.9		67.5	
	98.1	97.5	97.0	51.4
問6-Q11 自分で入浴ができますか(できる)	97.0		48.9	
	98.0	94.8	87.9	27.6
問6-Q12 50m以上歩けますか(できる)	93.6		33.9	
	97.4	84.9	54.5	22.7
問6-Q13 階段を昇り降りできますか(できる)	90.9		25.7	
	97.0	77.0	43.4	16.0
問6-Q14 自分で着替えができますか(できる)	97.5		60.4	
	98.2	96.0	96.0	40.9
問6-Q15 大便の失敗がありますか(ない)	95.1		57.9	
	97.5	89.4	83.8	43.6
問6-Q16 尿もれや尿失禁がありますか(ない)	82.4		33.2	
	89.7	65.6	57.6	19.9

3) 社会参加

①知的能動性

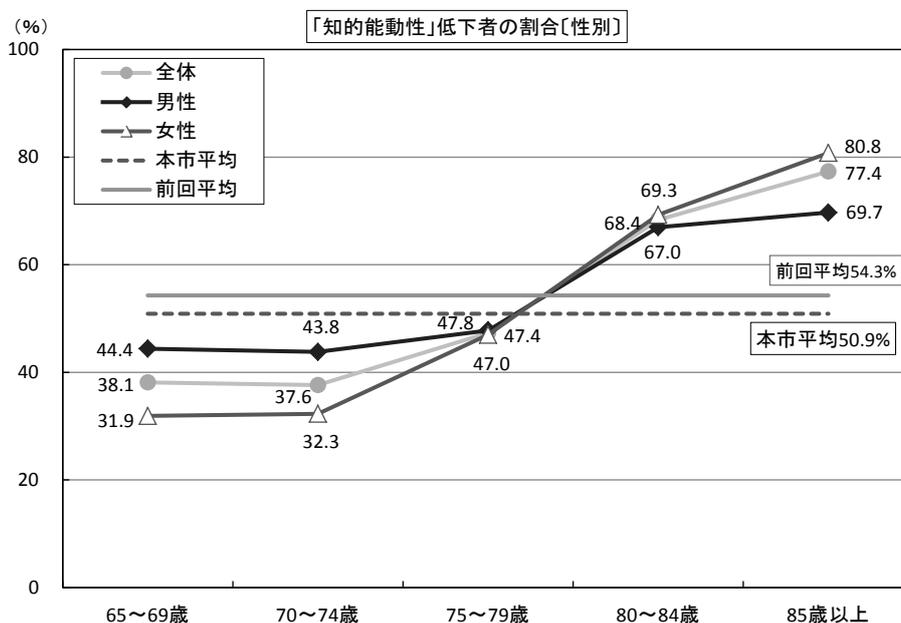
- ・知的能動性とは、書類を書く、新聞や本等を読む、健康情報に関心を持つなど、余暇や創作など生活を楽しむ能力をいう。
- ・老研式活動能力指標に基づき、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を「低下者」として評価する。

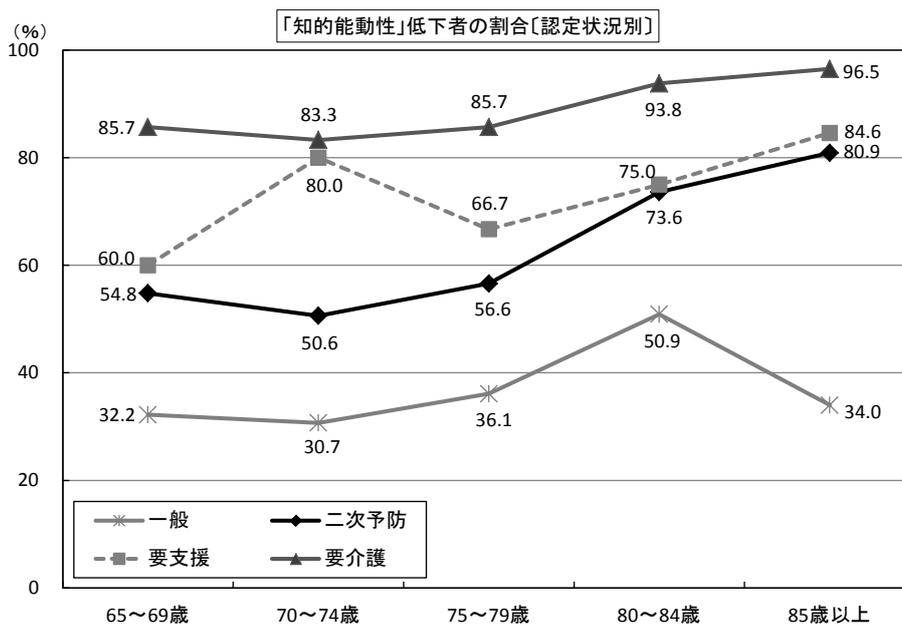
ア) 評価結果

知的能動性の評価で低下者と判断される者の割合は、認定者を含む全体で約5割（50.9%）となっており、前回調査（54.3%）から3%程度減少しているものの、高齢者の2人に1人は低下者と判断される状況にある。

男女別にみると、74歳までは「女性」より「男性」の低下者の割合が高いが、80歳以上では逆転し、85歳以上では「女性」で約8割（80.8%）、「男性」で約7割（69.7%）となっている。

認定状況別にみると、全体的に認定状況が高いほど低下者の割合も高い傾向にあるが、80歳以上では「二次予防事業対象者」と「要支援認定者」の低下者の割合がともに7～8割と、大きな差はみられない。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、非認定者においてはすべての設問で6～8割の該当率となっているが、認定者の該当率は2～5割程度と、設問によりばらつきがみられ、特に問7-Q1で2割弱（17.9%）と低くなっている。

二次予防事業対象者と要支援認定者を比較すると、問7-Q1で2割程度の差がみられ、他の設問と比べて開きがある。

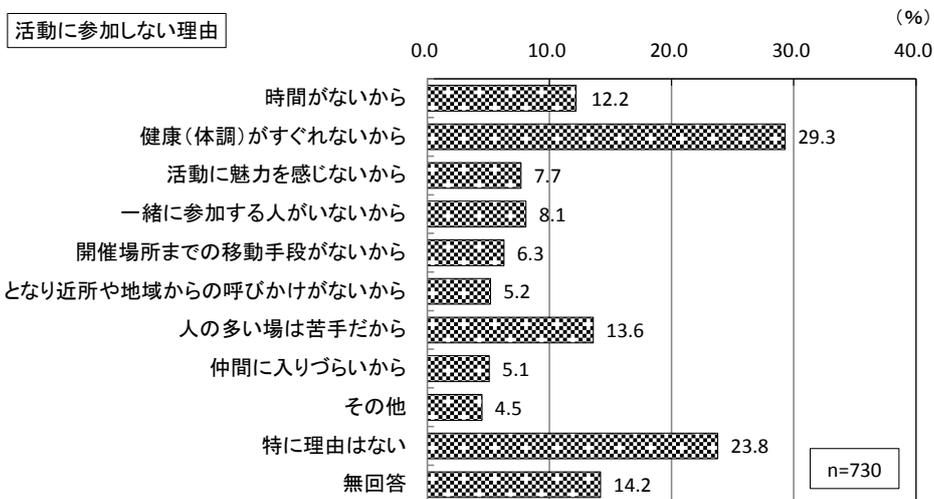
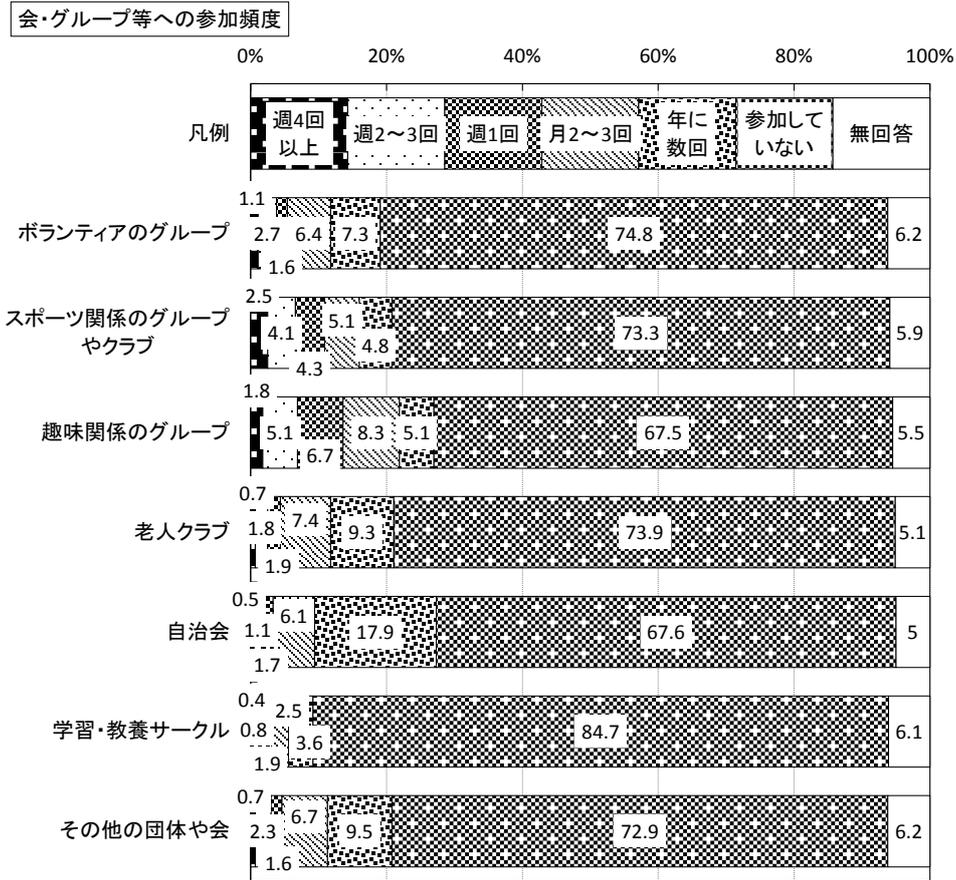
単位：%

設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問7-Q1 年金などの書類が書けますか(はい)	75.3		17.9	
	83.0	57.7	35.4	8.3
問7-Q2 新聞を読んでいますか(はい)	70.2		38.6	
	75.7	57.7	61.6	26.0
問7-Q3 本や雑誌を読んでいるか(はい)	64.8		29.3	
	71.8	48.5	50.5	17.7
問7-Q4 健康についての記事や番組に関心がありますか(はい)	84.8		50.7	
	87.4	79.0	82.8	33.1

ウ) 会・グループ等への参加状況

参加頻度については、各会・グループ等とも「参加していない」が7～8割程度を占める。『参加している』割合が比較的高いのは「自治会」や「趣味関係のグループ」だが、「自治会」については「年に数回」程度の参加が多い。

これらの会やグループ等に参加しない理由については、「健康（体調）がすぐれないから」が約3割（29.3%）と最も多く、以下「特に理由はない」（23.8%）、「人の多い場は苦手だから」（13.6%）、「時間がないから」（12.2%）と続いている。



②社会的役割

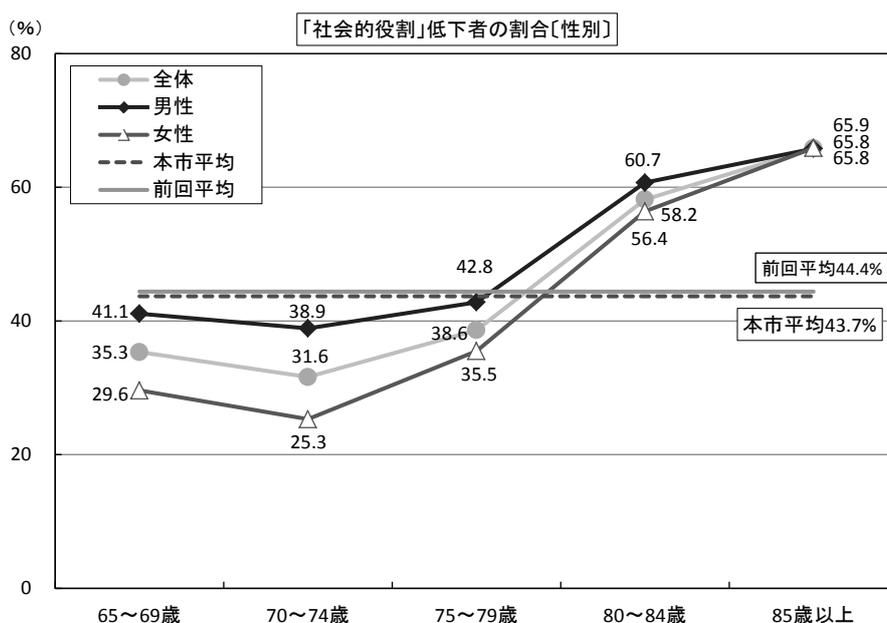
- ・友人宅への訪問、家族や友人などの相談、見舞いなど地域などで社会的な役割を担う能力をいう。
- ・老研式活動能力指標に基づき、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を「低下者」として評価する。

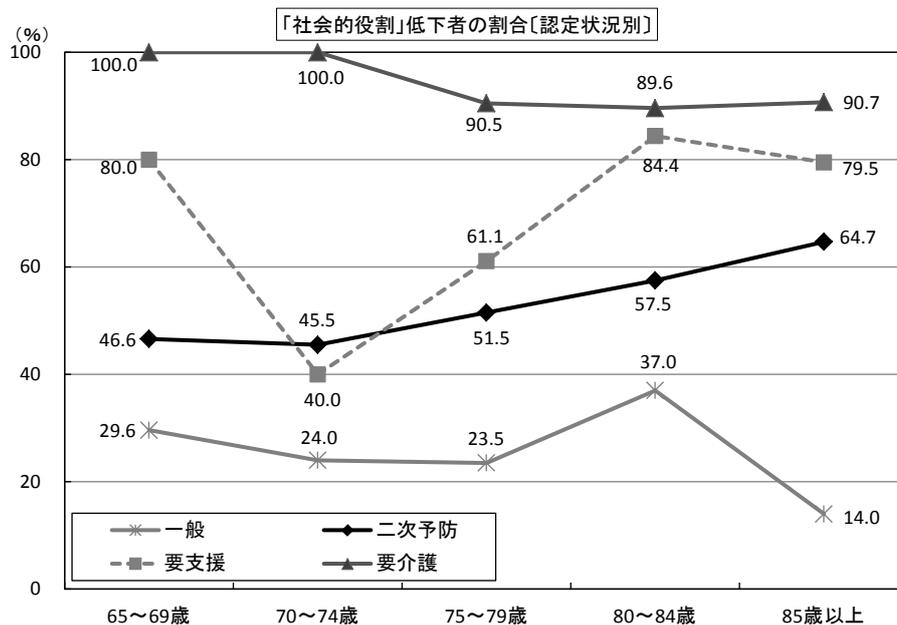
ア) 評価結果

社会的役割の評価で低下者と判断される者の割合は、認定者を含む全体で4割強（43.7%）と、前回調査（44.4%）からわずかな減少にとどまっており、高齢者のおよそ2人に1人は低下者と判断される状況にある。

男女別にみると、74歳までは「男性」に比べ「女性」の低下者の割合が1割程度低くなっているが、75歳から男女ともに低下者の割合が上昇するなか、女性の割合の上昇がやや顕著で、85歳以上ではともに7割弱と、ほぼ同様の割合となっている。

認定状況別にみると、おおむね認定状況が高くなるほど低下者の割合も高い結果となっている。





イ) 回答状況

評価の基礎になった設問の回答結果を比較すると、すべての設問で非認定者の該当率が認定者の該当率を上回っている。特に問7-Q5及び問7-Q7では認定者の該当率が低く、非認定者との差が大きい。

単位：%

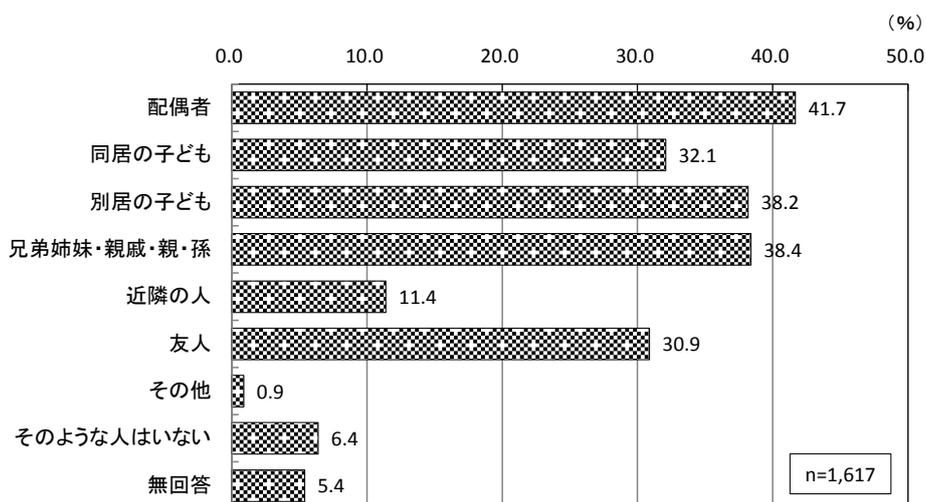
設問(該当する回答)	非認定者		認定者	
	一般	二次予防	要支援	要介護
問7-Q5 友人の家を訪ねていますか (はい)	69.4		17.9	
	75.8	54.7	34.3	8.8
問7-Q6 家族や友人の相談にのっていますか (はい)	80.1		34.6	
	85.4	67.8	60.6	20.4
問7-Q7 病人を見舞うことができますか (はい)	86.8		29.6	
	92.2	74.3	51.5	17.7
問7-Q8 若い人に自分から話しかけることがありますか (はい)	83.8		52.9	
	86.6	77.5	69.7	43.6

ウ) まわりの人との「たすけあい」の状況

【あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人】

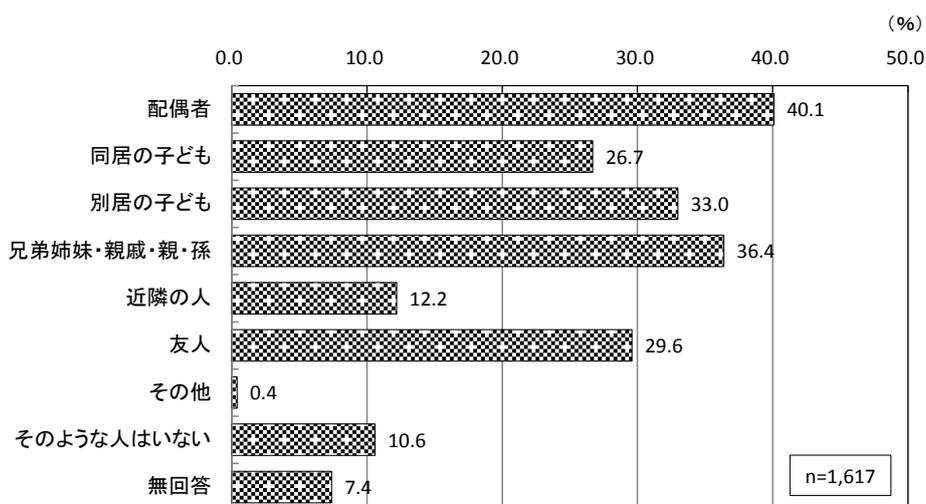
「配偶者」が4割強（41.7%）と最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（38.4%）、「別居の子ども」（38.2%）、「同居の子ども」（32.1%）と続いており、心配事などは主に配偶者や親族へ話をしている様子が見える。

一方、多くはないが、「そのような人はいない」とする回答も1割弱（6.4%）みられた。



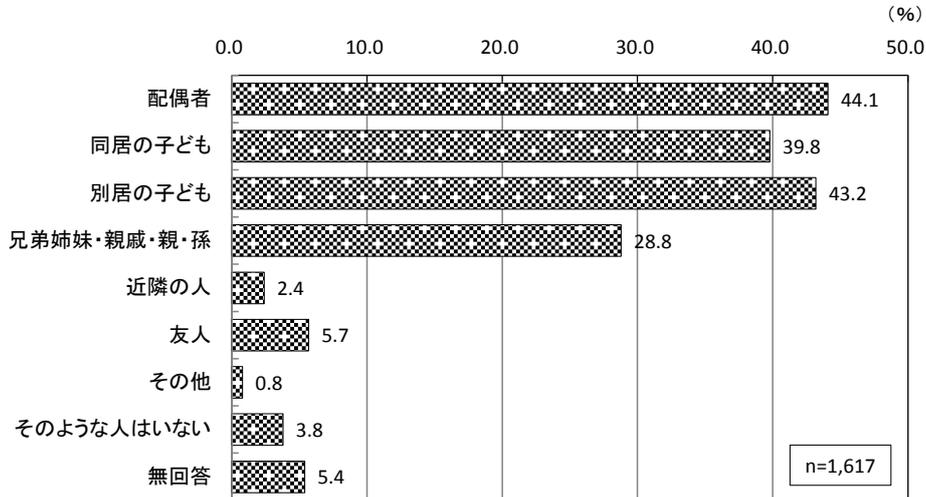
【反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人】

反対に心配事などを聞いてあげる人は、「配偶者」が約4割（40.1%）と最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（36.4%）、「別居の子ども」（33.0%）、「友人」（29.6%）と続いており、配偶者や親族などが多い状況にある。



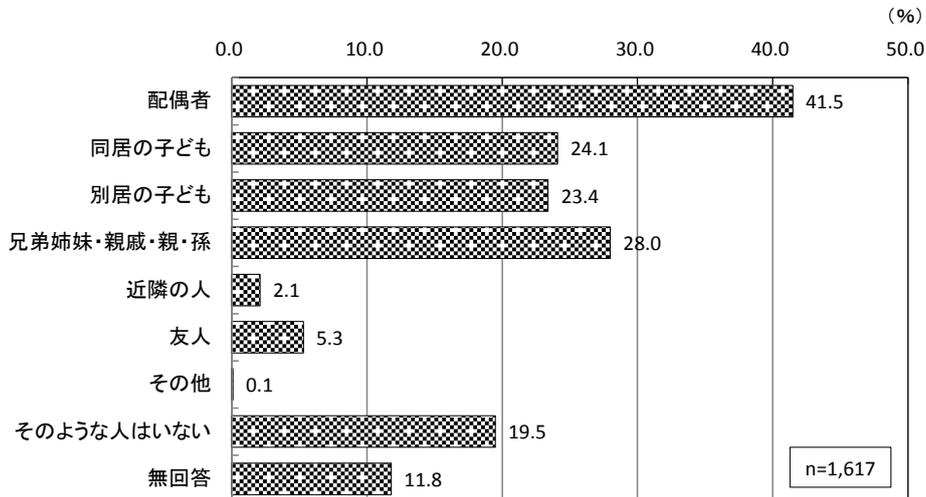
【あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人】

「配偶者」が4割強（44.1%）と最も多く、次いで「別居の子ども」（43.2%）、「同居の子ども」（39.8%）と続いており、これら別居、同居の『子ども』の回答をあわせると8割強（83.0%）となり、子どもから看病や世話を受けている割合も高いことがうかがえる。



【反対に、看病や世話をしてあげる人】

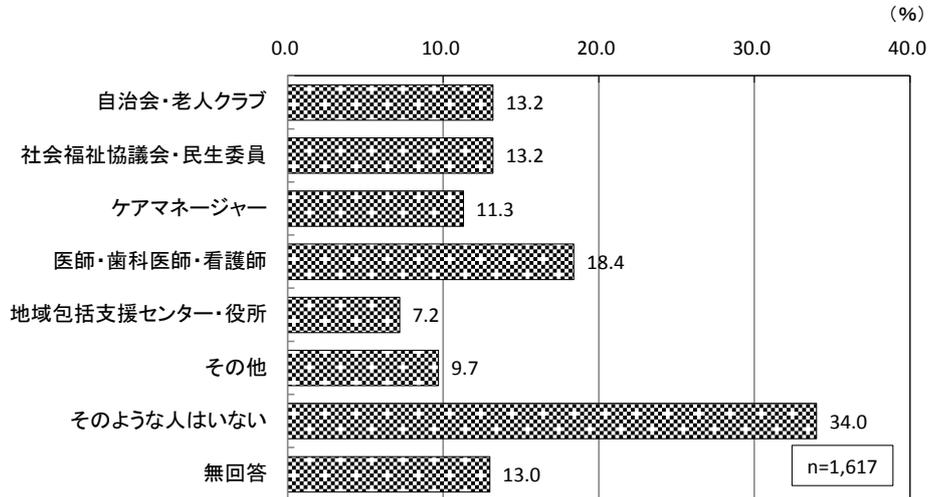
「配偶者」が4割強（41.5%）と最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.0%）、「同居の子ども」（24.1%）、「別居の子ども」（23.4%）と続いており、子ども等身近な親族の世話をしている様子が見えてくる。



【家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手】

家族や友人以外で相談できる相手としては、「そのような人はいない」が3割強（34.0%）を占めている。

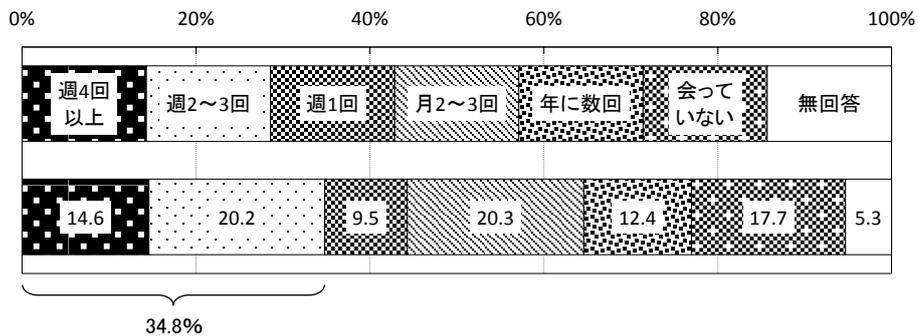
相談できる相手として挙げられたなかでは、「医師・歯科医師・看護師」が2割弱（18.4%）と最も多く、次いで「自治会・老人クラブ」・「社会福祉協議会・民生委員」（ともに13.2%）と「ケアマネジャー」（11.3%）と続いている。



【友人・知人に会う頻度】

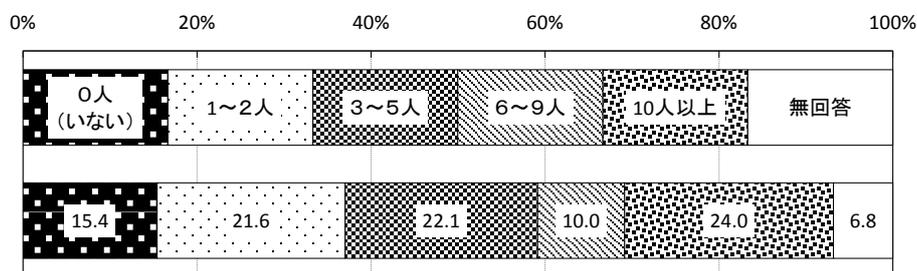
友人・知人に会う頻度については、「月1～3回」が約2割（20.3%）と最も多く、次いで「週2～3回」（20.2%）、「週4回以上」（14.6%）と続いており、週に数回（2回以上）友人と会っている割合は4割弱（34.8%）となっている。

一方「会っていない」とする回答も2割弱（17.7%）みられた。



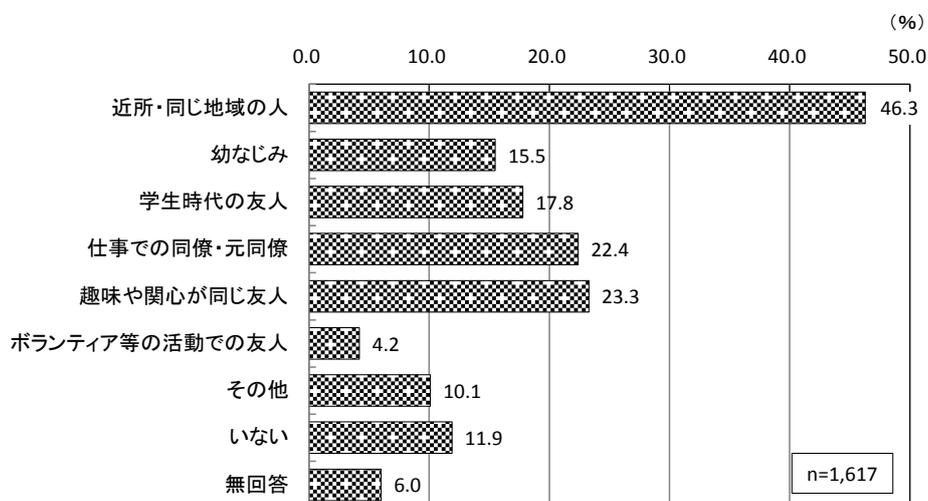
【この1か月間、何人の友人・知人と会ったか】

この1ヶ月間で会った人数については「10人以上」が2割強（24.0%）と最も多く、次いで「3～5人」が2割強（22.1%）となっており、複数の人数に会っている割合が高い。



【よく会う友人・知人との関係】

よく会う友人・知人の関係をみると、「近所・同じ地域の人」が5割弱（46.3%）と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が2割強（23.3%）、「仕事での同僚・元同僚」（22.4%）と続いている。



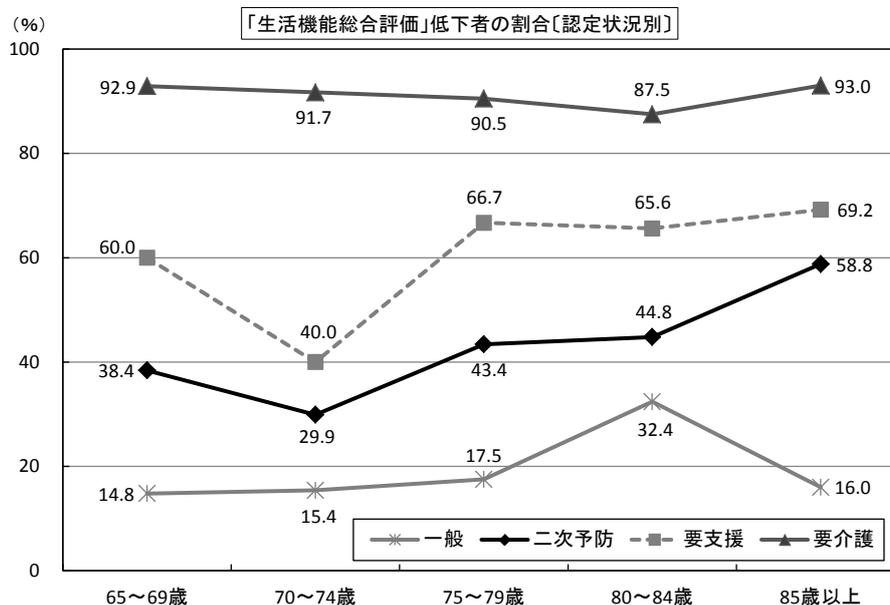
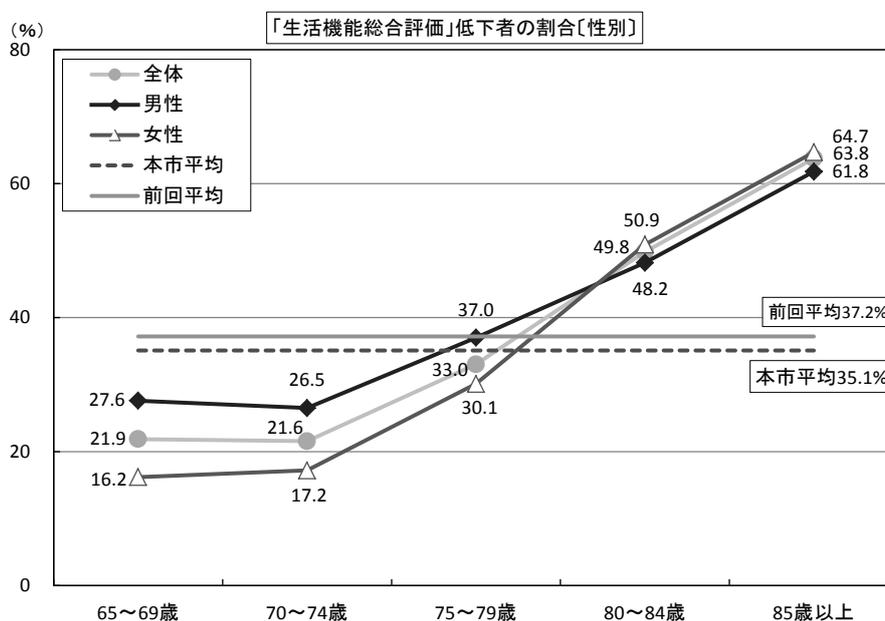
4) 生活機能

・手段的自立度（IADL）に知的能動性および社会的役割を加えた老研指標 13 項目による『生活機能総合評価』は、13 点満点で評価し、11 点以上を「高い」、9～10 点を「やや低い」、8 点以下を「低い」とし、10 点以下を「低下者」として評価する。

生活機能総合評価で低下者と判断される者の割合は、認定者を含む全体で 4 割弱（35.1%）となっており、前回調査（37.2%）から 2% 程度減少しているものの、高齢者のおよそ 3 人に 1 人は低下者と判断される状況にある。

男女別にみると、79 歳までは「女性」より「男性」の低下者の割合が高いが、80～84 歳では逆転し、以降、男女間の差がほぼみられない状況になっている。

認定状況別にみると、認定状況が高くなるほど低下者の割合も高く、非認定者と認定者とは大きな開きがある。また、「要介護認定者」はすべての年齢層で 9 割前後の高い割合となっている。



5) 考察

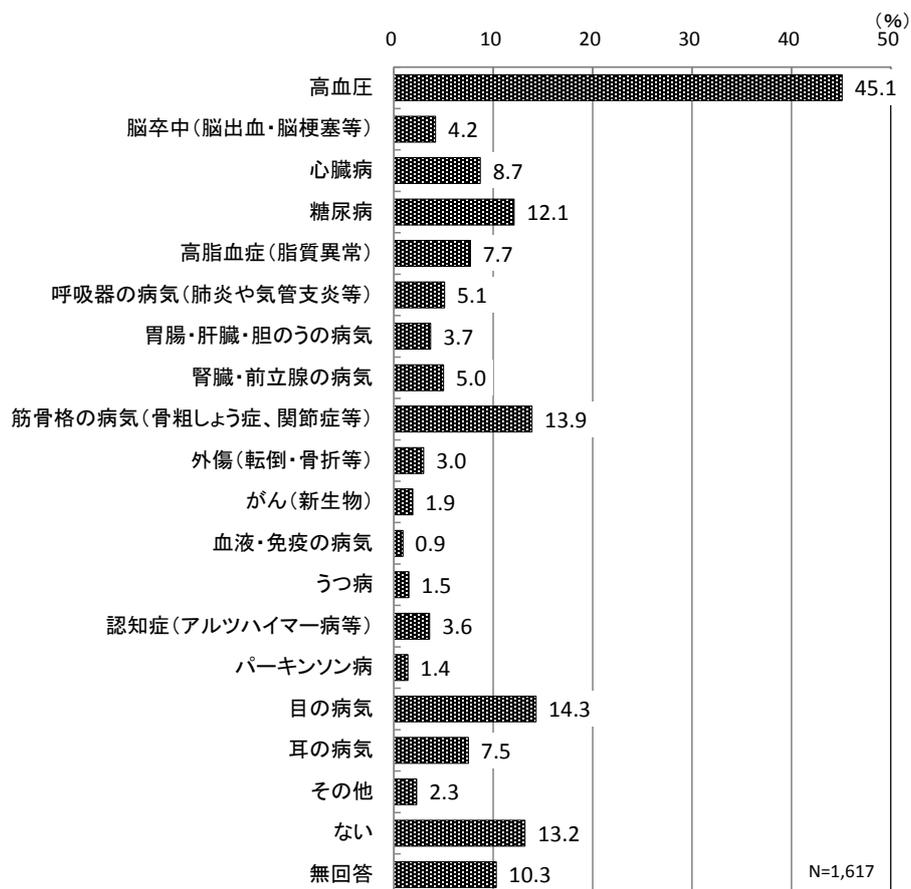
- ・認定者を除く高齢者のうち、二次予防事業対象者は約3割（30.2%）と、3人に1人が早期の介護予防に向けた取り組みが望まれる状況である。年齢が高まるとともに二次予防事業対象者の割合が高くなっており、加齢による心身機能の低下を裏付けるものとなっている。
- ・認定者を除いた高齢者の心身の個別領域（運動器、閉じこもり、栄養、口腔、認知症リスク、うつ、虚弱）で、その状況をみると、運動器（20.0%）、認知症リスク（40.5%）、うつ（28.0%）の領域で2～4割がリスクのある該当者となっており、他の領域に比べ高い。また、運動器や転倒リスク等運動系の領域で女性の該当率が高くなっている。一方、認知症リスクで男性の該当率がやや高くなっている。
- ・手段的自立（IADL）は、認知症を含むすべての高齢者の3割弱（27.3%）が低下者となっている。社会参加については、知的能動性（50.9%）、社会的役割（43.7%）それぞれ4～5割程度が低下者となっており、前述している手段的自立（IADL）よりも低下者の割合が2割程度高い。
- ・本市の高齢者において、認定者を除く高齢者の約3割で心身機能の低下がみられるが、なかでも運動器、転倒、認知、うつの領域で比較的低下者が目立つ状況にある。また、うつの領域では、前回調査時に比べてわずかながら該当率が増加している。介護予防事業等において、これらの状況を踏まえた取り組みを検討していく必要がある。
- ・社会性については、すべての高齢者の3～5割で低下がみられる。低下者の割合は、前回調査時から減少がみられるものの、手段的自立（IADL）では4人に1人程度、知的能動性や社会的役割ではそれぞれ2人に1人程度が低下者となっていることから、健康づくり、生きがいくくり、地域活動等への参加を働きかけるなど、社会性の維持、向上を図るための取り組みを進めていく必要がある。

- 手段的自立：交通機関の利用や買物、食事の用意、服装や金銭管理など活動的な日常生活をおくるための動作能力
- 知的能動性：書類を書く、新聞や本等を読む、健康情報に関心を持つなど、余暇や創作など生活を楽しむ能力
- 社会的役割：友人宅への訪問、家族や友人などの相談、見舞いなど地域などで社会的な役割を担う能力

(3) 健康・疾病

1) 疾病

現在治療中、または後遺症があるとする病気は「高血圧」が5割弱（45.1%）と最も多く、以下「目の病気」（14.3%）、「筋骨格の病気」（13.9%）、「糖尿病」（12.1%）、「心臓病」（8.7%）と続いている。



単位: %

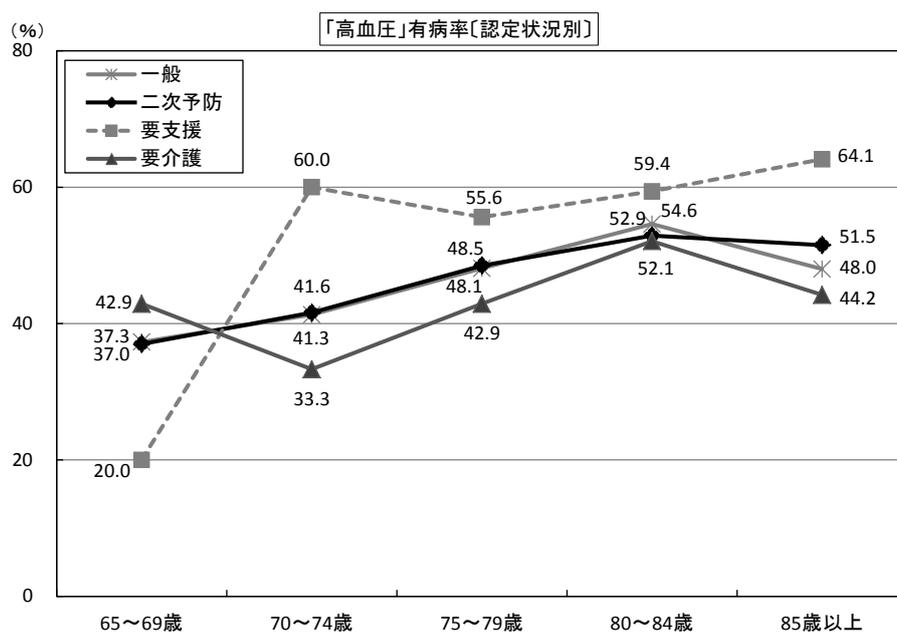
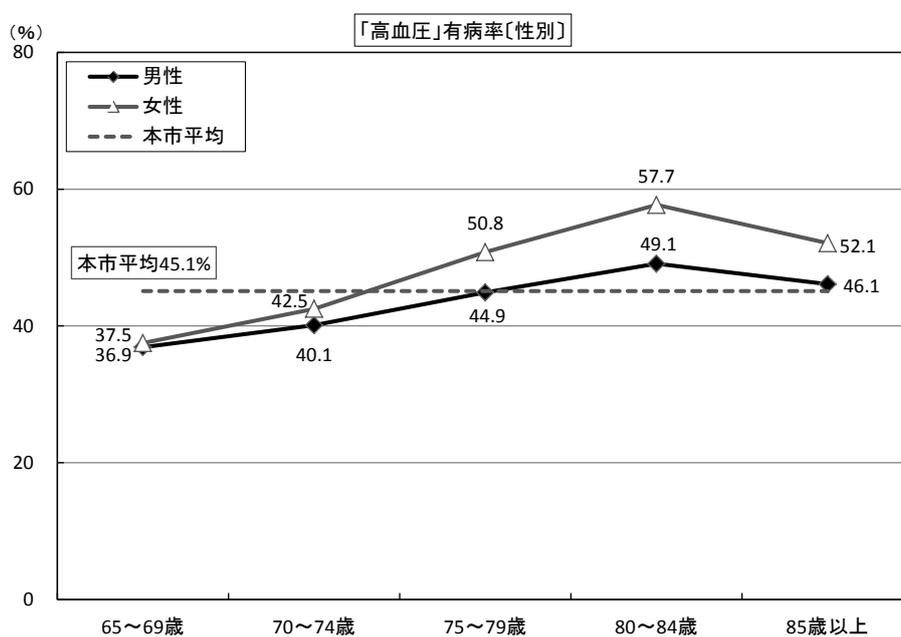
	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	筋骨格の病気	がん(新生物)
全体	45.1	4.2	8.7	12.1	13.9	1.9
一般	43.1	1.3	5.9	10.5	8.8	1.8
二次予防	46.5	6.7	9.2	12.1	16.1	1.7
要支援	58.6	4.0	18.2	14.1	39.4	1.0
要介護	45.3	13.8	16.6	18.8	21.5	2.8

①高血圧

現在治療中、または後遺症があるとする病気で最も多いのは「高血圧」であり、有病率は平均5割弱（45.1%）と、本市の高齢者のおよそ2人に1人が治療中、または後遺症があるとしている。

男女別にみると、「男性」より「女性」の有病率がやや高く、80～84歳では1割程度の差がみられる。

認定状況別にみると、それぞれの有病率は、「要支援認定者」（平均58.6%）、「二次予防事業対象者」（平均46.5%）、「要介護認定者」（平均45.3%）、「一般高齢者」（平均43.1%）の順で高くなっている。どの認定状況においても、おおむね年齢があがるとともに有病率が高くなる傾向がみられるが、とりわけ70歳以上の「要支援認定者」の有病率が6割前後と高くなっている。

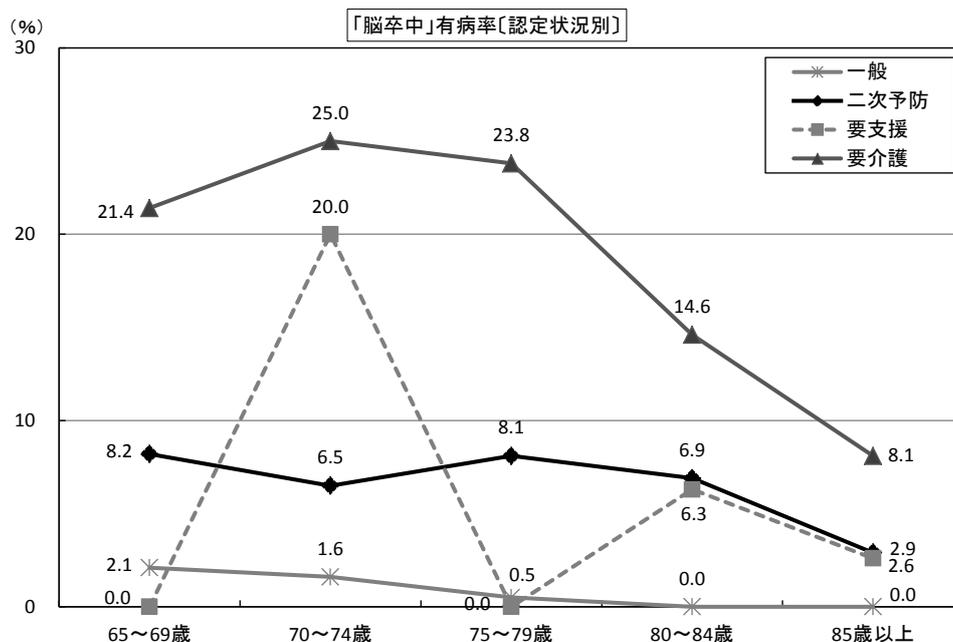
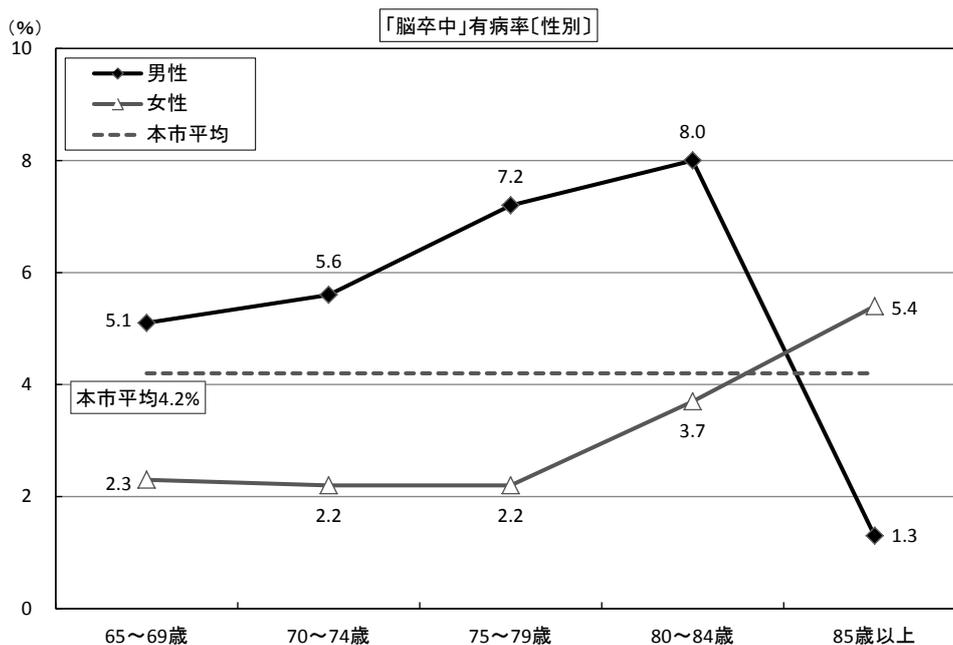


②脳卒中

「脳卒中」の有病率は平均 4.2%となっている。

男女別にみると、おおむね「男性」の有病率が高いが、85歳以上では「女性」の有病率が高くなっている。

認定状況別にみると、それぞれの有病率は、「要介護認定者」（平均 13.8%）が最も高く、すべての年齢で有病率が高い水準にある。以下「二次予防事業対象者」（平均 6.7%）、「要支援認定者」（平均 4.0%）、「一般高齢者」（平均 1.3%）の順で高くなっているが、80歳以上では「二次予防事業対象者」と「要支援認定者」の有病率に差がみられない状況にある。

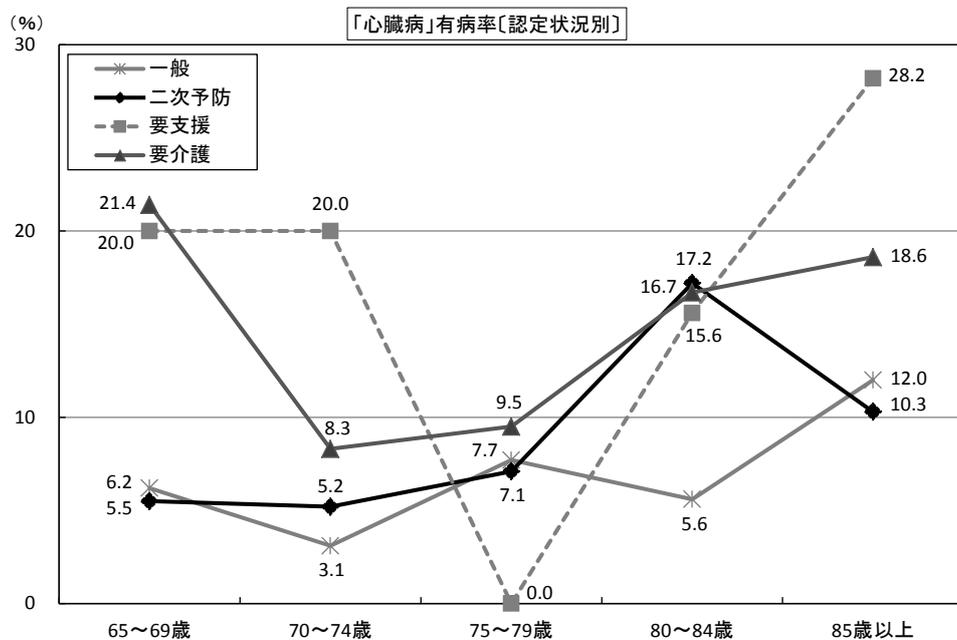
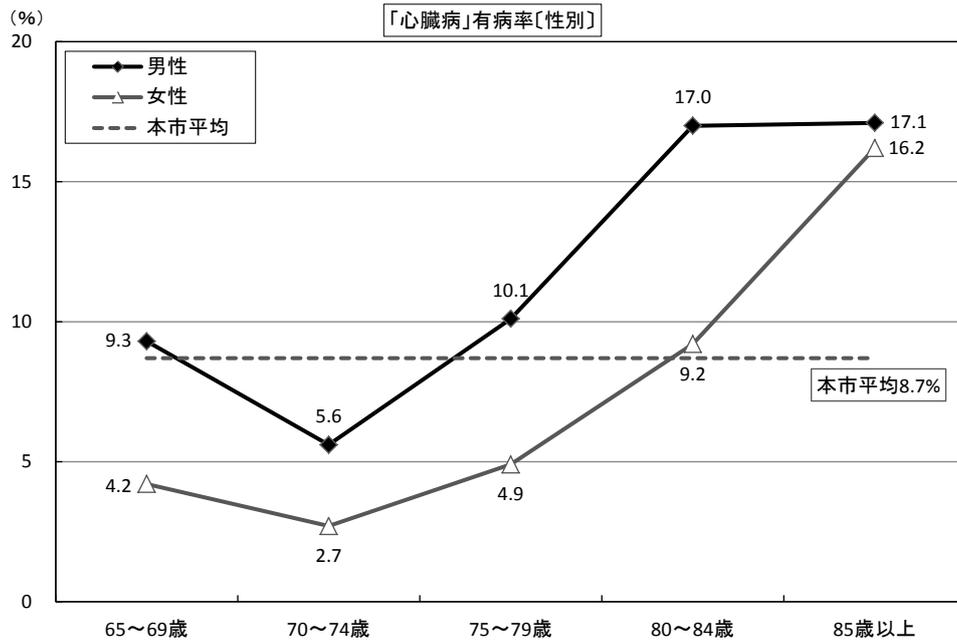


③心臓病

「心臓病」の有病率は平均1割弱（8.7%）であり、本市の高齢者のおよそ10人に1人が心臓病を患っている。

男女別で見ると、全体的に「男性」の有病率が「女性」よりも高い状況にある。

認定状況別にみると、それぞれの有病率は、「要支援認定者」（平均18.2%）、「要介護認定者」（平均16.6%）、「二次予防事業対象者」（平均9.2%）、「一般高齢者」（平均5.9%）の順で高くなっている。

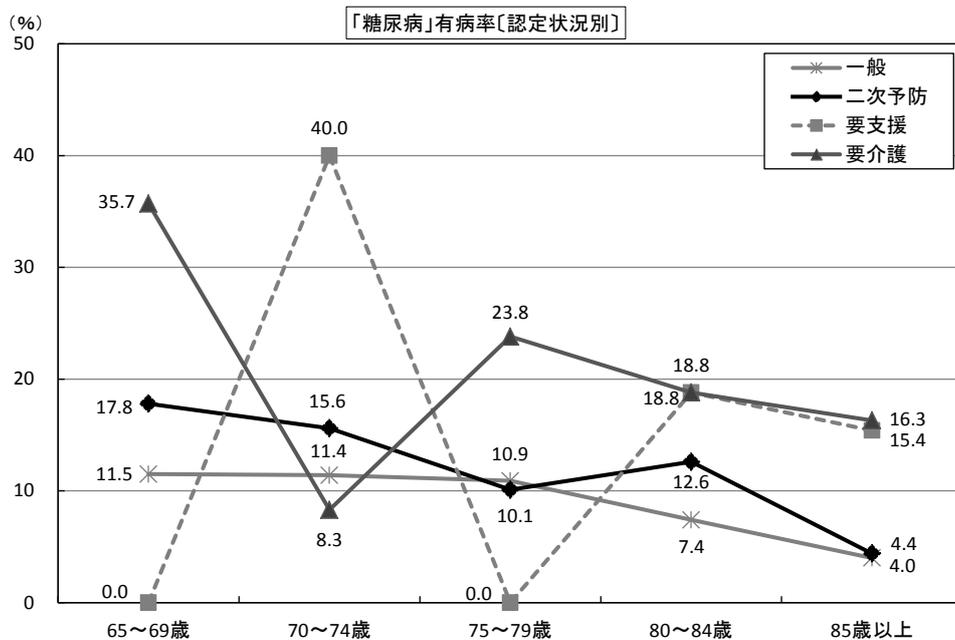
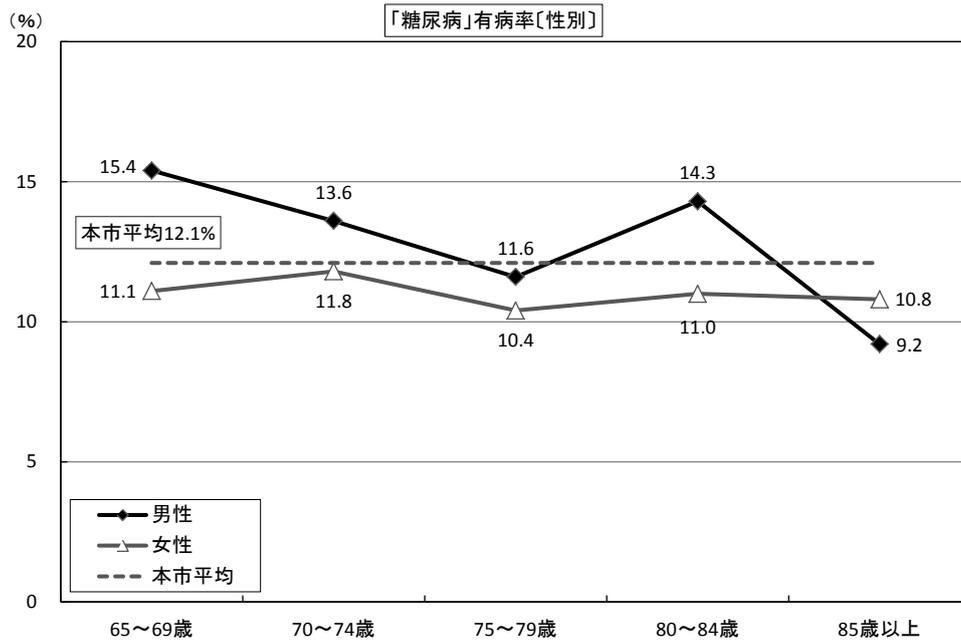


④糖尿病

「糖尿病」の有病率は平均1割強（12.1%）であり、本市の高齢者のおよそ10人に1人が糖尿病を患っている。

男女別で見ると、おおむね「男性」の有病率が女性よりも高い。

認定状況別にみると、それぞれの有病率は、「要介護認定者」（平均18.8%）、「要支援認定者」（平均14.1%）、「二次予防事業対象者」（平均12.1%）、「一般高齢者」（平均10.5%）の順で高くなっている。

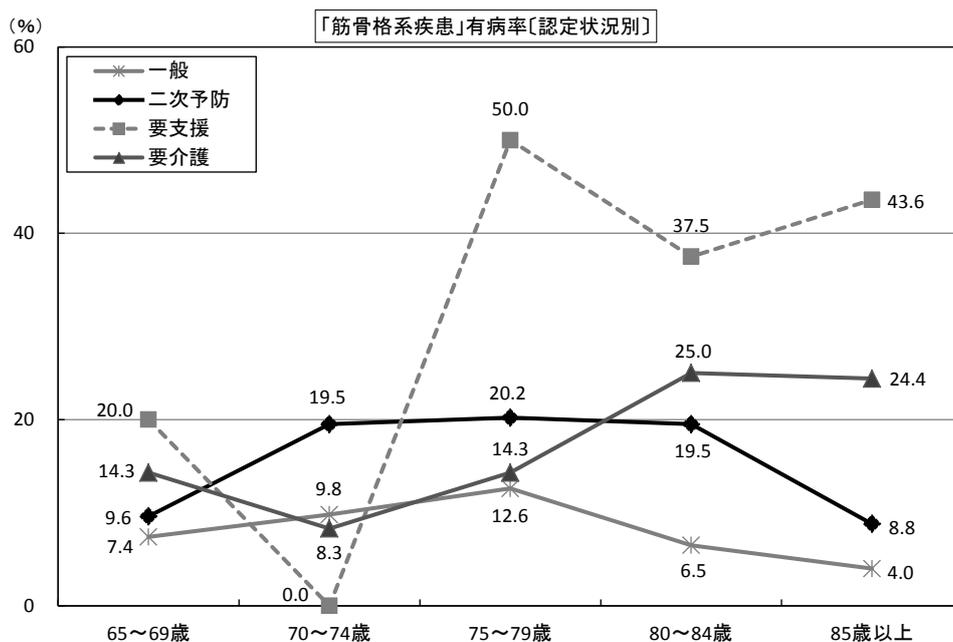
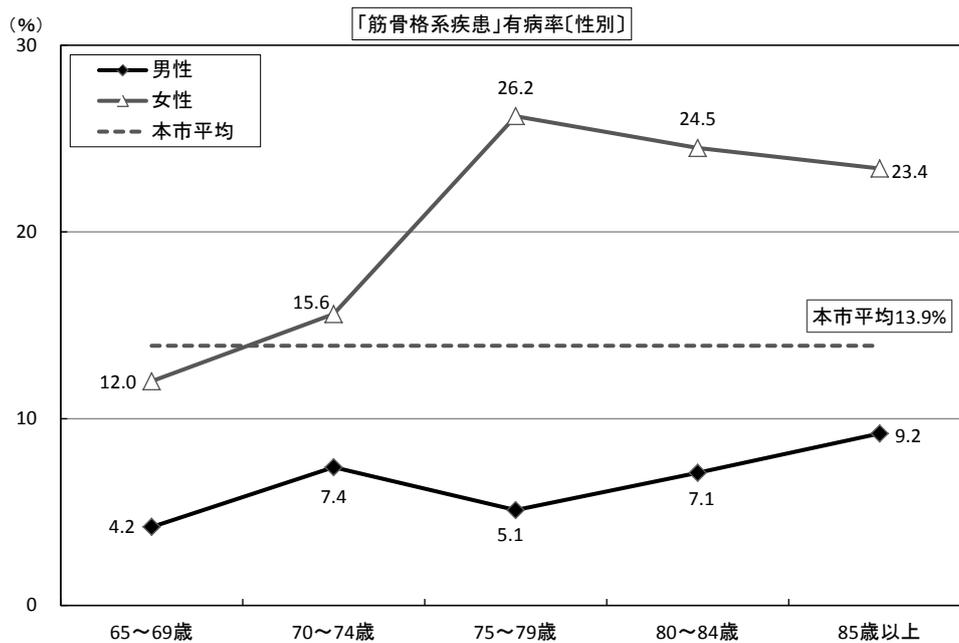


⑤筋骨格系疾患

「筋骨格系疾患」の有病率は平均1割強（13.9%）であり、本市の高齢者のおよそ10人に1人が筋骨格系疾患を患っている。

男女別で見ると、「男性」と比べて「女性」の有病率が高く、とりわけ75歳以上で差が大きい。

認定状況別にみると、それぞれの有病率は、「要支援認定者」（平均39.4%）、「要介護認定者」（平均21.5%）、「二次予防事業対象者」（平均16.1%）、「一般高齢者」（平均8.8%）の順で高くなっている。

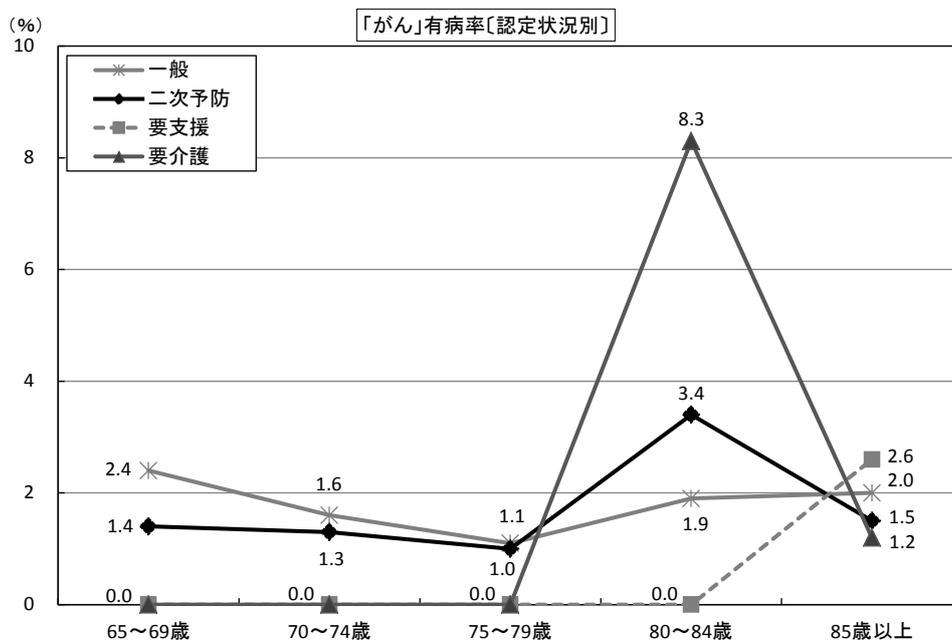
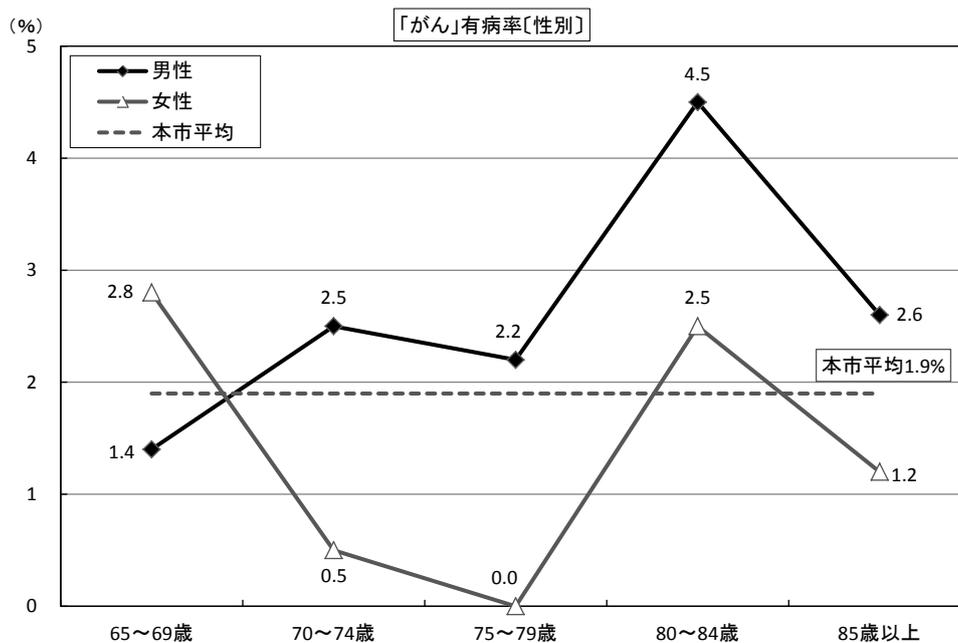


⑥がん

「がん」の有病率は平均1.9%となっている。

男女別で見ると、おおむね「男性」の有病率が「女性」に比べて高くなっている。

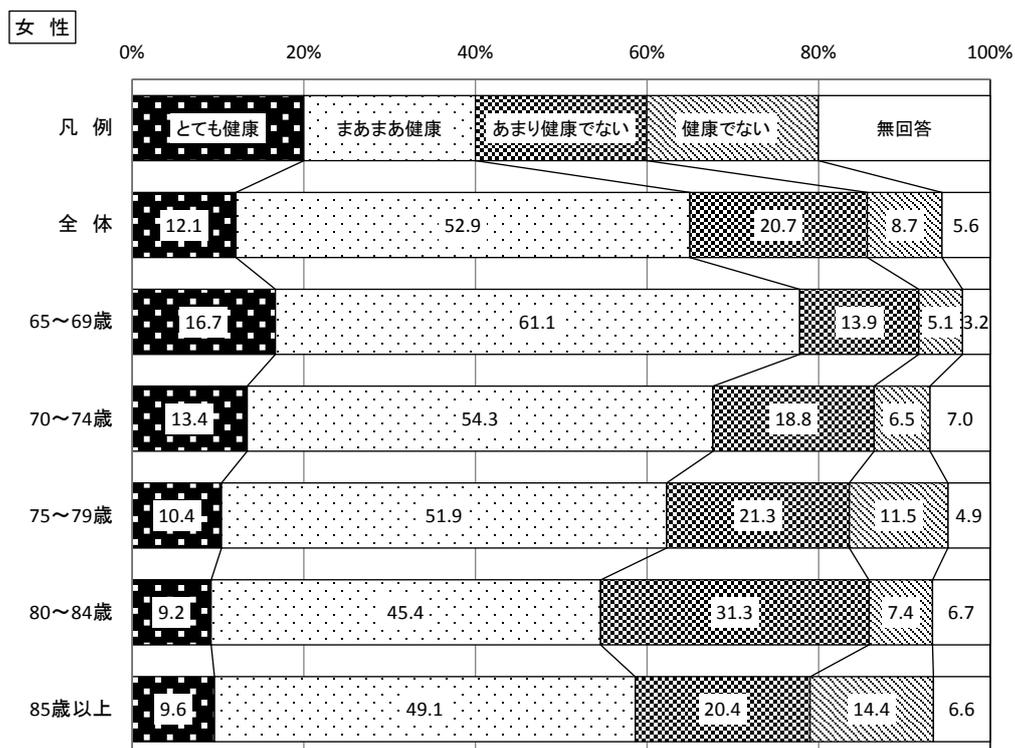
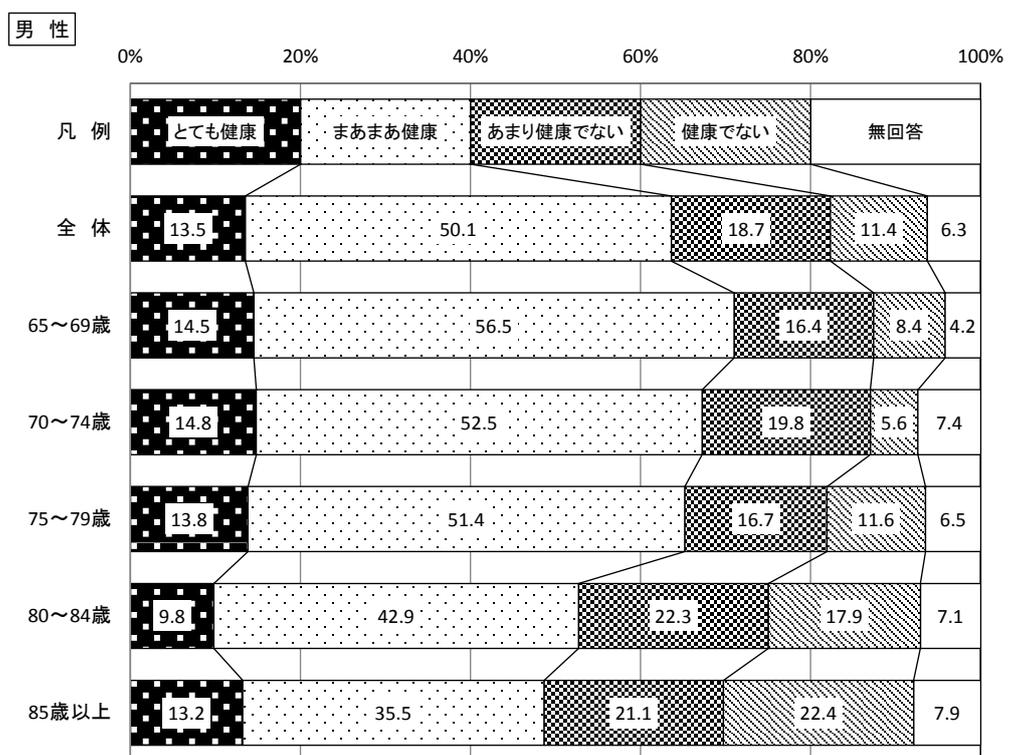
認定状況別にみると、80～84歳の「要介護認定者」の有病率が高くなっているが、全体的には、「一般高齢者」（平均1.8%）や「二次予防事業対象者」（平均1.7%）の有病率が比較的高くなっている。



2) 主観的健康感

ア) 回答結果

普段の自分の健康状態については、おおむね男女とも年齢があがるほど『健康群』（「とても健康」＋「まあまあ健康」）と感じている割合が減少し、『不健康群』（「あまり健康でない」＋「健康でない」）が増える傾向にある。

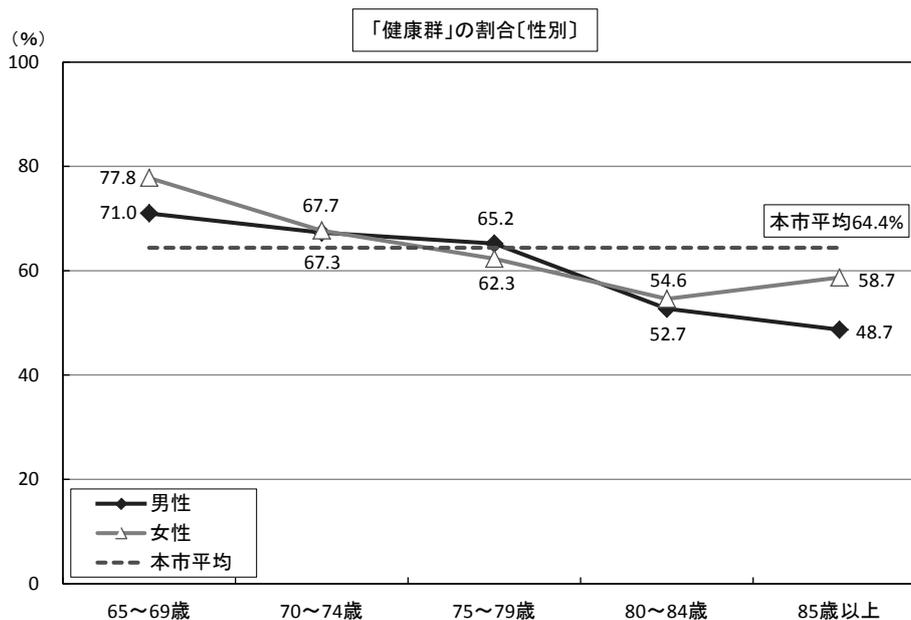


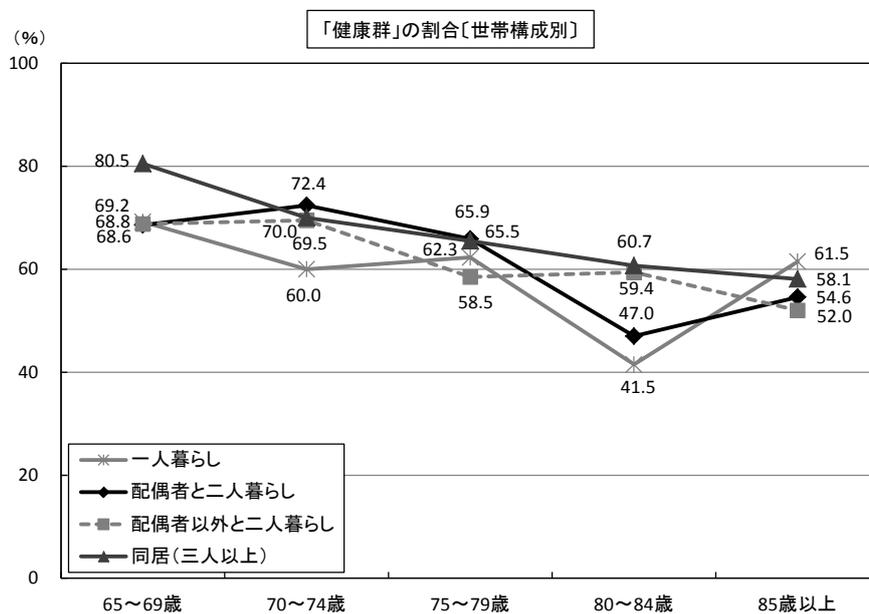
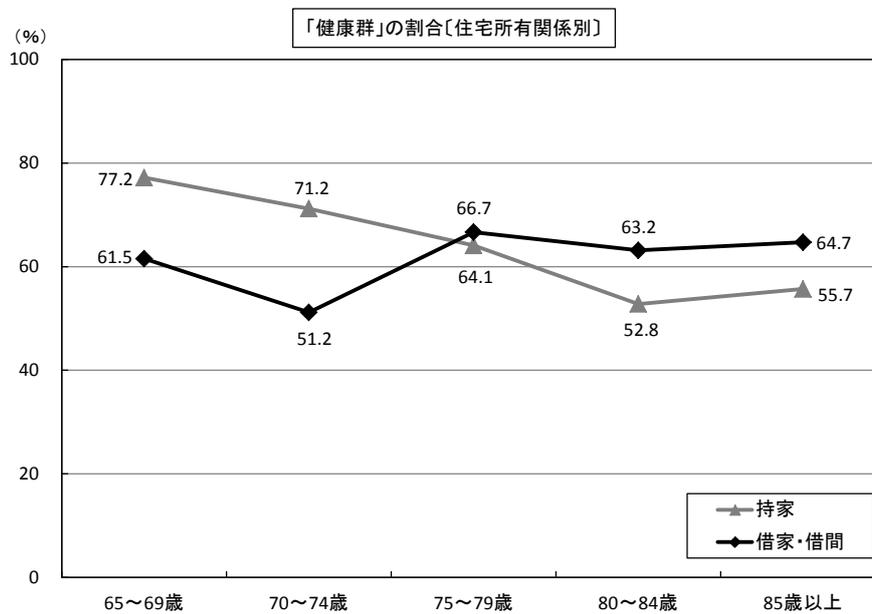
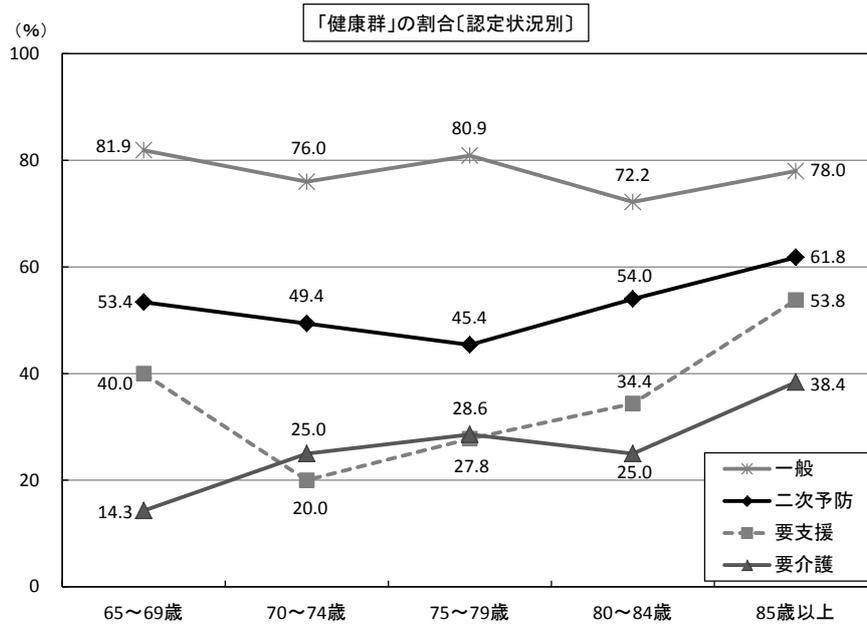
イ) 属性別の健康群の場合

認定状況別に『健康群』の割合をみると、「一般高齢者」では8割弱（78.8%）となっているのに対し、「二次予防事業対象者」では5割強（52.2%）、「要支援認定者」では約4割（40.4%）、「要介護認定者」では約3割（30.9%）となっている。

男女別でみると、85歳以上で開きがみられるものの、男女間に大きな差はみられない。また、住宅の所有関係や世帯構成による健康群の割合についても、大きな差はみられない。

上段:件数、下段:割合(%)		合計	とても健康	まあまあ健康	あまり健康でない	健康でない	無回答	健康群 (%)	不健康群 (%)	差 (%)
全 体		1,617 100.0	206 12.7	836 51.7	320 19.8	160 9.9	95 5.9	64.4	29.7	34.7
認定状況別	一般	933 100.0	177 19.0	558 59.8	114 12.2	28 3.0	56 6.0	78.8	15.2	63.6
	二次予防	404 100.0	22 5.4	189 46.8	117 29.0	52 12.9	24 5.9	52.2	41.9	10.3
	要支援	99 100.0	3 3.0	37 37.4	32 32.3	24 24.2	3 3.0	40.4	56.5	-16.1
	要介護	181 100.0	4 2.2	52 28.7	57 31.5	56 30.9	12 6.6	30.9	62.4	-31.5
住宅所有別	持家	1,358 100.0	174 12.8	717 52.8	267 19.7	133 9.8	67 4.9	65.6	29.5	36.1
	借家・借間	174 100.0	22 12.6	83 47.7	39 22.4	18 10.3	12 6.9	60.3	32.8	27.6
	その他	32 100.0	4 12.5	17 53.1	5 15.6	3 9.4	3 9.4	65.6	25.0	40.6
世帯構成別	一人暮らし	280 100.0	34 12.1	132 47.1	69 24.6	27 9.6	18 6.4	59.2	34.2	25.0
	配偶者と二人暮らし	354 100.0	52 14.7	178 50.3	71 20.1	32 9.0	21 5.9	65.0	29.1	35.9
	配偶者以外と二人暮らし	199 100.0	18 9.0	103 51.8	44 22.1	21 10.6	13 6.5	60.8	32.7	28.1
	同居(三人以上)	728 100.0	100 13.7	400 54.9	127 17.4	67 9.2	34 4.7	68.6	26.6	42.0





3) 考察

- ・有病率については「高血圧」が5割弱（45.1%）と最も高く、以下「目の病気」（14.3%）、「筋骨格の病気」（13.9%）、「糖尿病」（12.1%）、「心臓病」（8.7%）の順で有病率が高い。
- ・「脳卒中」、「心臓病」、「筋骨格系疾患」については、年齢があがるほど有病率が高くなる傾向にある。
- ・また、「脳卒中」、「心臓病」、「糖尿病」については男性の有病率が高く、「筋骨格系疾患」については女性の有病率が高い。
- ・主観的健康感については、年齢が高くなるほど『健康群』（「とても健康」＋「まあまあ健康」）と感している割合が減少する傾向にある。認定状況別にみると、一般高齢者の8割弱（78.8%）が『健康群』と感しているのに対し、二次予防事業対象者では5割強（52.2%）、認定者では3～4割程度（要支援認定者 40.4%、要介護認定者 30.9%）となっている。

(4) 介護

1) 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」(30.3%)を除くと、「認知症」が2割弱(18.9%)で最も多く、以下「心臓病」(13.5%)、「脳卒中」(13.0%)、「糖尿病」(10.9%)と続いている。

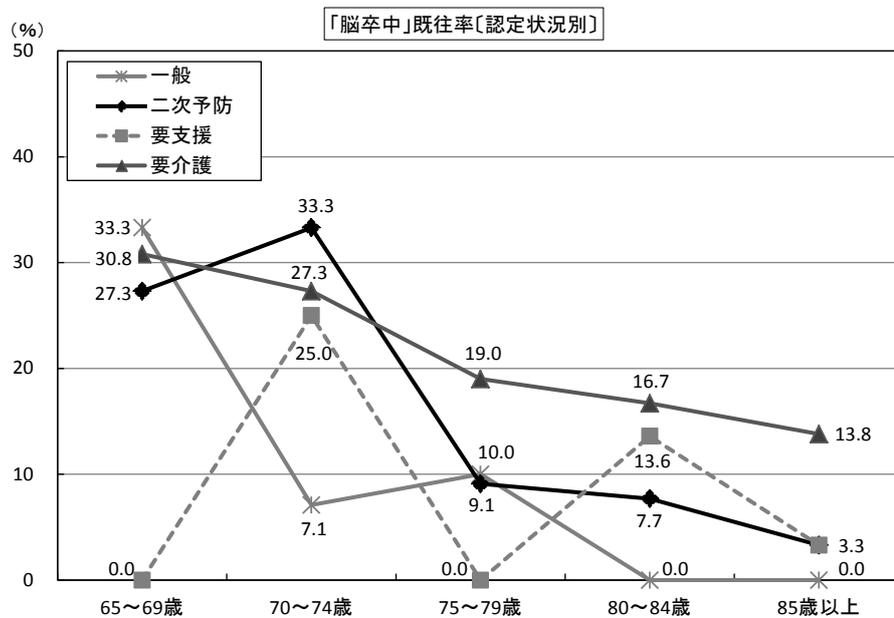
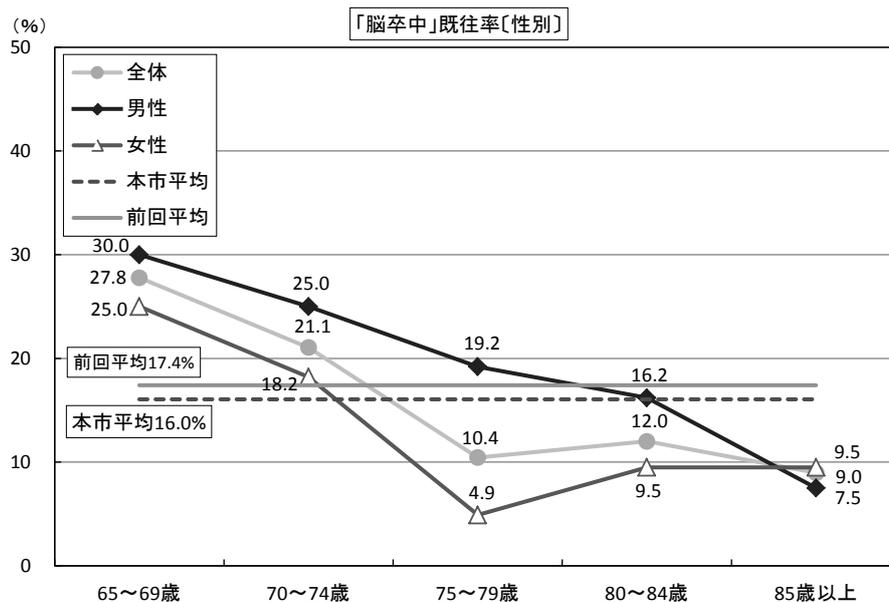
		上段:件数、下段:割合(%)															
	総数	1 脳 卒 中	2 心 臓 病	3 が ん	4 呼 吸 器 の 病 気	5 関 節 の 病 気	6 認 知 症	7 パ ー キ ン ソ ン 病	8 糖 尿 病	9 視 覚 ・ 聴 覚 障 害	10 骨 折 ・ 転 倒	11 脊 髄 損 傷	12 高 齢 に よ る 衰 弱	13 そ の 他	14 不 明	無 回 答	
全体	386	50	52	12	19	40	73	16	42	40	70	18	117	24	4	40	
	100.0	13.0	13.5	3.1	4.9	10.4	18.9	4.1	10.9	10.4	18.1	4.7	30.3	6.2	1.0	10.4	
男性	139	24	19	5	9	10	23	5	19	17	10	7	39	9	1	17	
	100.0	17.3	13.7	3.6	6.5	7.2	16.5	3.6	13.7	12.2	7.2	5.0	28.1	6.5	0.7	12.2	
	65～69歳	20	6	3	2	1	1	2	1	3	4	2	3	2	2	1	2
	100.0	30.0	15.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	15.0	20.0	10.0	15.0	10.0	10.0	5.0	10.0	
	70～74歳	16	4	0	0	0	1	0	0	1	2	2	1	3	0	0	5
	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	12.5	12.5	6.3	18.8	0.0	0.0	31.3	
75～79歳	26	5	2	1	1	2	4	3	3	2	0	2	3	2	0	2	
100.0	19.2	7.7	3.8	3.8	7.7	15.4	11.5	11.5	7.7	0.0	7.7	11.5	7.7	0.0	7.7		
80～84歳	37	6	12	1	2	4	7	1	8	4	6	0	11	3	0	3	
100.0	16.2	32.4	2.7	5.4	10.8	18.9	2.7	21.6	10.8	16.2	0.0	29.7	8.1	0.0	8.1		
85歳以上	40	3	2	1	5	2	10	0	4	5	0	1	20	2	0	5	
100.0	7.5	5.0	2.5	12.5	5.0	25.0	0.0	10.0	12.5	0.0	2.5	50.0	5.0	0.0	12.5		
女性	247	26	33	7	10	30	50	11	23	23	60	11	78	15	3	23	
	100.0	10.5	13.4	2.8	4.0	12.1	20.2	4.5	9.3	9.3	24.3	4.5	31.6	6.1	1.2	9.3	
	65～69歳	16	4	2	0	3	6	3	0	3	1	3	2	0	1	0	1
	100.0	25.0	12.5	0.0	18.8	37.5	18.8	0.0	18.8	6.3	18.8	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	
	70～74歳	22	4	1	1	0	0	0	5	1	1	3	0	2	6	0	3
	100.0	18.2	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	22.7	4.5	4.5	13.6	0.0	9.1	27.3	0.0	13.6	
75～79歳	41	2	5	1	1	5	5	2	2	2	13	2	13	0	1	4	
100.0	4.9	12.2	2.4	2.4	12.2	12.2	4.9	4.9	4.9	31.7	4.9	31.7	0.0	2.4	9.8		
80～84歳	63	6	7	5	3	11	10	3	7	6	18	2	12	4	2	5	
100.0	9.5	11.1	7.9	4.8	17.5	15.9	4.8	11.1	9.5	28.6	3.2	19.0	6.3	3.2	7.9		
85歳以上	105	10	18	0	3	8	32	1	10	13	23	5	51	4	0	10	
100.0	9.5	17.1	0.0	2.9	7.6	30.5	1.0	9.5	12.4	21.9	4.8	48.6	3.8	0.0	9.5		

①脳卒中

介護・介助が必要になった主な原因として「脳卒中」をあげた回答者の割合（既往率）は、全体で2割弱（16.0%）となっており、前回調査（17.4%）から若干減少している。

男女別にみると、おおむね「男性」の既往率が「女性」と比べて高くなっている。

認定状況別にみると、どの認定状況でもおおむね年齢があがるとともに既往率が下がる傾向にあるが、「要介護認定者」については全体的に既往率が比較的高く、85歳以上で1割強（13.8%）みられる。

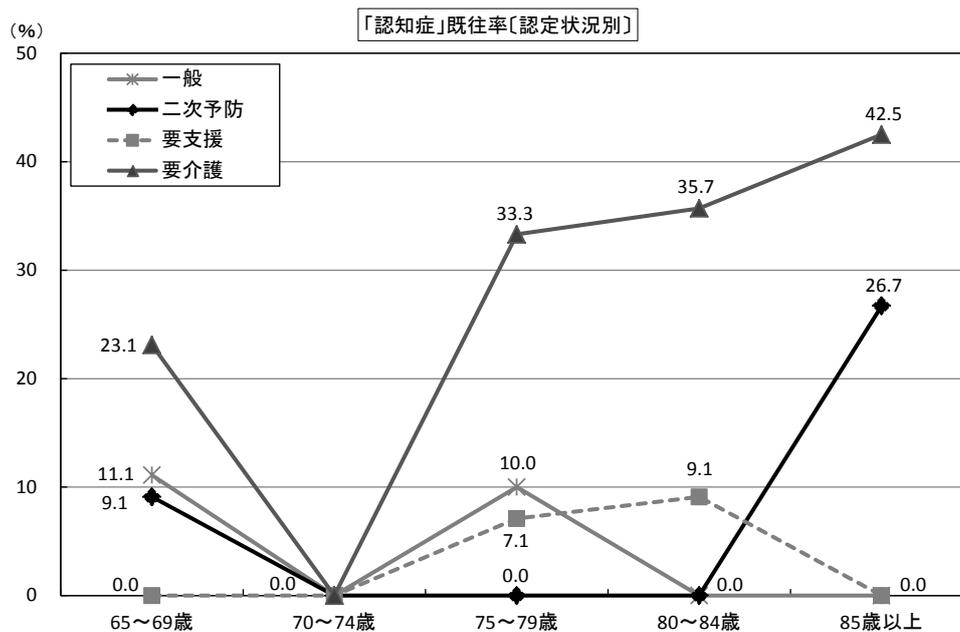
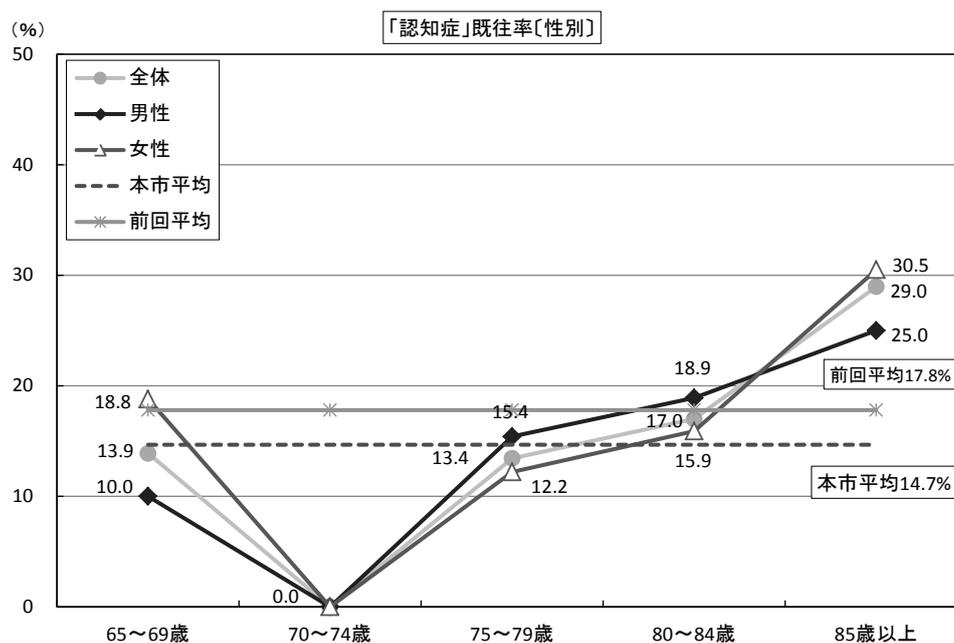


②認知症

介護・介助が必要になった主な原因として「認知症」をあげた回答者の割合（既往率）は、全体で1割強（14.7%）となっており、前回調査（17.8%）から3%程度減少している。

男女別にみると、「女性」は65～69歳で「男性」よりも1割程度既往率が高く、また、85歳以上では約3割（30.5%）に達している。

認定状況別にみると、「要介護認定者」の既往率が全体的に高く、とりわけ75歳以上では3割以上、85歳以上では4割を超える既往率となっている。また、「二次予防事業対象者」についても、85歳以上で急激に上昇し、3割弱（26.7%）の既往率となっている。



2) 介護の状況

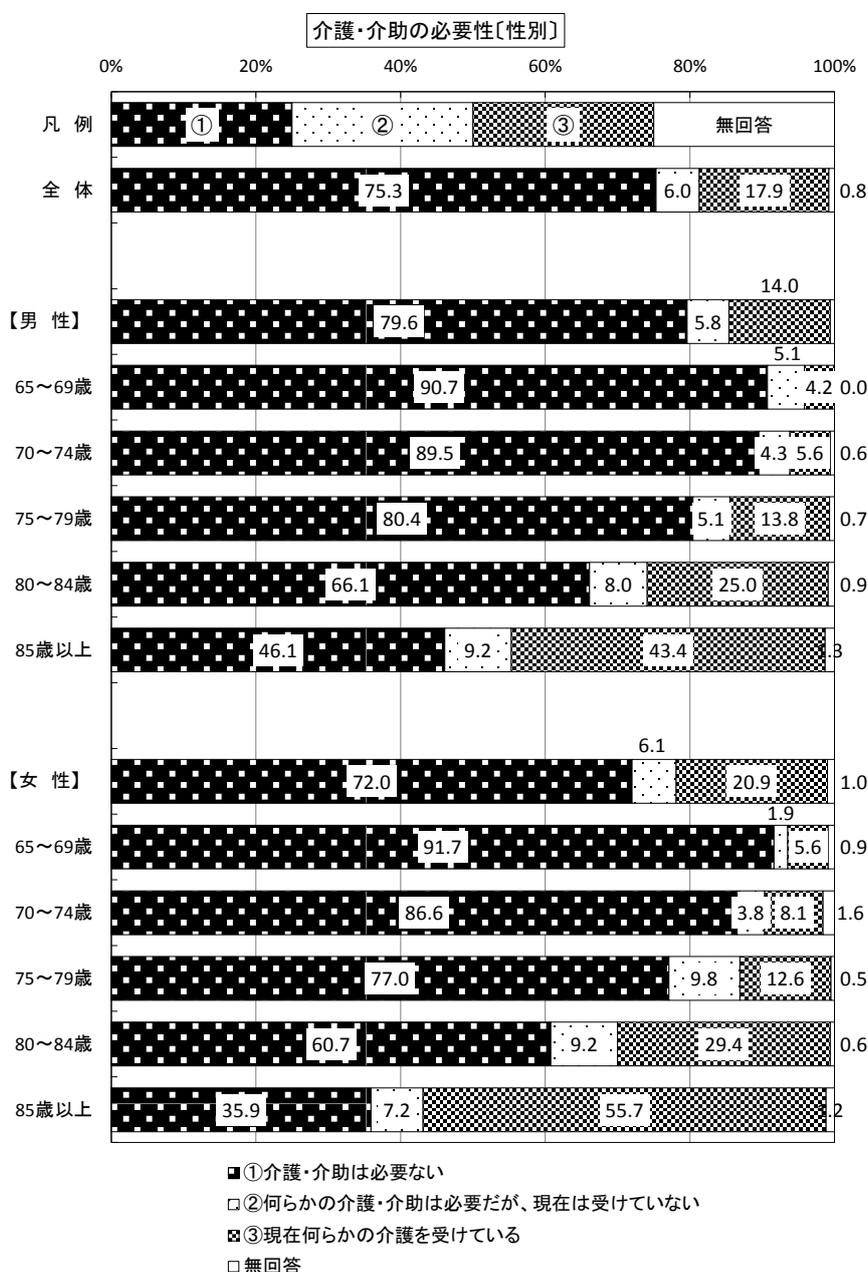
①介護の必要性

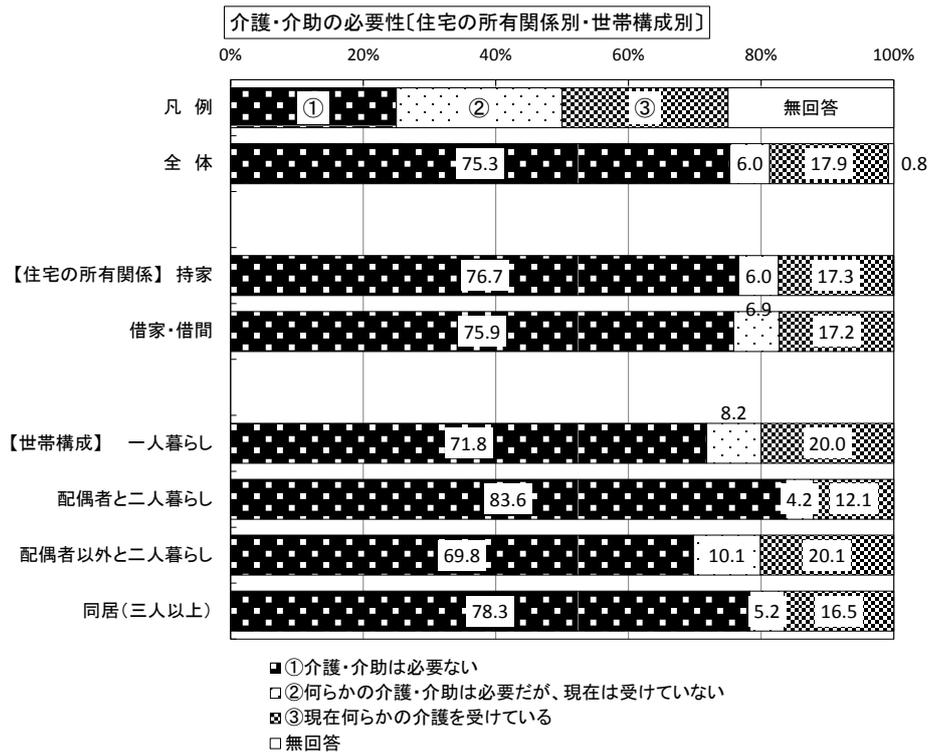
介護の必要性に関して、『介護が必要な者（「現在何らかの介護を受けている」＋「何らかの介護・介助は必要だが現在受けていない」）』は2割強（23.9%）となっている。

男女とも年齢があがるほど『介護が必要な者』の割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では「男性」で5割強（52.6%）、女性では6割強（62.9%）に達している。

住宅の所有関係による介護の必要性については差がみられない。

世帯構成別にみると、「一人暮らし」や「配偶者以外と二人暮らし」で『介護が必要な者』が3割前後と比較的高くなっている。



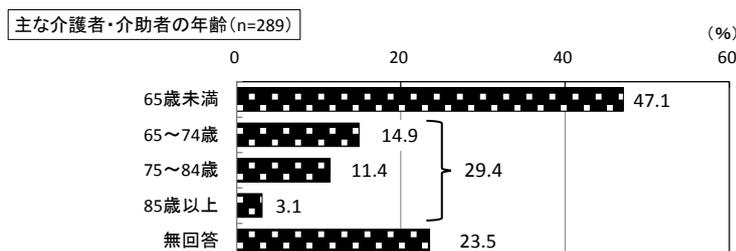
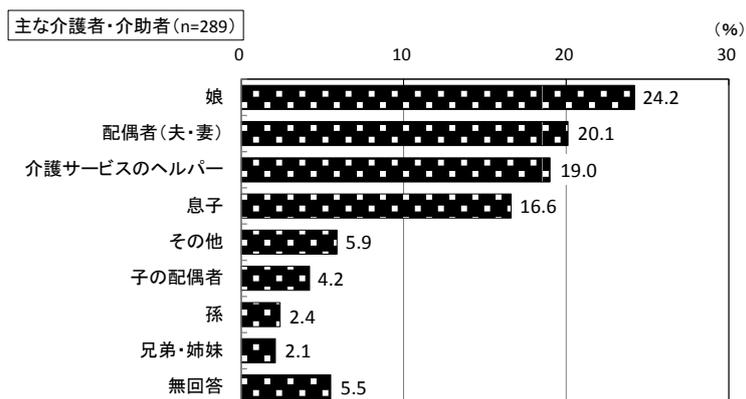


②介護者

「介護・介助を受けている」と回答した者の主な介護者・介助者は、「娘」が2割強（24.2%）と最も多く、以下「配偶者(夫・妻)」(20.1%)、「介護サービスのヘルパー」(19.0%)、「息子」(16.6%)と続いている。

主な介護者・介助者の年齢は「65歳未満」が5割強（47.1%）を占め最も多く、以下「65～74歳」(14.9%)、「75～84歳」(11.4%)、「85歳以上」(3.1%)となっている。

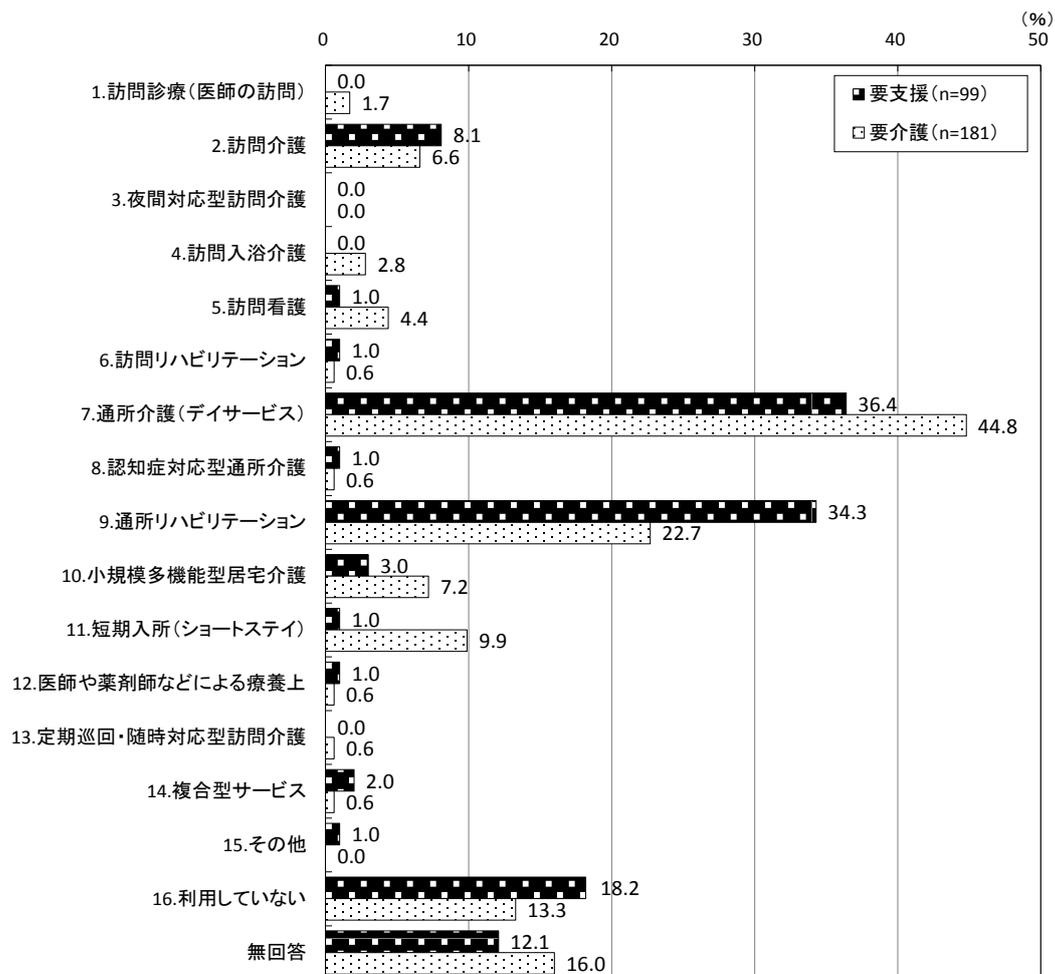
高齢者が高齢者の介護を行っている、いわゆる「老老介護」の割合は約3割（29.4%）となり、介護を受けている高齢者のおよそ3人に1人が高齢者による介護となっている。



③利用している在宅サービス

利用している在宅サービスは、要支援認定者・要介護認定者ともに「通所介護（デイサービス）」が最も多くなっており、要支援認定者の4割弱（36.4%）、要介護認定者の4割強（44.8%）が利用している。次いで利用者が多いのは「通所リハビリテーション」で、要支援認定者で3割強（34.3%）、要介護認定者で2割強（22.7%）となっている。

一方、在宅サービスを「利用していない」認定者が要支援認定者で2割弱（18.2%）、要介護認定者で1割強（13.3%）みられる。



3) 考察

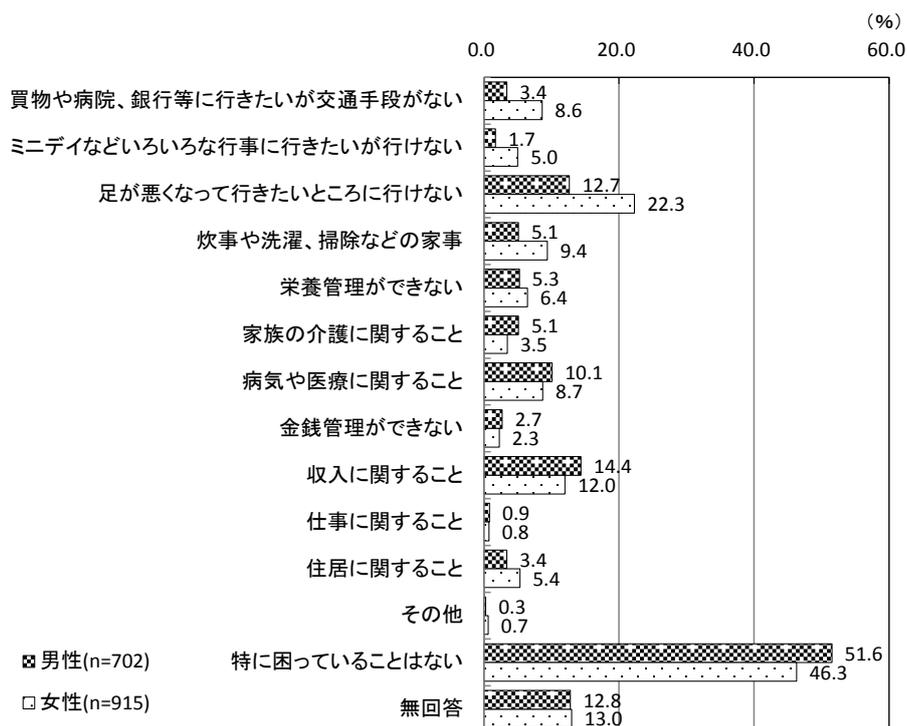
- ・介護等が必要になった主な原因は「高齢による衰弱」(30.3%)を除くと、「認知症」が2割弱(18.9%)で最も多く、以下「心臓病」(13.5%)、「脳卒中」(13.0%)、「糖尿病」(10.9%)と続いている。
- ・介護が必要と回答した割合を年代別にみると、年齢が高くなるほど、介護が必要とする割合が高くなり、85歳以上で男女とも半数を超え、特に「女性」では6割(62.9%)を超える。また、世帯構成別では、「一人暮らし」の4人に1人が介護を必要としており、さらに「一人暮らし」の1割弱(8.2%)が「何らかの介護・介助は必要だが、現在受けていない」としており、留意していく必要がある。
- ・介護者としては、「娘」(24.2%)や「配偶者」(20.1%)、「息子」(16.6%)等身内での対応が多くなっている。介護者として「介護サービスのヘルパー」は2割弱(19.0%)にとどまっている。
- ・介護者が65歳以上の割合は約3割(29.4%)となっており、介護を受けている高齢者の3人に1人が老老介護となっていることから、介護サービス利用促進等により、高齢の介護者の負担軽減を図ることが求められる。
- ・利用している在宅サービスは、要支援認定者・要介護認定者ともに「通所介護」、「通所リハビリテーション」がそれぞれ4割前後、2～3割と、他のサービスに比べ利用割合が高い。

(5) その他

1) 生活するうえで困っていること

「特に困っていることはない」が5割弱（48.6%）を占めるものの、「足が悪くなって行きたいところに行けない」が2割弱（18.1%）、「収入に関すること」や「病気や医療に関すること」もそれぞれ1割程度みられる。

要支援認定者で「足が悪くなって行きたいところに行けない」と回答した者が7割弱（67.7%）と高くなっており、女性の回答者の割合が男性と比べて高くなっている。

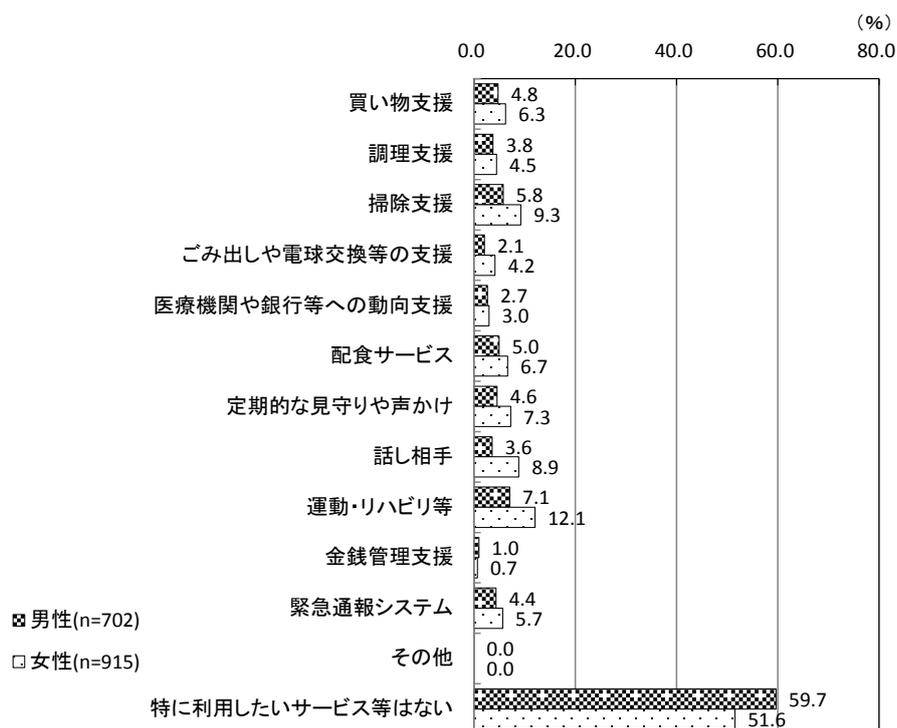


	上段:実数 下段:横%	母数	買物や病院、銀行等に行きたいが行けない	いろいろな行事に行きたいが行けない	足が悪くなって行きたいところに行けない	炊事や洗濯、掃除などの家事	栄養管理ができない	家族の介護に関すること	病気や医療に関すること	金銭管理ができない	収入に関すること	仕事に関すること	住居に関すること	その他	特に困っていることはない	無回答
総数		1617	103 6.4	58 3.6	293 18.1	122 7.5	96 5.9	68 4.2	151 9.3	40 2.5	211 13.0	13 0.8	73 4.5	8 0.5	786 48.6	209 12.9
性別	男性	702	24 3.4	12 1.7	89 12.7	36 5.1	37 5.3	36 5.1	71 10.1	19 2.7	101 14.4	6 0.9	24 3.4	2 0.3	362 51.6	90 12.8
	女性	915	79 8.6	46 5.0	204 22.3	86 9.4	59 6.4	32 3.5	80 8.7	21 2.3	110 12.0	7 0.8	49 5.4	6 0.7	424 46.3	119 13.0
年齢別	65～69歳	430	14 3.3	2 0.5	22 5.1	15 3.5	14 3.3	15 3.5	32 7.4	4 0.9	74 17.2	3 0.7	14 3.3	2 0.5	263 61.2	39 9.1
	70～74歳	348	12 3.4	8 2.3	32 9.2	14 4.0	15 4.3	9 2.6	22 6.3	0 0.0	35 10.1	4 1.1	9 2.6	1 0.3	204 58.6	51 14.7
	75～79歳	321	25 7.8	19 5.9	64 19.9	24 7.5	16 5.0	19 5.9	31 9.7	7 2.2	48 15.0	2 0.6	22 6.9	0 0.0	144 44.9	42 13.1
	80～84歳	275	28 10.2	19 6.9	89 32.4	31 11.3	32 11.6	15 5.5	41 14.9	14 5.1	35 12.7	2 0.7	15 5.5	1 0.4	96 34.9	38 13.8
	85歳以上	243	24 9.9	10 4.1	86 35.4	38 15.6	19 7.8	10 4.1	25 10.3	15 6.2	19 7.8	2 0.8	13 5.3	4 1.6	79 32.5	39 16.0
認定・該当状況	一般	933	17 1.8	14 1.5	36 3.9	27 2.9	18 1.9	30 3.2	42 4.5	5 0.5	102 10.9	4 0.4	19 2.0	2 0.2	596 63.9	122 13.1
	二次予防	404	40 9.9	18 4.5	111 27.5	38 9.4	37 9.2	21 5.2	57 14.1	13 3.2	76 18.8	3 0.7	32 7.9	1 0.2	144 35.6	38 9.4
	要支援	99	27 27.3	16 16.2	67 67.7	29 29.3	21 21.2	6 6.1	18 18.2	4 4.0	12 12.1	1 1.0	11 11.1	1 1.0	14 14.1	6 6.1
	要介護	181	19 10.5	10 5.5	79 43.6	28 15.5	20 11.0	11 6.1	34 18.8	18 9.9	21 11.6	5 2.8	11 6.1	4 2.2	32 17.7	43 23.8

2) 在宅生活を続けるうえで利用したいサービス・取り組み

全体では「特に利用したいサービス等はない」が6割弱（55.1%）を占めるが、年齢や認定状況があがるとともに「ない」とする割合が減少し、80歳以上では6割以上で、また認定者の7割以上で何らかのサービス等の利用意向がある。

利用したいサービス等として比較的多くあげられたのは「運動・リハビリ等」（10.0%）や「掃除支援」（7.8%）で、特に「運動・リハビリ等」については認定者の2～3割で利用意向がある。また、要支援認定者においては「掃除支援」が3割強（32.3%）と高いほか、「買物支援」や「調理支援」も2割前後と比較的高くなっている。



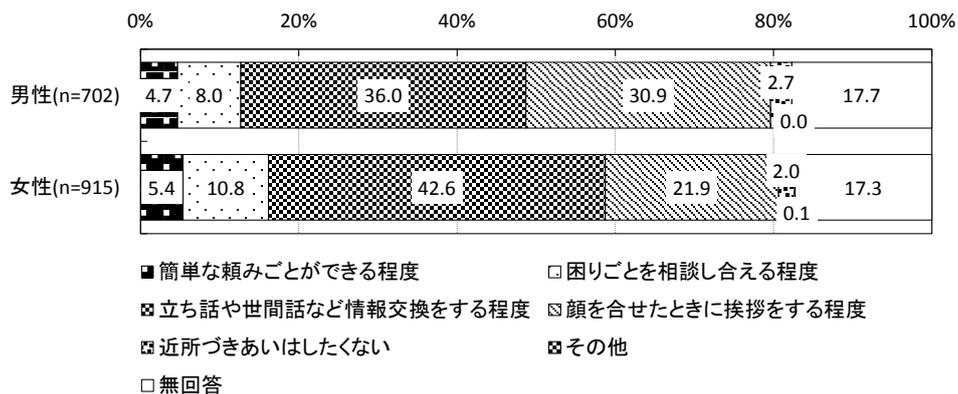
		母数	買物支援	調理支援	掃除支援	ごみ出しや電球交換等の支援	医療機関や銀行等への動向支援	配食サービス	定期的な見守りや声かけ	話し相手	運動・リハビリ等	金銭管理支援	緊急通報システム	その他	特に利用したいサービス等はない	無回答
総数		1617	92 5.7	68 4.2	126 7.8	53 3.3	46 2.8	96 5.9	99 6.1	106 6.6	161 10.0	13 0.8	83 5.1	0 0.0	891 55.1	312 19.3
性別	男性	702	34 4.8	27 3.8	41 5.8	15 2.1	19 2.7	35 5.0	32 4.6	25.0 3.6	50.0 7.1	7.0 1.0	31.0 4.4	0.0 0.0	419.0 59.7	132.0 18.8
	女性	915	58 6.3	41 4.5	85 9.3	38 4.2	27 3.0	61 6.7	67 7.3	81.0 8.9	111.0 12.1	6.0 0.7	52.0 5.7	0.0 0.0	472.0 51.6	180.0 19.7
年齢別	65～69歳	430	15 3.5	15 3.5	20 4.7	9 2.1	9 2.1	19 4.4	18 4.2	16 3.7	26 6.0	3 0.7	19 4.4	0 0.0	291 67.7	64 14.9
	70～74歳	348	9 2.6	9 2.6	20 5.7	7 2.0	7 2.0	11 3.2	12 3.4	14 4.0	30 8.6	2 0.6	20 5.7	0 0.0	213 61.2	64 18.4
	75～79歳	321	21 6.5	13 4.0	26 8.1	14 4.4	11 3.4	18 5.6	15 4.7	18 5.6	35 10.9	2 0.6	11 3.4	0 0.0	187 58.3	61 19.0
	80～84歳	275	24 8.7	13 4.7	31 11.3	12 4.4	13 4.7	26 9.5	23 8.4	31 11.3	39 14.2	4 1.5	17 6.2	0 0.0	114 41.5	64 23.3
	85歳以上	243	23 9.5	18 7.4	29 11.9	11 4.5	6 2.5	22 9.1	31 12.8	27 11.1	31 12.8	2 0.8	16 6.6	0 0.0	86 35.4	59 24.3
認定・該当状況	一般	933	30 3.2	15 1.6	39 4.2	13 1.4	14 1.5	32 3.4	40 4.3	29 3.1	50 5.4	4 0.4	32 3.4	0 0.0	616 66.0	168 18.0
	二次予防	404	23 5.7	21 5.2	38 9.4	17 4.2	12 3.0	26 6.4	25 6.2	40 9.9	47 11.6	3 0.7	26 6.4	0 0.0	209 51.7	69 17.1
	要支援	99	22 22.2	18 18.2	32 32.3	12 12.1	10 10.1	18 18.2	16 16.2	16 16.2	28 28.3	3 3.0	10 10.1	0 0.0	20 20.2	14 14.1
	要介護	181	17 9.4	14 7.7	17 9.4	11 6.1	10 5.5	20 11.0	18 9.9	21 11.6	36 19.9	3 1.7	15 8.3	0 0.0	46 25.4	61 33.7

3) となり近所の人との交流

「立ち話や世間話など情報交換をする程度」が約4割（39.8%）と最も多く、以下「顔を合わせたときに挨拶をする程度」（25.8%）、「困りごとを相談し合える程度」（9.6%）と続いている。

男女別でみると、男性では「顔を合わせたときに挨拶をする程度」が、女性では「立ち話や世間話など情報交換をする程度」が比較的高くなっている。

年齢、認定状況による大きな差はみられない。



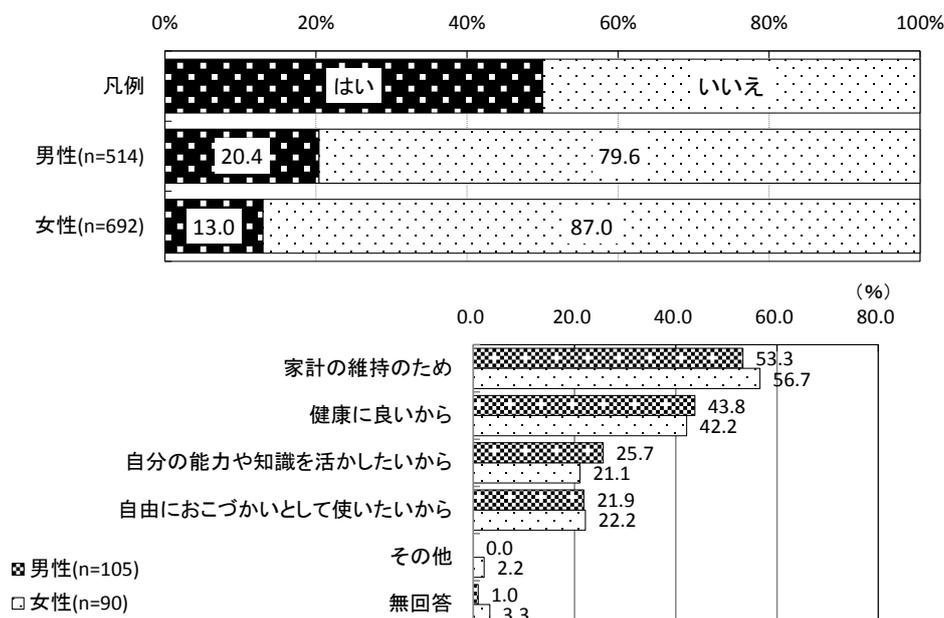
		母数	簡単な頼みごとができる程度	困りごとを相談し合える程度	立ち話など情報交換をする程度	顔を合わせたときに挨拶をする程度	近所づきあいはしたくない	その他	無回答
総数		1617	82	155	643	417	37	1	282
		100.0	5.1	9.6	39.8	25.8	2.3	0.1	17.4
性別	男性	702.0	33.0	56.0	253.0	217.0	19.0	0.0	124.0
	女性	915.0	49.0	99.0	390.0	200.0	18.0	1.0	158.0
		100.0	5.4	10.8	42.6	21.9	2.0	0.1	17.3
年齢別	65～69歳	430	18	44	174	130	11	0	53
	70～74歳	348	14	29	148	87	5	0	65
	75～79歳	321	20	38	138	70	6	1	48
	80～84歳	275	17	23	103	71	7	0	54
	85歳以上	243	13	21	80	59	8	0	62
		100.0	5.3	8.6	32.9	24.3	3.3	0.0	25.5
認定・該当状況	一般	933	43	93	402	224	13	1	157
	二次予防	404	20	37	155	124	12	0	56
	要支援	99	11	13	39	24	3	0	9
	要介護	181	8	12	47	45	9	0	60
		100.0	4.4	6.6	26.0	24.9	5.0	0.0	33.1

4) 就労の意向

現在未就労者の今後の就労意向については、全体では「いいえ」が8割強（83.8%）を占める。年齢や認定状況があがるほど「いいえ」とする割合が高くなり、80歳以上や認定者で「はい」としたのは数名である。

男女別にみると、「男性」は約2割（20.4%）が「はい」と回答しており、「女性」に比べ就労の意向がやや高い。

就労したい理由としては、「家計の維持のため」が5割強（54.9%）を占め最も多く、以下「健康に良いから」（43.1%）、「自分の能力や知識を活かしたいから」（23.6%）、「自分のおこづかいとして使いたいから」（22.1%）と続いている。



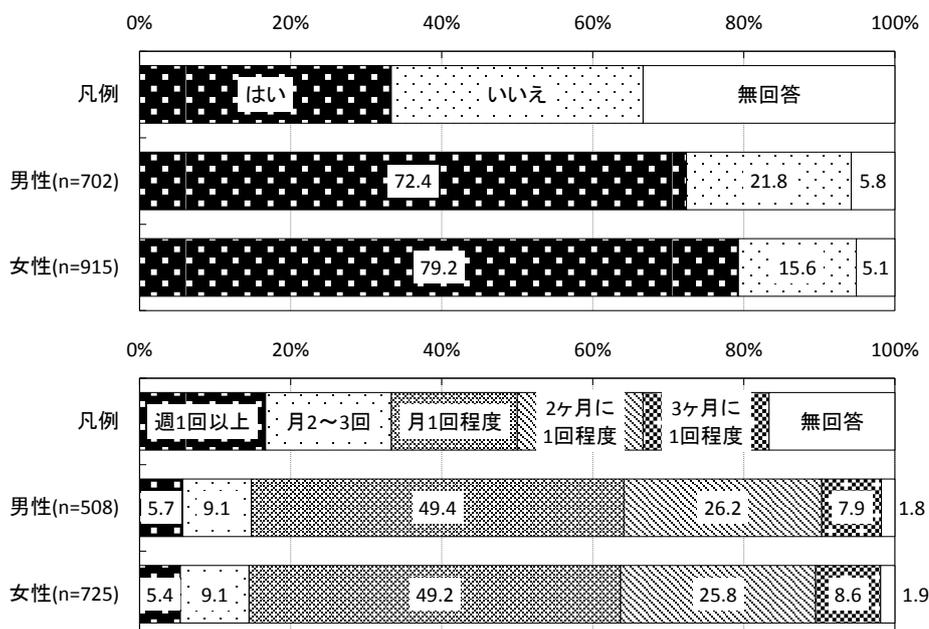
	母数	今後、就労したいか		母数	就労したい理由					
		はい	いいえ		家計の維持のため	健康に良いから	能力や知識を活かしたいから	自由におこづかいとして使いたいから	その他	無回答
総数	1206	195	1011	195	107	84	46	43	2	4
	100.0	16.2	83.8		54.9	43.1	23.6	22.1	1.0	2.1
性別										
男性	514	105	409	105	56	46	27	23	0	1
	100.0	20.4	79.6		53.3	43.8	25.7	21.9	0.0	1.0
女性	692	90	602	90	51	38	19	20	2	3
	100.0	13.0	87.0		56.7	42.2	21.1	22.2	2.2	3.3
年齢別										
65～69歳	288	86	202	86	53	27	14	18	1	1
	100.0	29.9	70.1		61.6	31.4	16.3	20.9	1.2	1.2
70～74歳	264	53	211	53	25	27	17	14	1	0
	100.0	20.1	79.9		47.2	50.9	32.1	26.4	1.9	0.0
75～79歳	249	45	204	45	24	26	14	8	0	0
	100.0	18.1	81.9		53.3	57.8	31.1	17.8	0.0	0.0
80～84歳	221	8	213	8	3	3	1	2	0	2
	100.0	3.6	96.4		37.5	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0
85歳以上	184	3	181	3	2	1	0	1	0	1
	100.0	1.6	98.4		66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
認定・該当状況										
一般	671	145	526	145	74	67	36	35	0	2
	100.0	21.6	78.4		51.0	46.2	24.8	24.1	0.0	1.4
二次予防	308	42	266	42	29	14	6	7	2	0
	100.0	13.6	86.4		69.0	33.3	14.3	16.7	4.8	0.0
要支援	89	7	82	7	4	3	4	0	0	2
	100.0	7.9	92.1		57.1	42.9	57.1	0.0	0.0	28.6
要介護	138	1	137	1	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.7	99.3		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

5) 病院等への通院の状況

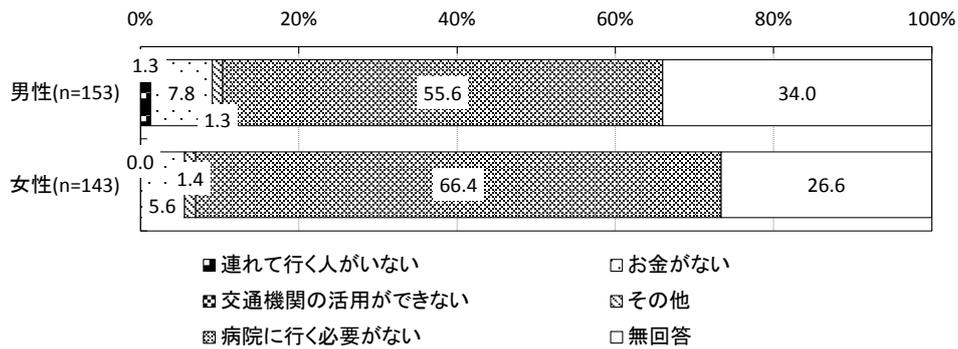
高齢者の8割弱（76.3%）が現在病院・医院に通院しており、女性は男性に比べ通院している高齢者の割合がやや高くなっている。また、認定状況があがるごとに通院している高齢者の割合が高くなっている。

通院の頻度としては、「月1回」が約5割（49.3%）となっている。一般高齢者に比べ、二次予防事業対象者や要支援認定者、要介護認定者の通院頻度が高い傾向にあり、とりわけ二次予防事業対象者は「週1回以上」とする割合が高くなっている。

一方、現在通院していない場合の定期的を受診していない主な理由としては、「病院に行く必要がない」が約6割（60.8%）を占めるが、「お金がない」とする回答も1割弱（6.8%）みられる。



	上段:実数 下段:横%	全体	現在、病院等に通院しているか			上段:実数 下段:横%	全体	通院の頻度					
			はい	いいえ	無回答			週1回以上	月2~3回	月1回程度	2ヶ月に1回程度	3ヶ月に1回程度	無回答
総数	1617	100.0	1233	296	88	1233	100.0	68	112	608	320	102	23
性別													
男性	702	100.0	508	153	41	508	100.0	29	46	251	133	40	9
女性	915	100.0	725	143	47	725	100.0	39	66	357	187	62	14
年齢別													
65~69歳	430	100.0	289	123	18	289	100.0	10	29	106	103	34	7
70~74歳	348	100.0	257	72	19	257	100.0	14	13	120	77	25	8
75~79歳	321	100.0	247	57	17	247	100.0	19	31	116	57	23	1
80~84歳	275	100.0	236	22	17	236	100.0	13	22	135	49	14	3
85歳以上	243	100.0	204	22	17	204	100.0	12	17	131	34	6	4
認定・該当状況													
一般	933	100.0	669	203	61	669	100.0	20	40	293	217	83	16
二次予防	404	100.0	318	75	11	318	100.0	30	32	167	75	12	2
要支援	99	100.0	90	7	2	90	100.0	12	15	48	11	2	2
要介護	181	100.0	156	11	14	156	100.0	6	25	100	17	5	3

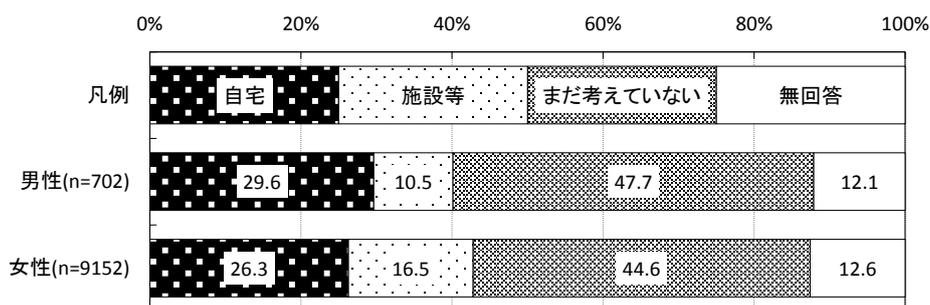


上段:実数 下段:横%	母数	定期的に通院していない主な理由						
		連れて行く人がいない	お金がない	交通機関の活用ができない	その他	病院に行く必要がない	無回答	
総数	296 100.0	2 0.7	20 6.8	0 0.0	4 1.4	180 60.8	90 30.4	
性別	男性	153 100.0	2 1.3	12 7.8	0 0.0	2 1.3	85 55.6	52 34.0
	女性	143 100.0	0 0.0	8 5.6	0 0.0	2 1.4	95 66.4	38 26.6
年齢別	65～69歳	123 100.0	0 0.0	11 8.9	0 0.0	1 0.8	71 57.7	40 32.5
	70～74歳	72 100.0	1 1.4	5 6.9	0 0.0	1 1.4	40 55.6	25 34.7
	75～79歳	57 100.0	1 1.8	3 5.3	0 0.0	2 3.5	40 70.2	11 19.3
	80～84歳	22 100.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0	14 63.6	7 31.8
	85歳以上	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 68.2	7 31.8
認定・該当状況	一般	203 100.0	0 0.0	7 3.4	0 0.0	0 0.0	137 67.5	59 29.1
	二次予防	75 100.0	2 2.7	11 14.7	0 0.0	3 4.0	35 46.7	24 32.0
	要支援	7 100.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	4 57.1	1 14.3
	要介護	11 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	4 36.4	6 54.5

6) 将来介護が必要になったとき生活したいところ

全体では「まだ考えていない」が5割弱（45.9%）を占める状況にある。69歳未満や非認定者では半数以上が「まだ考えていない」としているが、年齢や認定状況があがるとともに「まだ考えていない」とする割合は減少している。

「自宅」は全体で3割弱（27.8%）となっており、「施設等」は1割強（13.9%）にとどまるが、女性では「施設等」の割合がやや高い。また、85歳以上では約2割とやや高くなり、認定者においても「施設等」が2割程度とやや高くなっている。

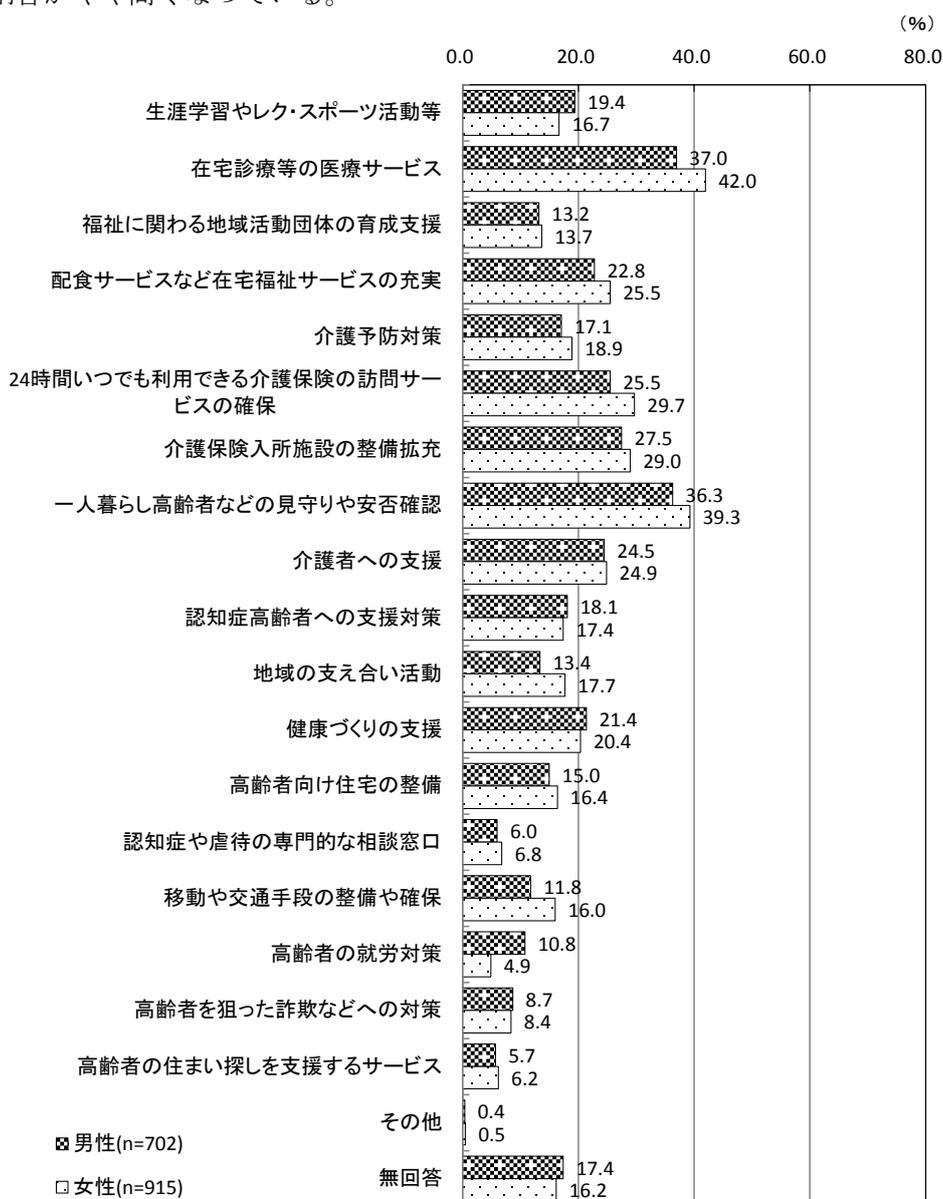


		母数	自宅	施設等	まだ考えていない	無回答
		上段:実数 下段:横%				
総数		1617 100.0	449 27.8	225 13.9	743 45.9	200 12.4
性別	男性	702 100.0	208 29.6	74 10.5	335 47.7	85 12.1
	女性	915 100.0	241 26.3	151 16.5	408 44.6	115 12.6
年齢別	65～69歳	430 100.0	98 22.8	60 14.0	242 56.3	30 7.0
	70～74歳	348 100.0	81 23.3	52 14.9	173 49.7	42 12.1
	75～79歳	321 100.0	96 29.9	35 10.9	147 45.8	43 13.4
	80～84歳	275 100.0	93 33.8	30 10.9	100 36.4	52 18.9
	85歳以上	243 100.0	81 33.3	48 19.8	81 33.3	33 13.6
認定・該当状況	一般	933 100.0	236 25.3	110 11.8	467 50.1	120 12.9
	二次予防	404 100.0	104 25.7	52 12.9	206 51.0	42 10.4
	要支援	99 100.0	39 39.4	19 19.2	36 36.4	5 5.1
	要介護	181 100.0	70 38.7	44 24.3	34 18.8	33 18.2

7) 充実を求める施策

「在宅診療等の医療サービス」が約4割（39.8%）で最も多く、以下「一人暮らし高齢者などの見守りや安否確認」（38.0%）、「介護保険入所施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等）の整備拡充」（28.3%）、「配食サービスなど在宅福祉サービスの充実（介護保険サービスを除く）」（24.3%）と続いている。

認定状況別にみると、要支援認定者では「在宅診療等の医療サービス」や「一人暮らし高齢者などの見守りや安否確認」の割合が高いほか、「24時間いつでも利用できる介護保険の訪問サービス」の割合が比較的高くなっている。また、介護認定者については「介護保険入所施設の整備拡充」の割合がやや高くなっている。



上段:実数 下段:横%		母数	生涯学習 やレク・ス ポーツ活 動等	在宅診療 等の医療 サービス	福祉に関 わる地域 活動団体 の育成支 援	配食など 在宅福祉 サービスの 充実	介護予防 対策	24時間い つでも利 用できる 訪問サー ビスの確 保	介護保険 入所施設 の整備拡 充	一人暮らし 高齢者 などの見 守りや安 否確認	介護者へ の支援	認知症高 齢者への 支援対策
総数		1617 100.0	289 17.9	644 39.8	218 13.5	393 24.3	293 18.1	451 27.9	458 28.3	615 38.0	400 24.7	286 17.7
性別	男性	702	136 19.4	260 37.0	93 13.2	160 22.8	120 17.1	179 25.5	193 27.5	255 36.3	172 24.5	127 18.1
	女性	915	153 16.7	384 42.0	125 13.7	233 25.5	173 18.9	272 29.7	265 29.0	360 39.3	228 24.9	159 17.4
年齢別	65～69歳	430	105 24.4	170 39.5	50 11.6	112 26.0	88 20.5	116 27.0	133 30.9	182 42.3	108 25.1	87 20.2
	70～74歳	348	70 20.1	125 35.9	58 16.7	66 19.0	65 18.7	92 26.4	92 26.4	133 38.2	97 27.9	70 20.1
	75～79歳	321	64 19.9	130 40.5	46 14.3	84 26.2	52 16.2	88 27.4	75 23.4	108 33.6	76 23.7	45 14.0
	80～84歳	275	29 10.5	105 38.2	30 10.9	72 26.2	36 13.1	78 28.4	77 28.0	99 36.0	54 19.6	44 16.0
	85歳以上	243	21 8.6	114 46.9	34 14.0	59 24.3	52 21.4	77 31.7	81 33.3	93 38.3	65 26.7	40 16.5
認定・ 該当状況	一般	933	211 22.6	356 38.2	128 13.7	207 22.2	180 19.3	237 25.4	251 26.9	360 38.6	231 24.8	157 16.8
	二次予防	404	55 13.6	164 40.6	47 11.6	101 25.0	58 14.4	116 28.7	105 26.0	149 36.9	92 22.8	76 18.8
	要支援	99	8 8.1	50 50.5	14 14.1	36 36.4	26 26.3	44 44.4	33 33.3	48 48.5	19 19.2	16 16.2
	要介護	181	15 8.3	74 40.9	29 16.0	49 27.1	29 16.0	54 29.8	69 38.1	58 32.0	58 32.0	37 20.4

上段:実数 下段:横%		地域の支 え合い活 動	健康づくり の支援	高齢者向 け住宅の 整備	認知症や 虐待の専 門的な相 談窓口	移動や交 通手段の 整備や確 保	高齢者の 就労対策	高齢者を 狙った詐 欺など への対策	高齢者の 住まい探 しを支援 するサー ビス	その他	無回答
総数		256 15.8	337 20.8	255 15.8	104 6.4	229 14.2	121 7.5	138 8.5	97 6.0	8 0.5	270 16.7
性別	男性	94 13.4	150 21.4	105 15.0	42 6.0	83 11.8	76 10.8	61 8.7	40 5.7	3 0.4	122 17.4
	女性	162 17.7	187 20.4	150 16.4	62 6.8	146 16.0	45 4.9	77 8.4	57 6.2	5 0.5	148 16.2
年齢別	65～69歳	78 18.1	101 23.5	71 16.5	19 4.4	55 12.8	57 13.3	35 8.1	33 7.7	1 0.2	47 10.9
	70～74歳	55 15.8	82 23.6	58 16.7	29 8.3	42 12.1	33 9.5	23 6.6	18 5.2	1 0.3	64 18.4
	75～79歳	47 14.6	76 23.7	47 14.6	28 8.7	41 12.8	19 5.9	34 10.6	16 5.0	4 1.2	62 19.3
	80～84歳	42 15.3	39 14.2	42 15.3	17 6.2	48 17.5	7 2.5	24 8.7	18 6.5	1 0.4	57 20.7
	85歳以上	34 14.0	39 16.0	37 15.2	11 4.5	43 17.7	5 2.1	22 9.1	12 4.9	1 0.4	40 16.5
認定・ 該当状況	一般	155 16.6	213 22.8	150 16.1	55 5.9	103 11.0	91 9.8	88 9.4	48 5.1	4 0.4	158 16.9
	二次予防	61 15.1	80 19.8	58 14.4	31 7.7	66 16.3	28 6.9	34 8.4	27 6.7	2 0.5	74 18.3
	要支援	15 15.2	20 20.2	14 14.1	6 6.1	27 27.3	1 1.0	7 7.1	7 7.1	1 1.0	9 9.1
	要介護	25 13.8	24 13.3	33 18.2	12 6.6	33 18.2	1 0.6	9 5.0	15 8.3	1 0.6	29 16.0

II-2 日常生活圏域別

1. 回答者の属性

①行政区

圏域	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
行政区	南風原/平安名/内間/平敷屋/津堅/浜/比嘉	照間/与那城西原/与那城/饒辺/屋慶名/平安座/桃原/上原/宮城/池味/伊計	具志川/田場/赤野/宇堅/天願/昆布/栄野比/川崎/西原/安慶名/上江洲/大田/みどり町1・2丁目/みどり町3・4丁目/みどり町5・6丁目	上平良川/兼箇段/米原/赤道/江州/宮里/喜仲/平良川/川田/塩屋/豊原/高江洲/前原/志林川/新赤道	曙/南栄/城北/中央/松島/宮前/東山/旭/港/伊波/嘉手苜/山城/石川前原/東恩納/美原

②性別・年齢区分・世帯構成

- ・性別については、どの地区も「女性」が多くなっている。
- ・与那城地区では「後期高齢者」の割合が高く、勝連地区でもやや高くなっている。一方、具志川第2地区では「前期高齢者」の割合が高くなっている。
- ・住民基本台帳（平成25年10月1日現在）による各地区の前期高齢者・後期高齢者の割合とおおむね同様の結果となっているが、具志川第2地区では実際の前期高齢者の割合よりも調査結果の割合が低めとなっている。
- ・具志川第1地区で「同居（三人以上）」の割合がやや高く、石川地区ではやや低い。

		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85歳以上		総計	
		件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)
勝連地区	男性	46	31.1	30	20.3	29	19.6	27	18.2	16	10.8	148	100.0
	女性	37	21.6	28	16.4	35	20.5	38	22.2	33	19.3	171	100.0
	合計	83	26.0	58	18.2	64	20.1	65	20.4	49	15.4	319	100.0
与那城地区	男性	31	23.3	36	27.1	23	17.3	23	17.3	20	15.0	133	100.0
	女性	26	14.3	37	20.3	33	18.1	46	25.3	40	22.0	182	100.0
	合計	57	18.1	73	23.2	56	17.8	69	21.9	60	19.0	315	100.0
具志川第1地区	男性	48	32.2	29	19.5	32	21.5	21	14.1	19	12.8	149	100.0
	女性	47	22.9	46	22.4	49	23.9	33	16.1	30	14.6	205	100.0
	合計	95	26.8	75	21.2	81	22.9	54	15.3	49	13.8	354	100.0
具志川第2地区	男性	46	31.7	43	29.7	29	20.0	20	13.8	7	4.8	145	100.0
	女性	51	30.0	38	22.4	31	18.2	17	10.0	33	19.4	170	100.0
	合計	97	30.8	81	25.7	60	19.0	37	11.7	40	12.7	315	100.0
石川地区	男性	43	33.9	24	18.9	25	19.7	21	16.5	14	11.0	127	100.0
	女性	55	29.4	37	19.8	35	18.7	29	15.5	31	16.6	187	100.0
	合計	98	31.2	61	19.4	60	19.1	50	15.9	45	14.3	314	100.0

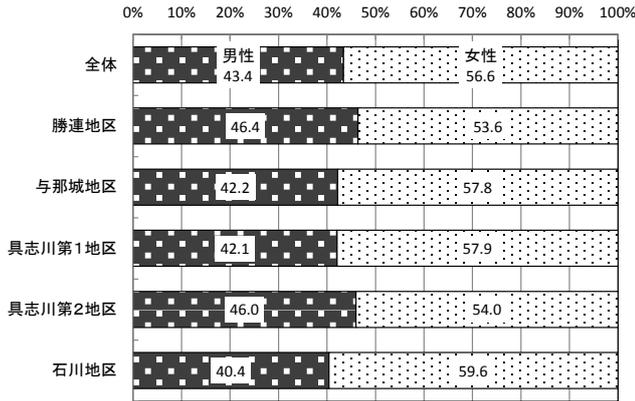
前回調査		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85歳以上		総計	
		件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)
勝連地区	男性	32	20.3	40	25.3	43	27.2	26	16.5	17	10.8	158	100.0
	女性	28	14.6	38	19.8	41	21.4	29	15.1	56	29.2	192	100.0
	合計	60	17.1	78	22.3	84	24.0	55	15.7	73	20.9	350	100.0
与那城地区	男性	33	25.0	26	19.7	32	24.2	21	15.9	20	15.2	132	100.0
	女性	26	13.7	38	20.0	43	22.6	49	25.8	34	17.9	190	100.0
	合計	59	18.3	64	19.9	75	23.3	70	21.7	54	16.8	322	100.0
具志川第1地区	男性	36	22.1	51	31.3	36	22.1	28	17.2	12	7.4	163	100.0
	女性	36	16.2	58	26.1	48	21.6	42	18.9	38	17.1	222	100.0
	合計	72	18.7	109	28.2	84	21.8	70	18.1	50	13.0	386	100.0
具志川第2地区	男性	40	25.3	46	29.1	38	24.1	18	11.4	16	10.1	158	100.0
	女性	46	22.4	57	27.8	38	18.5	33	16.1	31	15.1	205	100.0
	合計	86	23.7	103	28.4	76	20.9	51	14.0	47	12.9	363	100.0
石川地区	男性	42	27.3	50	32.5	29	18.8	18	11.7	15	9.7	154	100.0
	女性	47	21.0	51	22.8	37	16.5	34	15.2	55	24.6	224	100.0
	合計	89	23.5	101	26.7	66	17.5	52	13.8	70	18.5	378	100.0

(参考) 各地区の前期高齢者・後期高齢者の割合

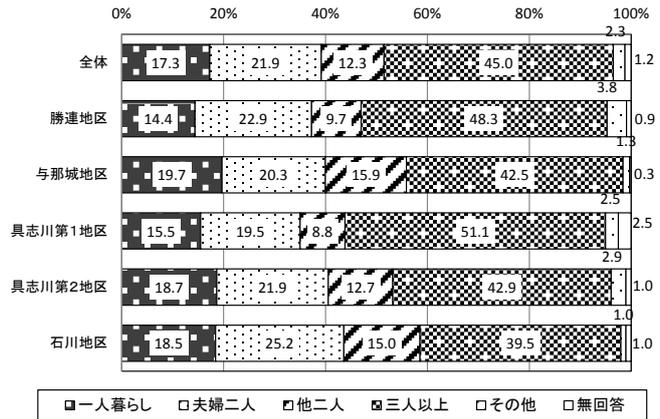
	上段:件数、下段:割合(%)				
	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
前期高齢者 (65～74歳)	1,278 44.8%	1,272 42.7%	2,845 46.9%	3,026 52.9%	2,123 48.4%
後期高齢者 (75歳以上)	1,576 55.2%	1,708 57.3%	3,222 53.1%	2,699 47.1%	2,265 51.6%

資料:住民基本台帳(平成25年10月1日現在)

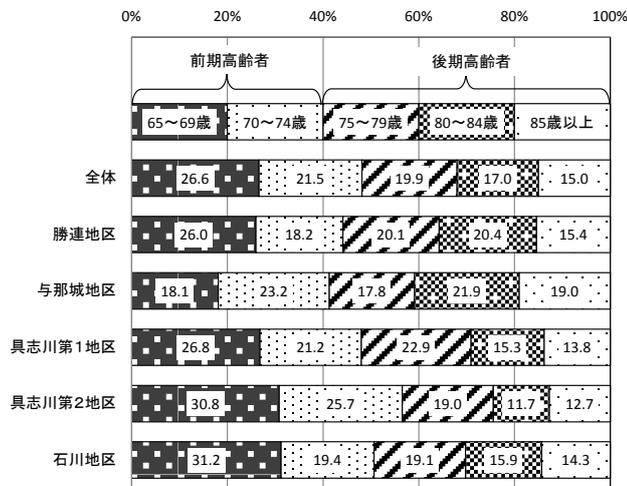
性別



世帯構成



年齢

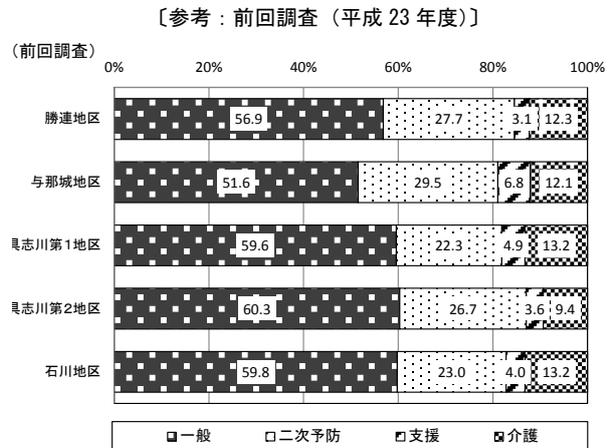
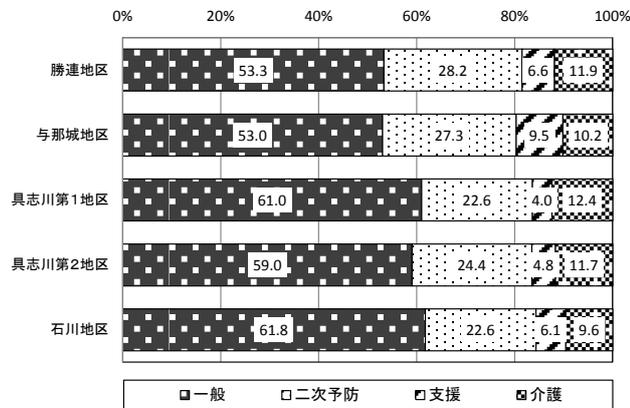


上段:件数、下段:割合(%)

	一人暮らし	夫婦二人	他二人	三人以上	その他	無回答	総計
全体	280 17.3%	354 21.9%	199 12.3%	728 45%	37 2.3%	19 1.2%	1617
勝連地区	46 14.4%	73 22.9%	31 9.7%	154 48.3%	12 3.8%	3 0.9%	319
与那城地区	62 19.7%	64 20.3%	50 15.9%	134 42.5%	4 1.3%	1 0.3%	315
具志川第1地区	55 15.5%	69 19.5%	31 8.8%	181 51.1%	9 2.5%	9 2.5%	354
具志川第2地区	59 18.7%	69 21.9%	40 12.7%	135 42.9%	9 2.9%	3 1%	315
石川地区	58 18.5%	79 25.2%	47 15%	124 39.5%	3 1%	3 1%	314

④認定区分

- ・与那城地区、勝連地区は、他地区と比べ一般高齢者の割合が低く、二次予防事業対象者および認定者の割合が高くなっている。



上段：件数、下段：割合 (%)

	一般	二次予防	支援	介護	総計
勝連地区	170	90	21	38	319
	53.3	28.2	6.6	11.9	100.0
与那城地区	167	86	30	32	315
	53.0	27.3	9.5	10.2	100.0
具志川第1地区	216	80	14	44	354
	61.0	22.6	4.0	12.4	100.0
具志川第2地区	186	77	15	37	315
	59.0	24.4	4.8	11.7	100.0
石川地区	194	71	19	30	314
	61.8	22.6	6.1	9.6	100.0

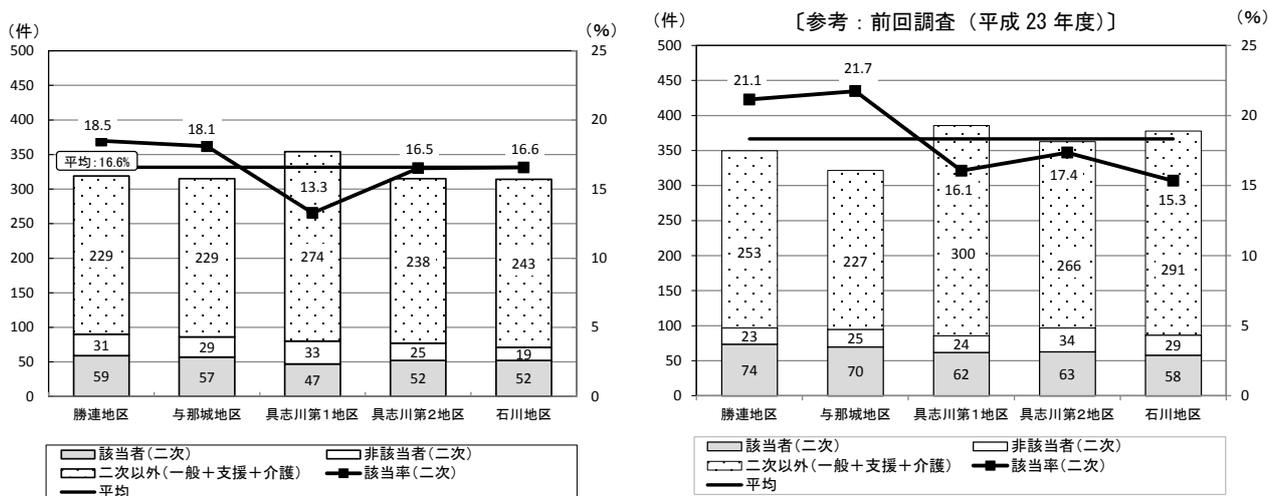
2. 評価項目別の結果

1) 心身機能

①運動器

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、勝連地区が59件・18.5%で最も多く、次いで与那城地区57件・18.1%となっており、該当率の市平均（16.6%）を大きく下回ったのは具志川第1地区（13.3%）のみである。

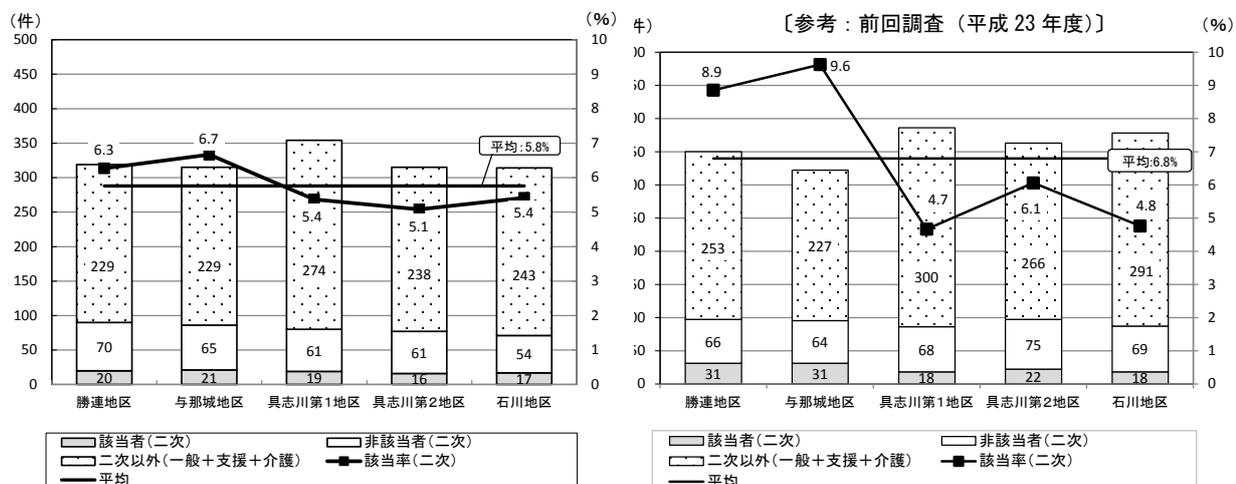
前回調査と比較すると、該当率はおおむね低下しているが、石川地区では上昇している。



②閉じこもり予防

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が21件・6.7%で最も多く、次いで勝連地区20件・6.3%となっており、該当率の市平均（5.8%）を超えたのはこの2地区である。

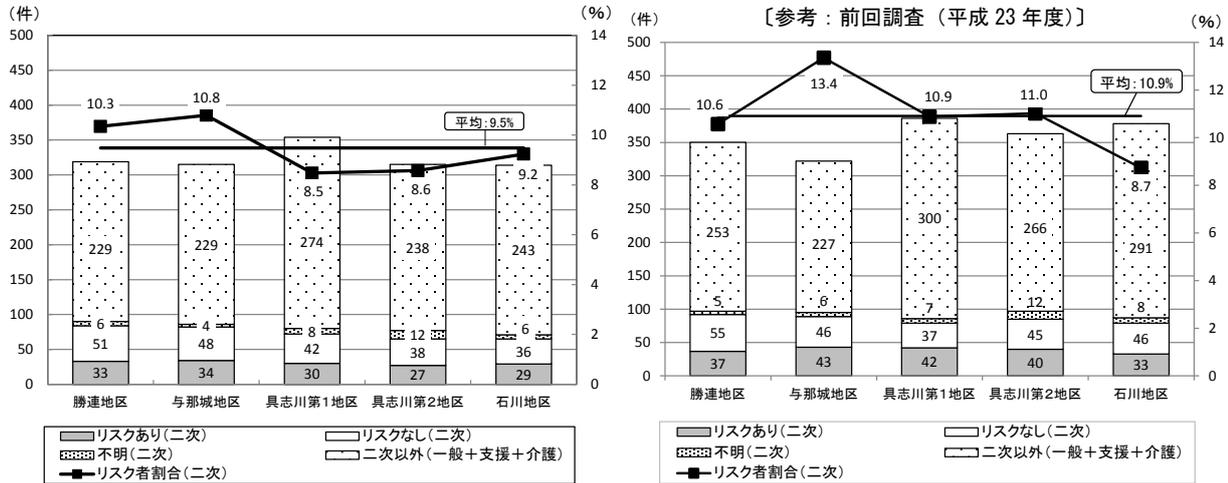
前回調査と比較すると、該当率はおおむね低下しているが、具志川第2地区では上昇している。



③転倒リスク

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が34件・10.8%で最も多く、次いで勝連地区33件・10.3%となっており、該当率の市平均（9.5%）を超えたのはこの2地区である。

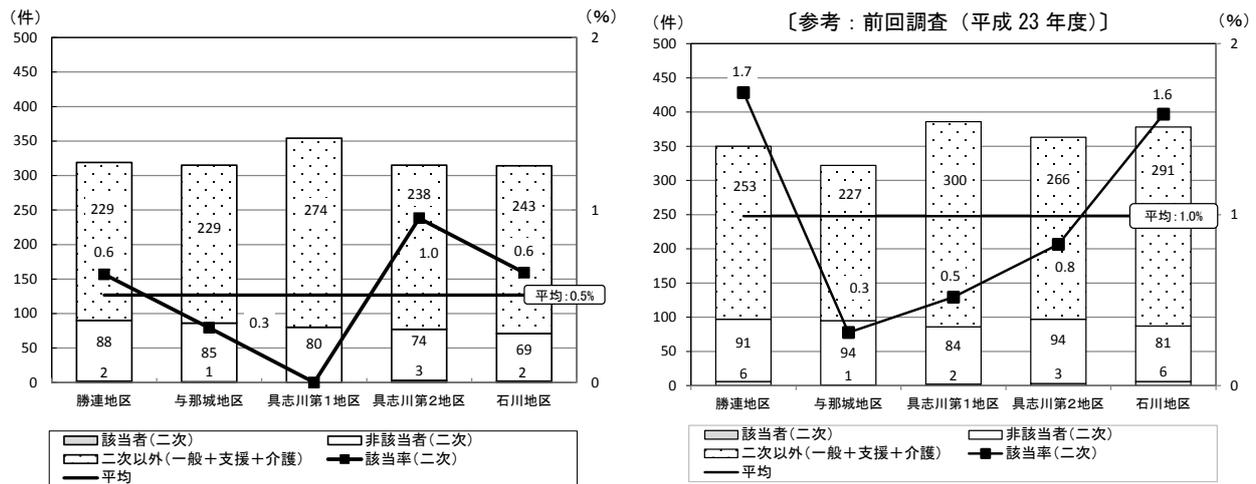
前回調査と比較すると、該当率はおおむね低下しているが、勝連地区ではほとんど差がなく、石川地区では上昇している。



④栄養

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、具志川第2地区が3件・1.0%で最も多く、次いで勝連地区および石川地区がそれぞれ2件・0.6%となっている。

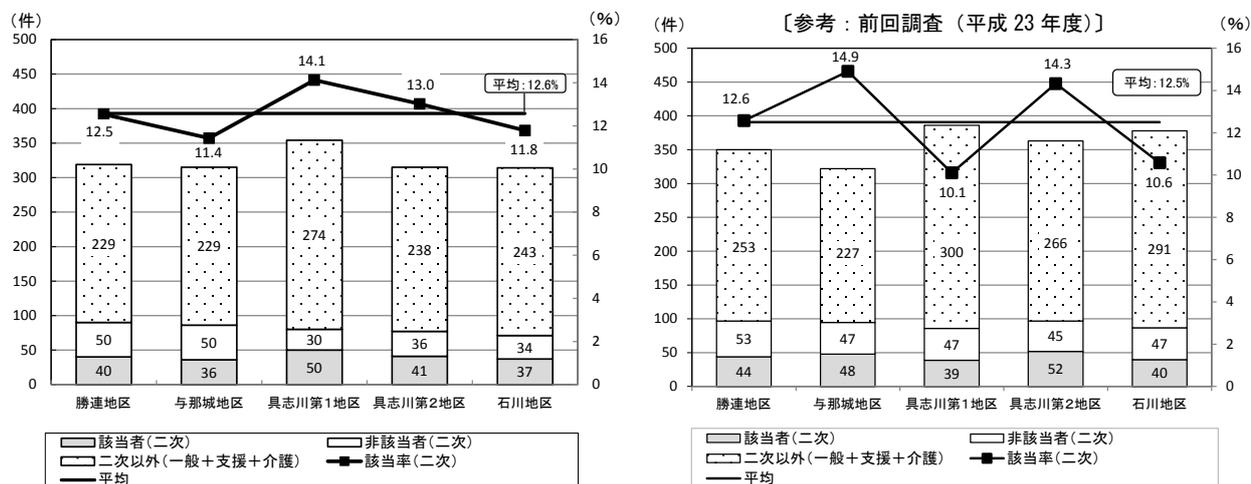
前回調査と比較すると、該当率はおおむね低下しているが、石川地区では上昇している。



⑤口腔

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、具志川第1地区が50件・14.1%で最も多く、次いで具志川第2地区41件・13.0%となっており、該当率の市平均（12.6%）を超えたのはこの2地区である。

前回調査と比較すると、該当者数・該当率はおおむね低下しているが、具志川第1地区では該当者数・該当率ともに上昇し、石川地区では該当者数は減少したものの、該当率は上昇している。

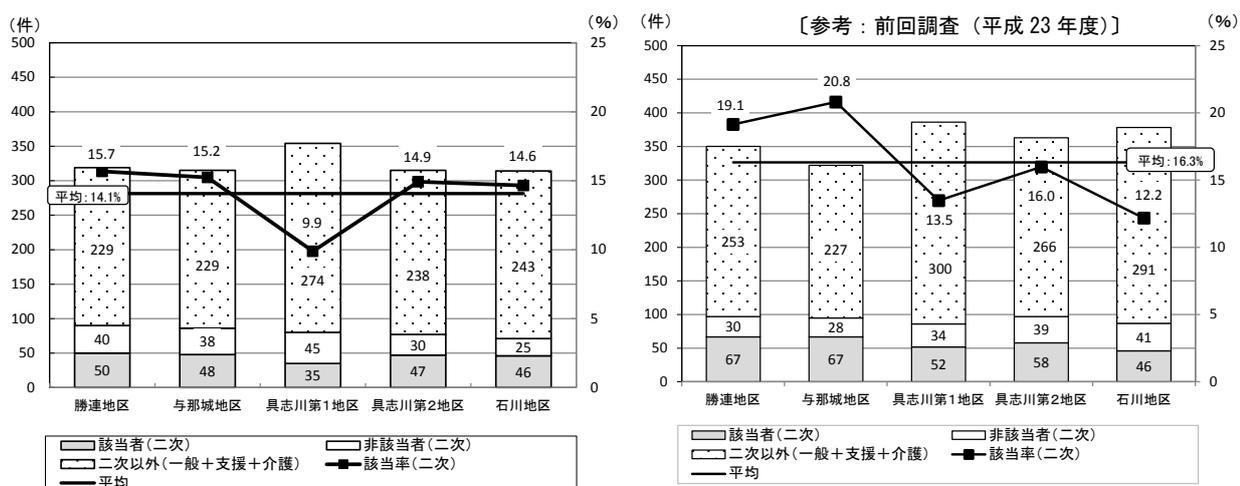


⑥認知

ア) 認知症予防（基本チェックリスト）

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、勝連地区が50件・15.7%で最も多く、次いで与那城地区が48件・15.2%となっており、該当率の市平均（14.1%）を下回ったのは具志川第1地区のみである。

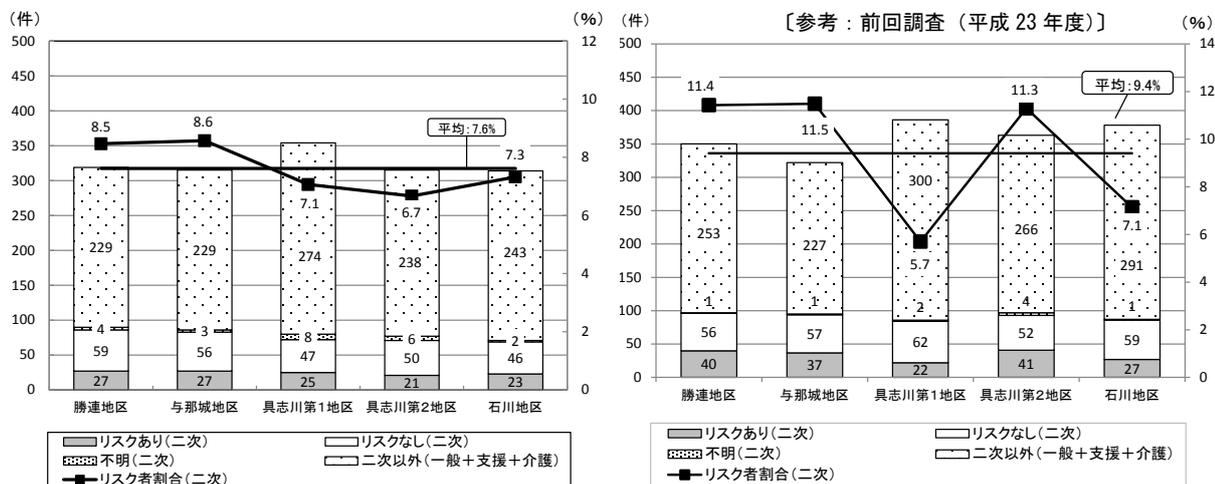
前回調査と比較すると、全地区で該当率が低下している。



イ) 認知機能障害程度 (CPS)

リスク者の件数・割合（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が 27 件・8.6%、勝連地区が 27 件・8.5%で多く、リスク者の割合の市平均（7.6%）を超えたのはこの2地区である。

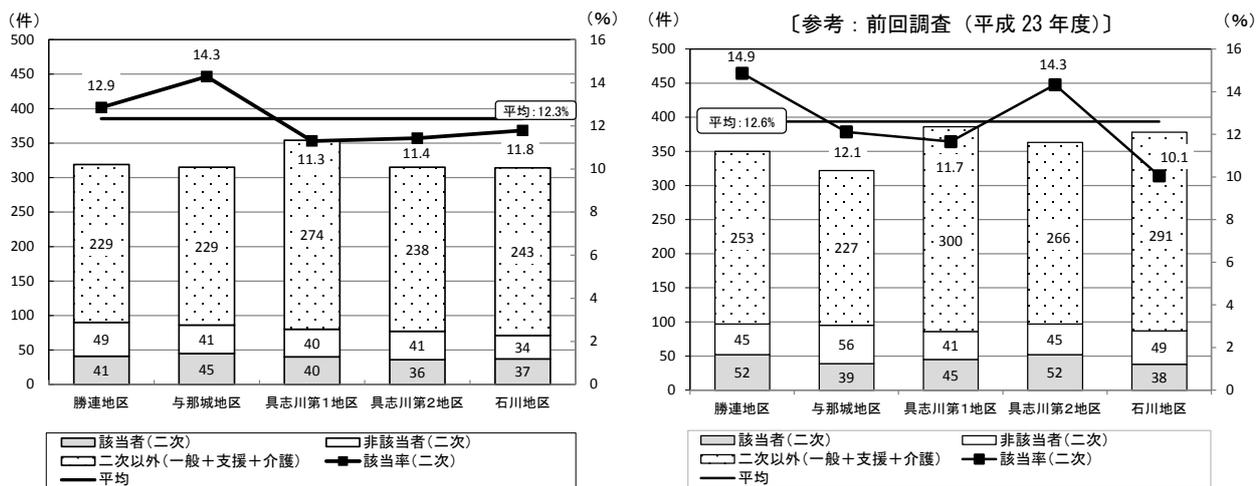
前回調査と比較すると、全地区で該当率が低下しているが、石川地区ではごくわずかである。



⑦ うつ予防

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が 45 件・14.3%で最も多く、次いで勝連地区が 41 件・12.9%となっており、該当率の市平均（12.3%）を超えたのはこの2地区である。

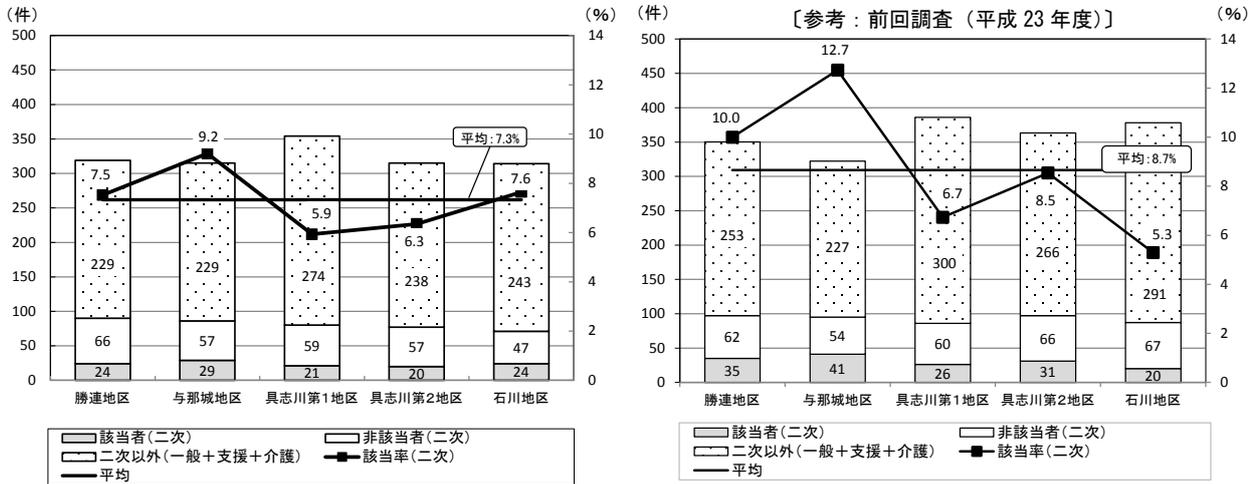
前回調査と比較すると、該当率はおおむね低下しているが、石川地区では上昇している。



⑧虚弱

該当者・該当率（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が29件・9.2%で最も多く、次いで石川地区24件・7.6%、勝連地区24件・7.5%となっており、該当率の市平均（7.3%）を超えたのはこの3地区である。

前回調査と比較すると、全地区で該当率が低下している。



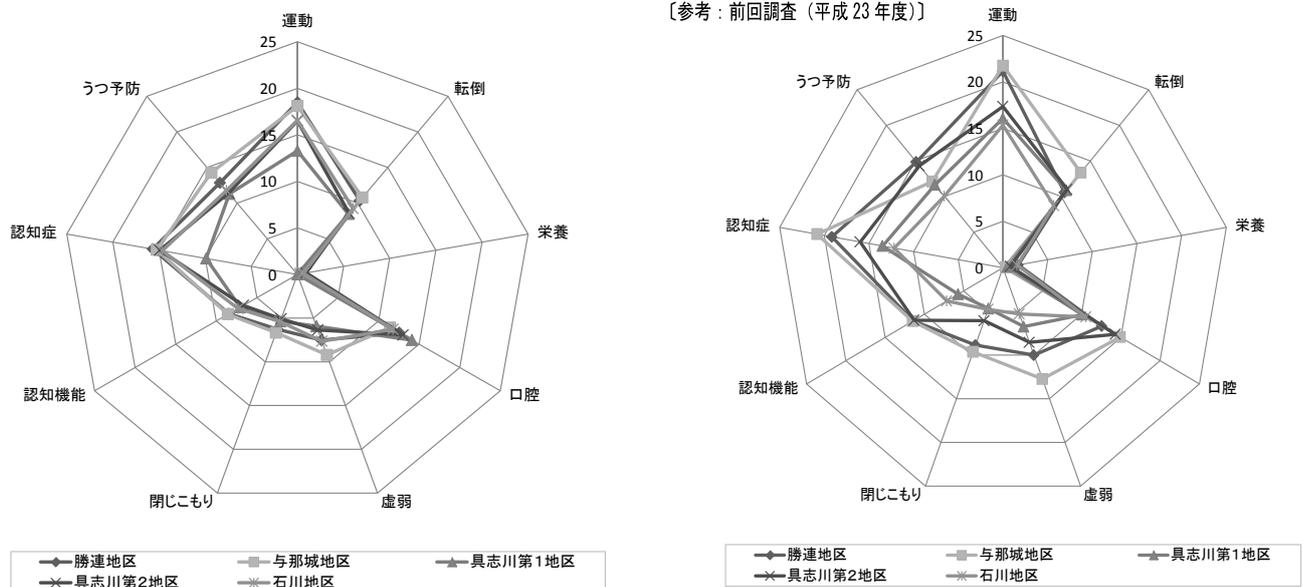
⑨生活機能の日常圏域別評価の総括

生活機能の調査で用いた8つの項目について、二次予防事業対象者の該当率およびリスク者の割合を日常生活圏域別にまとめると以下のグラフで示される。

全体的に与那城地区、勝連地区の該当率およびリスク者の割合が高くなっているが、当該地区は二次予防事業対象者の割合が他地区に比べて高いことが要因と考えられる。

一方、具志川第1地区では、「運動」および「認知症」の該当率およびリスク者の割合が比較的低くなっている。

前回調査と比較すると、グラフの形状は大きく変わらず、各地区の差が縮まっている。



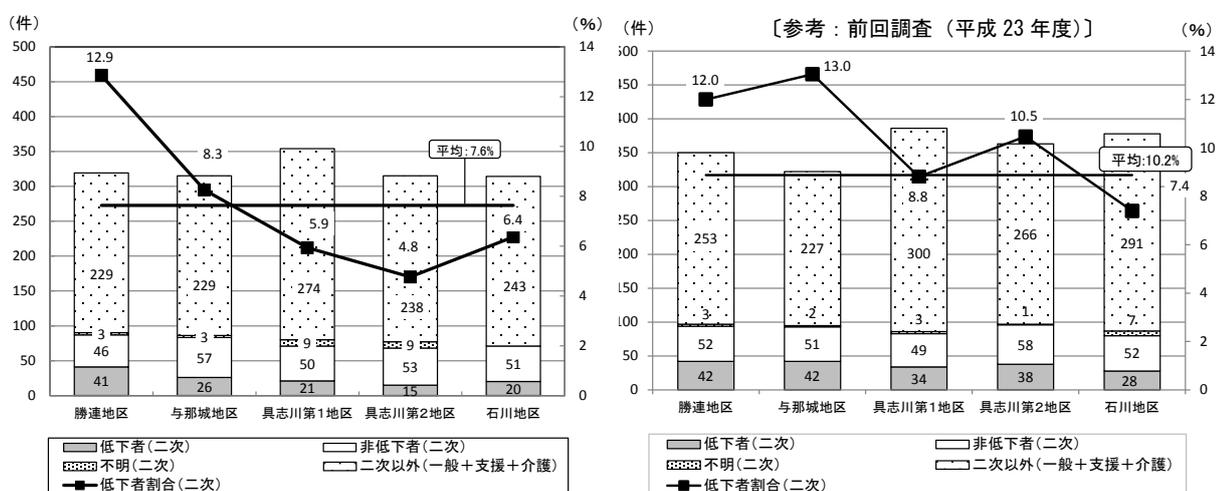
2) 日常生活

①手段的自立度 (I ADL)

・高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じ、関係する設問に該当する回答を行った場合を1点とし、5点満点で5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」とし、4点以下を『低下者（「やや低い」＋「低い」）』として評価した。

低下者数・割合（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、勝連地区が41件・12.9%で最も多く、次いで与那城地区26件・8.3%となっており、低下者の割合の市平均（7.6%）を超えたのはこの2地区である。

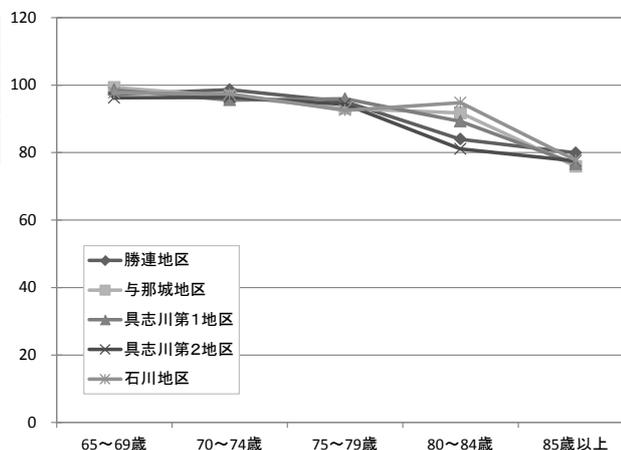
前回調査と比較すると、ほとんどの地区で低下者の割合が低下しているが、勝連地区ではわずかに上昇している。



②日常生活動作 (ADL)

日常生活動作 (ADL) の評価に必要な設問すべてに回答した二次予防事業対象者の平均点については、日常生活圏域別でも、地区ごとの大きな差はみられない。

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
勝連地区	97.3	98.6	95.1	84.0	79.9
与那城地区	99.3	96.7	93.1	91.7	75.9
具志川第1地区	98.6	95.6	95.9	89.3	76.6
具志川第2地区	96.2	96.4	94.3	81.1	77.5
石川地区	97.7	97.4	92.5	94.8	77.7



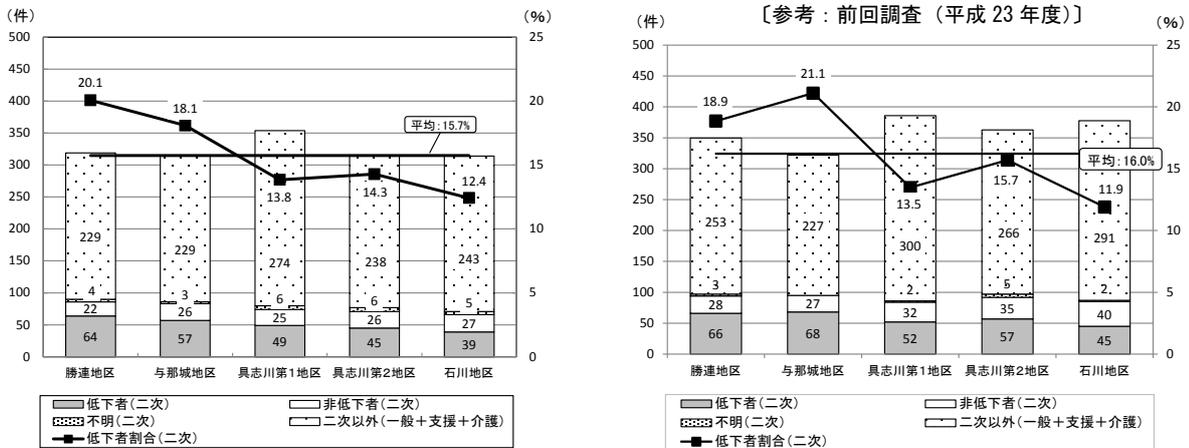
3) 社会参加

① 知的能動性

・老研式活動能力指標の評価項目である知的能動性について、4点満点のうち4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を『低下者（「やや低い」＋「低い」）』として評価した。

低下者数・割合（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、勝連地区が64件・20.1%で最も多く、次いで与那城地区57件・18.1%となっており、低下者の割合の市平均（15.7%）を超えたのはこの2地区である。

前回調査と比較すると、低下者数は全地区で減少しているが、低下者の割合は与那城地区、石川地区、具志川第1地区で上昇している。

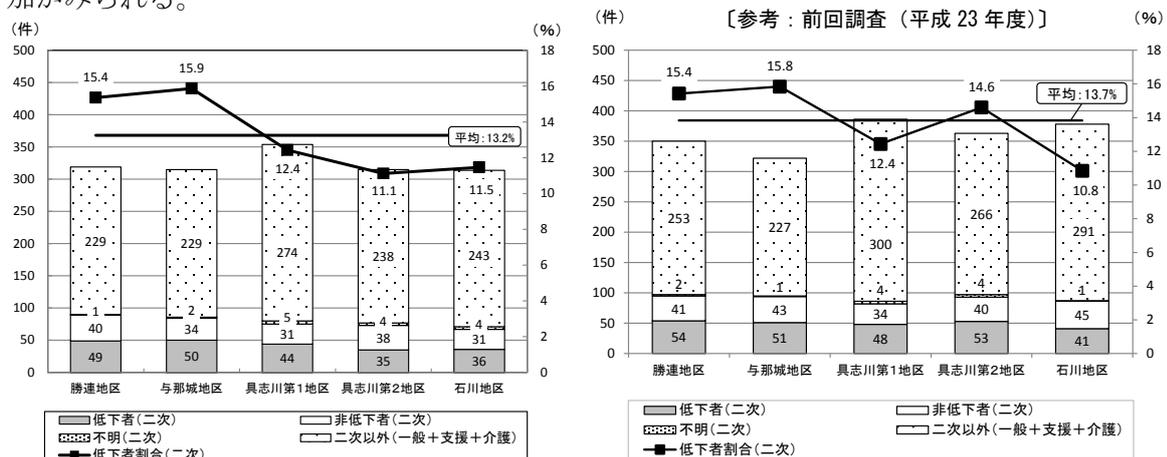


② 社会的役割

・老研式活動能力指標の評価項目である社会的役割について、4点満点のうち4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を『低下者（「やや低い」＋「低い」）』として評価した。

低下者数・割合（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、与那城地区が50件・15.9%で最も多く、次いで勝連地区49件・15.4%となっており、低下者の割合の市平均（13.2%）を超えたのはこの2地区である。

前回調査と比較すると、低下者数は全地区で減少しているが、低下者の割合では石川地区で増加がみられる。



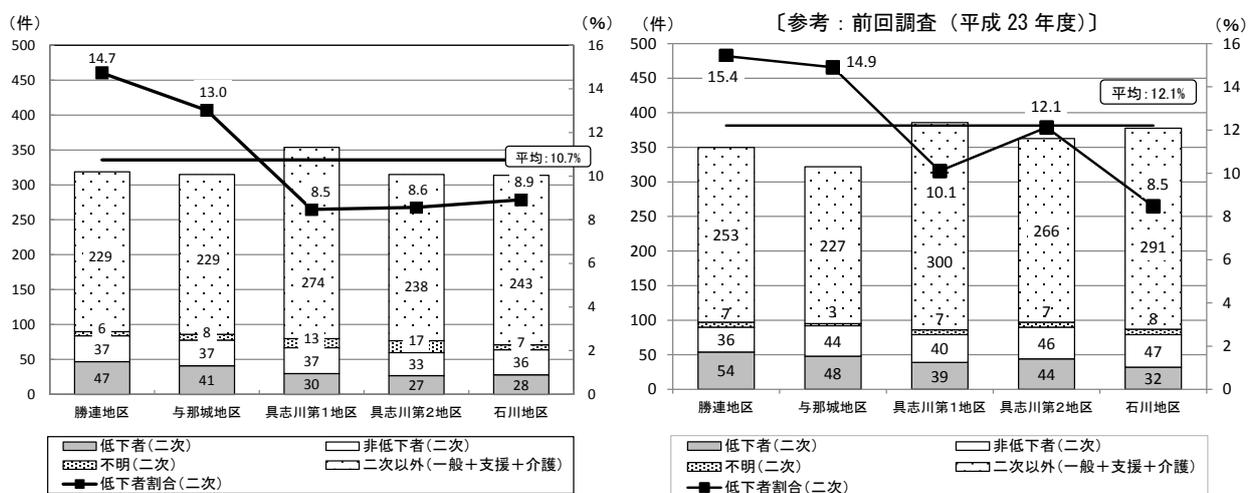
4) 生活機能

①生活機能総合評価

・手段的自立度に知的能動性、社会的役割の評価を加え、13点満点で11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」とし、10点以下を『低下者（「やや低い」＋「低い」）』として評価した。

低下者数・割合（二次予防事業対象者）を日常生活圏域別にみると、勝連地区が47件・14.7%で最も多く、次いで与那城地区41件・13.0%となっており、低下者の割合の市平均（10.7%）を超えたのはこの2地区である。

前回調査と比較すると、低下者数・低下者数の割合ともに全地区で減少している。

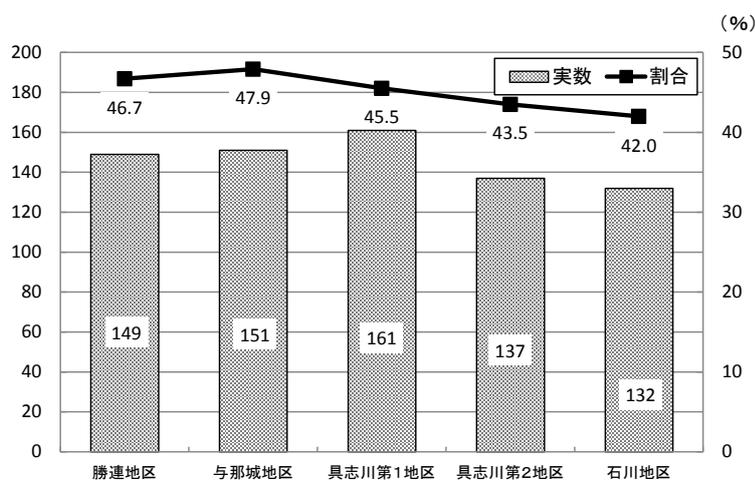


3. 疾病

①高血圧

現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「高血圧」について日常生活圏域別にみると、件数は具志川第1地区が161件で最も多く、次いで与那城地区151件、勝連地区149件となっている。

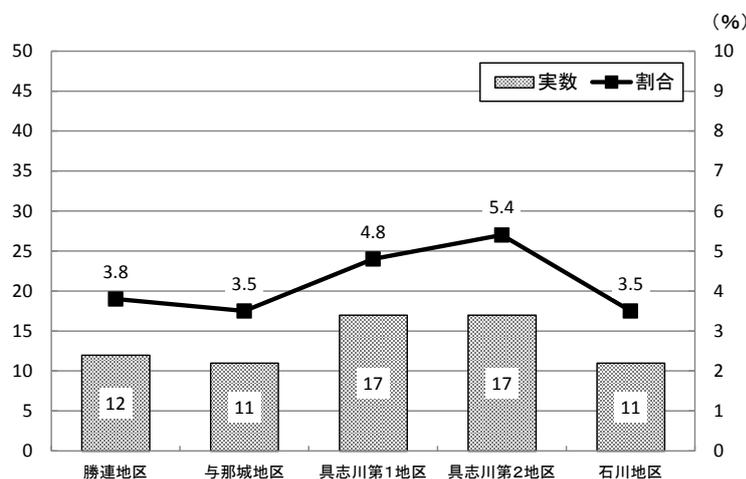
有病率では、与那城地区が47.9%で最も高く、次いで勝連地区46.7%、具志川第1地区45.5%となっている。



②脳卒中

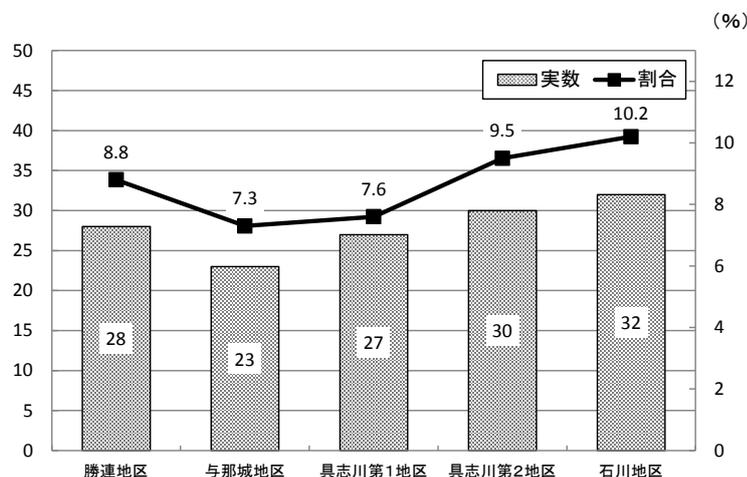
現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「脳卒中」について日常生活圏域別にみると、件数は具志川第1地区および具志川第2地区がそれぞれ17件で最も多く、次いで勝連地区12件となっている。

有病率では、具志川第2地区が5.4%で最も高く、次いで具志川第1地区4.8%、勝連地区3.8%となっている。



③心臓病

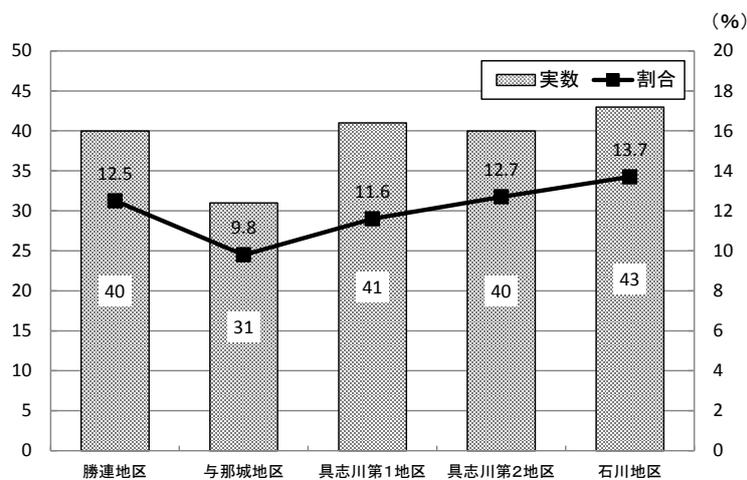
現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「心臓病」について日常生活圏域別にみると、件数・有病率ともに石川地区が32件・10.2%で最も多く、次いで具志川第2地区30件・9.5%、勝連地区28件・8.8%となっている。



④糖尿病

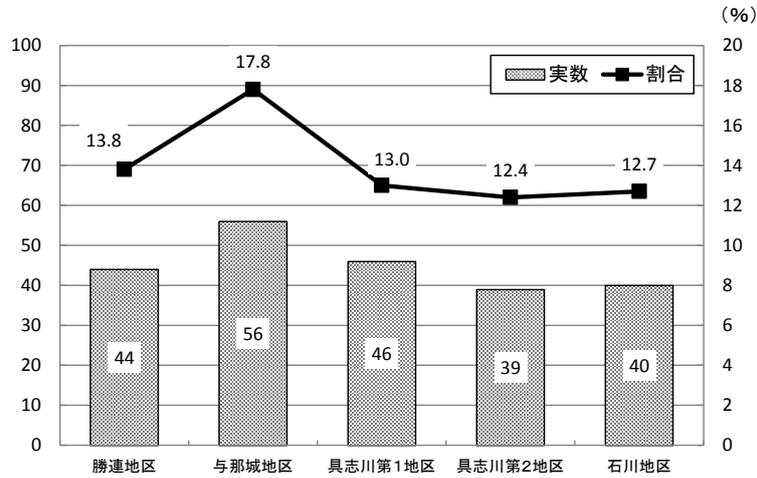
現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「糖尿病」について日常生活圏域別にみると、件数は石川地区が43件で最も多く、次いで具志川第1地区が41件、勝連地区および具志川第2地区がそれぞれ40件となっている。

有病率では、石川地区が13.7%で最も高く、次いで具志川第2地区12.7%、勝連地区12.5%となっている。



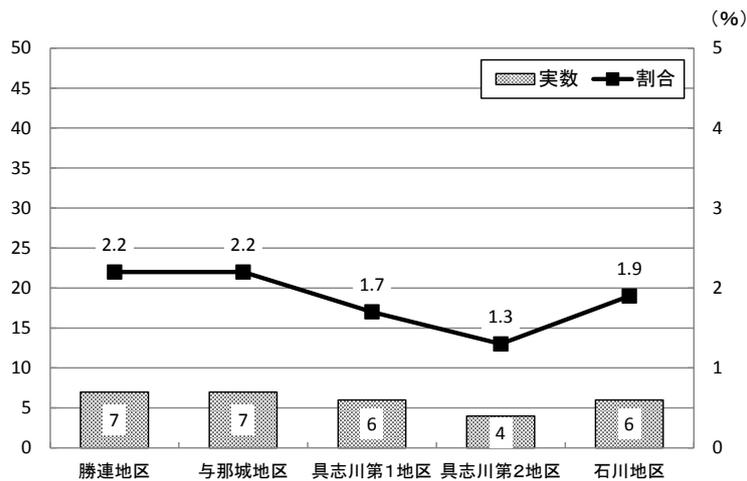
⑤筋骨格系疾患

現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「筋骨格系疾患」について日常生活圏域別にみると、件数・有病率ともに与那城地区が56件・17.8%で最も多く、次いで具志川第1地区46件・13.0%、勝連地区44件・13.8%となっている。



⑥がん

現在治療中、または後遺症のある病気のうち、「がん」について日常生活圏域別にみると、件数・有病率は、勝連地区および与那城地区がそれぞれ7件・2.2%、石川地区が6件・1.9%、具志川第1地区が6件・1.7%、具志川第2地区が4件・1.3%となっている。

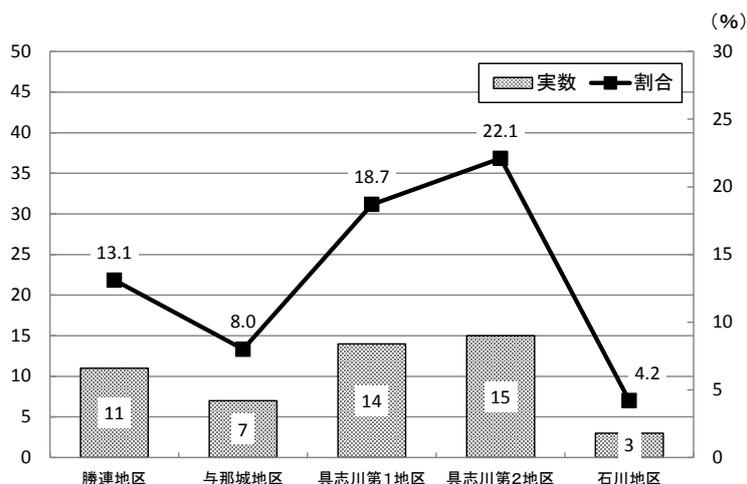


4. 介護

1) 既往症

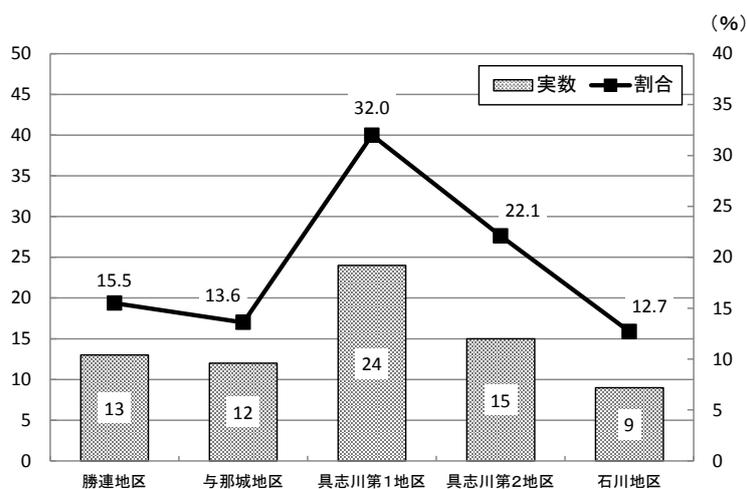
①脳卒中

「脳卒中」にこれまでかかったことがあるとした回答者の件数および既往率を日常生活圏域別にみると、件数・既往率ともに具志川第2地区が15件・22.1%で最も多く、次いで具志川第1地区14件・18.7%、勝連地区11件・13.1%となっている。



②認知症

「認知症」にこれまでかかったことがあるとした回答者の件数および既往率を日常生活圏域別にみると、件数・既往率ともに具志川第1地区が24件・32.0%で最も多く、次いで具志川第2地区15件・22.1%、勝連地区13件・15.5%となっている。

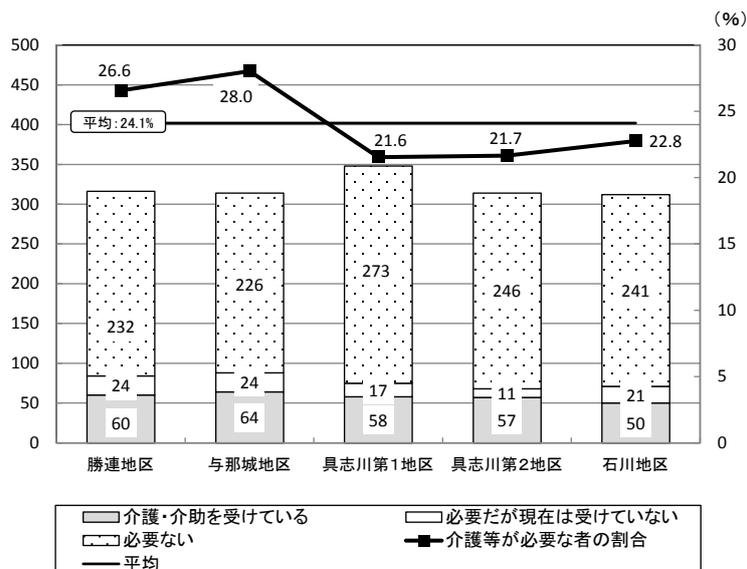


2) 介護の状況

①介護の必要性

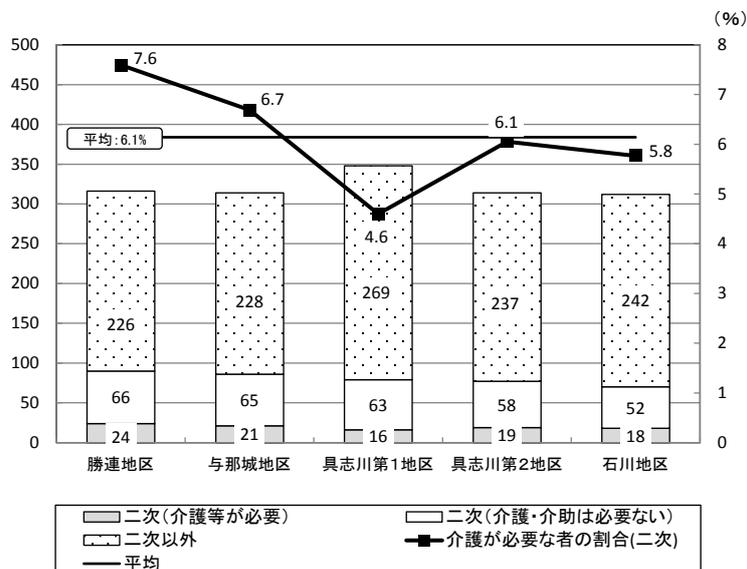
ア) 日常生活圏域全体

介護の必要性について日常生活圏域別にみると、『介護が必要な者（「介護・介助を受けている」＋「必要だが現在受けていない」）』は、与那城地区で 88 件・28.0%と最も多く、次いで勝連地区 84 件・26.6%となっており、『介護が必要な者』の割合が市平均（24.1%）を超えたのはこの2地区である。



イ) 二次予防事業対象者

二次予防事業対象者で『介護が必要な者』は、勝連地区が 24 件・7.6%で最も多く、次いで与那城地区 21 件・6.7%となっており、市平均の割合（6.1%）を超えたのはこの2地区である。



5. 考察

- ・『1. 回答者の属性』について、その特徴を地区別にみると、「与那城地区」、「勝連地区」は後期高齢者率が高いほか、二次予防事業対象者率・認定者率ともに他地区と比べて高い。
- ・一方、「石川地区」と「具志川第1地区」は前期、後期高齢者率がほぼ同率で、二次予防事業対象者率が比較的低く、認定者率については平均的もしくは比較的低くなっている。「具志川第2地区」では前期高齢者率が高く、二次予防事業対象者率、認定者率ともに平均的な割合となっている。

地域	前期、後期高齢者率	高齢者のみ世帯の割合	二次予防事業対象者率	認定者率
勝連地区	後期高齢者率がやや高い (前期 44.2%、後期 55.8%)	比較的低い (14.4%)	比較的高い (28.2%)	比較的低い (18.5%)
与那城地区	後期高齢者率が高い (前期 41.3%、後期 58.7%)	比較的高い (19.7%)	比較的高い (27.3%)	比較的高い (19.7%)
具志川第1地区	前期、後期ほぼ同率 (前期 48.0%、後期 52.0%)	比較的低い (15.5%)	比較的低い (22.6%)	平均的 (16.4%)
具志川第2地区	前期高齢者率が高い (前期 56.5%、後期 43.5%)	比較的高い (18.7%)	平均的 (24.4%)	平均的 (16.5%)
石川地区	前期、後期ほぼ同率 (前期 50.6%、後期 49.4%)	比較的高い (18.5%)	比較的低い (22.6%)	比較的低い (15.7%)

※上記で記述している「比較的」は地域間比較によるものである。

- ・『2. 評価項目別の結果』について、心身機能の状況をみると、二次予防事業対象者率の高い勝連地区および与那城地区でリスク者の割合が高い傾向にあった。具体的な内容でみると、「運動器」、「認知症リスク」の項目で2割弱となっており、他の項目と比べてリスク者の割合が高い。一方、石川地区においては、ほとんどの項目でリスク者の割合が平均より低くなっているが、前回調査時と比べて多くの項目でリスク者の割合が増加している状況にある。
- ・また、日常生活、社会参加の分野では、二次予防事業対象者率の高い勝連地区および与那城地区でリスク者の割合が高い傾向がみられる。
- ・『3. 疾病』については、各地区とも「高血圧」の有病率が4~5割と高くなっている。また、具志川第2地区では「脳卒中」、「心臓病」が、石川地区で「糖尿病」が他地区と比べやや高く、与那城地区では「筋骨格系疾患」が高い。
- ・『4. 介護』について、既往症の割合をみると、具志川第1地区、具志川第2地区で、脳卒中、認知症の割合が他地区に比べて高くなっている。介護の必要性をみると、二次予防事業対象者率・認定者率の高い与那城地区で、介護を必要とする人の割合が比較的高い。

以上を踏まえ、地区別に概観すると、以下の通りとなる。

- ・『与那城地区』は、高齢者像として「後期高齢者率が高い」、「高齢者のみ世帯の割合が比較的高い」、「二次予防事業対象者率が比較的高い」、「認定者率が比較的高い」など、市内でも高齢化が進み、心身機能や社会性の低下、認定者等支援を必要とする高齢者の割合が多くなっている。島しょ地域を含め、運動器の維持や認知症予防等介護予防への取り組みを強化していくとともに、介護保険サービスの充実を図っていくことが求められよう。さらに、従来からの地域の結びつきを基本とした適切な地域支援を進めていく必要がある。
- ・『勝連地区』は、高齢者像として「二次予防事業対象者率が比較的高い」、「認定者率が比較的低い」といった特徴がみられる。与那城地区と同様に、心身機能や社会性の低下等により二次予防事業対象者が増えているものと推察される、運動器や認知症予防等の介護予防への取り組みを強化し、要介護状態への移行の抑制を図っていく必要がある。
- ・『具志川第1地区』、『具志川第2地区』および『石川地区』は、高齢者像として「二次予防事業対象者率が平均的あるいは比較的低い」、「認定者率が平均的、あるいは比較的低い」といった類似点がみられる。そうしたなか、『具志川第2地区』、『石川地区』では「高齢者のみ世帯の割合が比較的高い」ことや、「生活習慣病の有病率がやや高い」傾向がみられる。したがって、これらの地区では、生活機能の維持・向上に向けた取り組みとともに、社会参加・生きがいがづくり支援等を進め、要介護状態への移行の抑制・二次予防事業対象者の発生抑制等を図ることが求められる。

參考資料

参考資料

■うるま市日常生活圏域ニーズ調査 調査票

「 _____ 」

「 _____ 」

第 6 期

【うるま市日常生活圏域ニーズ調査】

①記入日 平成26年 _____ 月 _____ 日

②調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

1. あて名のご本人が記入
2. ご家族が記入
(あて名の本人からみ名称: _____)
3. その他 (_____)

※以下はあて名のご本人の情報を記入してください。

電話番号			
年齢・性別	(_____) 歳	男・女	
生年月日	明治・大正・昭和	年	月 日

記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、平成26年5月現在、65歳以上の方です。
2. ご回答にあたっては表紙ラベルのあて名のご本人についてお答えいただけますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は直接ご記入ください。(例. 62 kg)
4. この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態
介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態
5. この調査に付いてのお問い合わせは下記までお願いいたします。
6. この調査票は、調査員が直接回収にうかがいます。

問い合わせ先 うるま市 福祉部 介護長 兼 介護給付係 成善味・與古由
電話：973-3208

沖縄県立総合政策研究所
山城・芳盛・宮里
電話：859-7037

問2 運動・閉じこもりについて

- Q1. 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか (Ⓔ6) 1. はい 2. いいえ
- Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (Ⓔ7) 1. はい 2. いいえ
- Q3. 15分位続けて歩いていますか (Ⓔ8) 1. はい 2. いいえ
- Q4. 5m以上歩きますか 1. はい 2. いいえ
- Q5. 週1回以上は外出していますか (Ⓔ16) 1. はい 2. いいえ
- Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (Ⓔ17) 1. はい 2. いいえ
- Q7. 外出を控えていますか 1. はい 2. いいえ ⇒Q7-1へ ⇒Q8へ
- Q7-1. (外出を控えている方のみ) 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)
1. 病氣
 2. 障害 (脳卒中の後遺症など)
 3. 足腰などの痛み
 4. トイレの心配 (失禁など)
 5. 耳の障害 (聞こえの問題など)
 6. 目の障害
 7. 外での楽しみがない
 8. 経済的に出られない
 9. 交通手段がない
 10. その他 ()
- Q8. 買物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか (それぞれ1つ)
- A. 買物 → 1. ほぼ毎日 2. 週4~5日 3. 週2~3日 4. 週1日 5. 週1日未満
- B. 散歩 → 1. ほぼ毎日 2. 週4~5日 3. 週2~3日 4. 週1日 5. 週1日未満
- Q9. 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)
1. 徒歩
 2. 自転車
 3. バイク
 4. 自動車 (自分で運転)
 5. 自動車 (人に乗せてもらう)
 6. モノレール
 7. 路線バス
 8. 病院や施設のバス
 9. 車いす
 10. 電動車いす (カート)
 11. 歩行者・シルバーカー
 12. タクシー
 13. その他 ()

問3 転倒について

- Q1. この1年間に転んだことがありますか (Ⓔ9) 1. はい 2. いいえ
- Q2. 転倒に対する不安は大きいですか (Ⓔ10) 1. はい 2. いいえ
- Q3. 背中が丸くなってききましたか 1. はい 2. いいえ
- Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いませんか 1. はい 2. いいえ
- Q5. 杖を使っていますか 1. はい 2. いいえ

質問の該当する答えの番号に○をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1 あなたのご家族や生活状況について

- Q1. 家族構成をお答えください (ひとつだけ)
1. 一人暮らし ⇒Q1-1, 2へ
 2. 家族など同居 (二世帯住宅を含む) ⇒Q2へ
 3. その他 (施設入居など) ⇒Q2へ
- (ご家族など同居されている方のみ)
- Q1-1. ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。 (いくつでも)
- 人
1. 配偶者 (夫・妻)
 2. 息子
 3. 娘
 4. 子の配偶者
 5. 孫
 6. 兄弟・姉妹
 7. その他
- Q1-2. (ご家族など同居されている方のみ) 日中、一人になることがありますか (ひとつだけ)
1. よくある
 2. たまにある
 3. ない
- Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (ひとつだけ)
1. 介護・介助は必要ない ⇒Q3へ
 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない ⇒Q2-1へ
 3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けていないに家族などの介護を受けている場合も含む) ⇒Q2-1~3へ
- Q2-1. (介護・介助が必要な方のみ) 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (いくつでも)
1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)
 2. 心臓病
 3. がん (悪性新生物)
 4. 呼吸器の病氣 (肺炎・肺気腫・肺炎等)
 5. 関節の病氣 (リウマチ等)
 6. 認知症 (アルツハイマー病等)
 7. パーキンソン病
 8. 糖尿病
 9. 痔瘻・認知障害
 10. 骨折・転倒
 11. 骨粗鬆症
 12. 高齢による衰弱
 13. その他 ()
 14. 不明
- Q2-2. (介護・介助を受けている方のみ) 主にどなたの介護・介助を受けていますか (ひとつだけ)
1. 配偶者 (夫・妻)
 2. 息子
 3. 娘
 4. 子の配偶者
 5. 孫
 6. 兄弟・姉妹
 7. 介護サービスのヘルパー
 8. その他 ()
- Q2-3. (介護・介助を受けている方のみ) 主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか (ひとつだけ)
1. 65歳未満
 2. 65~74歳
 3. 75~84歳
 4. 85歳以上
- Q3. 年金の種類は次のどれですか (ひとつだけ)
1. 国民年金
 2. 厚生年金 (企業年金あり)
 3. 厚生年金 (企業年金なし)
 4. 共済年金
 5. 無年金
 6. その他
- Q4. 現在の暮らしの状況を経済的にどう感じていますか (ひとつだけ)
1. 苦しい
 2. やや苦しい
 3. ややゆとりがある
 4. ゆとりがある
- Q5. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか 1. 一戸建て 2. 集合住宅
- Q6. お住まいは次のどれにあたりますか (ひとつだけ)
1. 持家
 2. 民間賃貸住宅
 3. 公営賃貸住宅 (市営・県営、都市機構、公社等)
 4. 借間
 5. その他
- Q7. お住まい (主に生活する部屋) は2階以上にありますか 1. はい 2. いいえ ⇒Q7-1へ ⇒問2へ
- Q7-1. (2階以上の方) お住まいにエレベーターは設置されていますか 1. はい 2. いいえ

問5 物忘れについて

- Q1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると書われますか (Q18) 1. はい 2. いいえ
- Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (Q19) 1. はい 2. いいえ
- Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか (Q20) 1. はい 2. いいえ
- Q4. 5分前のことが思い出せませんか 1. はい 2. いいえ
- Q5. その日の活動（食事をする、衣服を履くなど）を自分で判断できますか (ひとつだけ)
1. 困難なくできる
 2. いくらか困難であるが、できる
 3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要
 4. ほとんど判断できない
- Q6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか (ひとつだけ)
1. 伝えられる
 2. いくらか困難であるが、伝えられる
 3. あまり伝えられない
 4. ほとんど伝えられない

問6 日常生活について

- Q1. バスや電車一人で外出していますか（自家用車でも可）(ひとつだけ) (Q1) 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q2. 日用品の買物をしていますか (ひとつだけ) (Q2)
1. できるし、している
 2. できるけどしていない
 3. できない
- ⇒Q3へ
- Q2-1. (日用品の買物をしていない、できない方のみ) 日用品の買物をする人は主にどなたですか (ひとつだけ)
1. 同居の家族
 2. 別居の家族
 3. ヘルパー
 4. 配達を依頼
 5. その他
- Q3. 自分で食事の用意をしていますか (ひとつだけ)
1. できるし、している
 2. できるけどしていない
 3. できない
- ⇒Q4へ
- Q3-1. (自分で食事の用意をしていない、できない方のみ) 食事の用意をする人は主にどなたですか (ひとつだけ)
1. 同居の家族
 2. 別居の家族
 3. ヘルパー
 4. 配達サービス利用
 5. その他
- Q4. 請求書の支払いをしていますか (ひとつだけ)
1. できるし、している
 2. できるけどしていない
 3. できない
- Q5. 預貯金の出し入れをしていますか (ひとつだけ) (Q3)
1. できるし、している
 2. できるけどしていない
 3. できない
- Q6. 食事は自分で食べられますか (ひとつだけ)
1. できる
 2. 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる
 3. できない

問4 口腔・栄養について

- Q1. 最近6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (Q11) 1. はい 2. いいえ
- Q2. 身長 cm 体重 kg (Q12)
- Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (Q13) 1. はい 2. いいえ
- Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか (Q14) 1. はい 2. いいえ
- Q5. 口の渇きがきになりますか (Q15) 1. はい 2. いいえ
- Q6. 歯磨き（人にやってもらったり磨きも含む）を毎日していますか 1. はい 2. いいえ
- Q7. 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか 1. はい 2. いいえ
- Q8. 入れ歯を使用していますか 1. はい ⇒Q8-1,2へ 2. いいえ ⇒Q9へ
- Q8-1. (入れ歯のある方のみ) 磨き合わせは良いですか 1. はい 2. いいえ
- Q8-2. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか 1. はい 2. いいえ
- Q9. 1日の食事の回数は何回ですか (ひとつだけ)
1. 朝昼晩の3食
 2. 朝晩の2食
 3. 朝昼の2食
 4. 昼晩の2食
 5. 1食
 6. その他
- Q10. 食事を抜くことがありますか (ひとつだけ)
1. 毎日ある
 2. 週に何度かある
 3. 月に何度かある
 4. 年に何度かある
 5. ほとんどない ⇒問5へ
- ⇒Q11-1へ
- Q11. 自分一人でなく、どなたかと食事をするにもする機会がありますか (ひとつだけ)
1. 毎日ある
 2. 週に何度かある
 3. 月に何度かある
 4. 年に何度かある
 5. ほとんどない ⇒問5へ
- (どなたかと食事をするにもする機会がある方のみ)
- Q11-1. 食事をする人もどなたですか (いくつでも)
1. 家族
 2. 近所の人や友人
 3. デイサービスの仲間
 4. その他

問7 社会参加について

Q1. 年金などの書類（住所や病院などに出す書類）が書けますか	1. はい	2. いいえ
Q2. 新聞を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
Q3. 本や雑誌を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	2. いいえ
Q5. 友人の家を訪ねていますか（※4）	1. はい	2. いいえ
Q6. 家族や友人の相談にのっていますか（※5）	1. はい	2. いいえ
Q7. 病人を見贈ることが出来ますか	1. はい	2. いいえ
Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい	2. いいえ
Q9. 趣味がありますか	1. はい	2. いいえ
Q10. 生きがいがありますか	1. はい	2. いいえ
Q11. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか （1）ボランティアのグループ（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（2）スポーツ関係のグループやクラブ（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（3）趣味関係のグループ（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（4）老人クラブ（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（5）自治会（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（6）学習・教養サークル（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（7）その他の団体や会（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
Q12. 以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか （1）見守りが必要な高齢者を支援する活動（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（2）介護が必要な高齢者を支援する活動（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		
（3）子どもを育てている親を支援する活動（ひとつだけ） 1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない		

Q7. 寝床に入るとき、向らかの介助を受けますか（ひとつだけ）

1. 受けない	2. 一部介助があればできる	3. 全面的な介助が必要
Q8. 座っていることができますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 支えが必要	3. できない
Q9. 自分で洗面や歯磨きができますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 一部介助があればできる	3. できない
Q10. 自分でトイレができますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
Q11. 自分で入浴ができますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
Q12. 50m以上歩けますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
Q13. 階段を昇り降りできますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 介助があればできる	3. できない
Q14. 自分で着替えができますか（ひとつだけ） 1. できる	2. 介助があればできる	3. できない
Q15. 大便秘がかりがありますか（ひとつだけ） 1. ない	2. ときときある	3. よくある
Q16. 尿もれや尿失禁がありますか（ひとつだけ） 1. ない	2. ときときある	3. よくある
Q17. 家事全般ができていますか（ひとつだけ） 1. できている	2. できていない	

問8 健康について

- Q1. 普段、ご自分で健康だと感じますか (ひとつだけ)
 1. とても健康 2. まあまあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない
- Q2. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)
 1. 高血圧 2. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 3. 心臓病
 4. 糖尿病 5. 高脂血症(脂質異常) 6. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)
 7. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 8. 腎臓・前立腺の病気 9. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
 10. 外傷(転倒・骨折等) 11. がん(新生物) 12. 血液・免疫の病気
 13. うつ病 14. 認知症(アルツハイマー病等) 15. パーキンソン病
 16. 目の病気 17. 耳の病気 18. その他()
 19. ない
- Q3. 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか (ひとつだけ)
 1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類 4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない
- Q4. 現在、病院・医院(診療所、クリニック)に通院していますか 1. はい 2. いいえ
 ⇒Q4-1,2へ ⇒Q5へ
- Q4-1. (通院している方のみ) その頻度は次のどれですか (ひとつだけ)
 1. 週1回以上 2. 月2~3回 3. 月1回程度
 4. 2ヶ月に1回程度 5. 3ヶ月に1回程度
- Q4-2. (通院している方のみ) 通院に介助が必要ですか 1. はい 2. いいえ
- Q5. 以下の在宅サービスを利用してありますか (いくつでも)
 1. 訪問診療(医師の訪問) 2. 訪問介護
 3. 夜間対応型訪問介護 4. 訪問入浴介護
 5. 訪問看護 6. 訪問リハビリテーション
 7. 通所介護(デイサービス) 8. 認知症対応型通所介護
 9. 通所リハビリテーション(デイケア) 10. 小規模多機能型居宅介護
 11. 短期入所(ショートステイ) 12. 医師や薬剤師などによる療養上の指導(居宅療養管理指導)
 13. 定例巡回・臨時対応型訪問介護看護 14. 複合型サービス
 15. その他() 16. 利用していない
- Q6. お酒は飲みますか (ひとつだけ)
 1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない
- Q7. タバコは吸っていますか (ひとつだけ)
 1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない
- Q8. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない(②1)
 1. はい 2. いいえ
- Q9. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった(②2)
 1. はい 2. いいえ
- Q10. (ここ2週間) 以前は薬にできていたことが、今ではおっくうに感じられる(②3)
 1. はい 2. いいえ
- Q11. (ここ2週間) 自分が喉に立つ人間だと感えない(②4)
 1. はい 2. いいえ
- Q12. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする(②5)
 1. はい 2. いいえ

(4) 地域の生活環境の改善(美化)活動(ひとつだけ)

1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 参加していない

(5) 収入のある仕事(ひとつだけ)

1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. していない

Q13. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお答えをお願いします
 あてはまるすべてに○をください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣の人 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣の人 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣の人 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣の人 6. 友人
 7. その他() 8. そのような人はいない

Q14. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をお答えください(いくつでも)

1. 自治会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネージャー
 4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・役所 6. その他
 7. そのような人はいない

Q15. 友人関係についてお答えをお願いします

(1) 友人・知人と会う回数ほどどれくらいですか (ひとつだけ)

1. 週4回以上 2. 週2~3回 3. 週1回 4. 月1~3回 5. 年に数回 6. 会っていない

(2) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか

同じ人とは回数会っても1人と数えることとします(ひとつだけ)

1. 0人(いない) 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

(3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
 5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

Q8. 高齢者が安心して生活できるまらづくりのためにはどのような施策の充実を求めますか
(〇は5つまで)

1. 生涯学習やレク・スポーツ活動等
2. 在宅診療等の医療サービス
3. 福祉に関する地域活動団体 (ボランティア、老人会、婦人会等) の育成支援
4. 配食サービスなど在宅福祉サービスの充実 (介護保険サービスを除く)
5. 介護予防 (要支援・要介護状態にならない) 対策 (貯蓄クラブなど)
6. 深夜を含め24時間いつでも利用できる介護保険の訪問サービス (訪問介護、訪問看護等) の確保
7. 介護保険院所施設 (特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等) の整備拡充
8. 一人暮らし高齢者などの見守りや安否確認
9. 介護者への支援
10. 認知症高齢者への支援対策
11. 地域の支え合い活動
12. 健康づくりの支援
13. 高齢者向け住宅の整備
14. 認知症や虐待の専門的な相談窓口
15. 移動や交通手段の整備や確保
16. 高齢者の就労対策
17. 高齢者を狙った詐欺などへの対策
18. 高齢者の住まい探しを支援するサービス
19. その他 ()

ご協力ありがとうございます。記入もれがないか、今一度お確かめください。

問9 その他

- Q1. (日常生活について) 生活するうえで困っていることはありますか (いくつでも)
1. 買い物や病院、銀行等に行きたいが交通手段がない
 2. ミニチャイなどいろいろな行事に行きたいが行けない
 3. 足が悪くなって行きたいところに行けない
 4. 炊事や洗濯、掃除などの家事
 5. 栄養管理ができない
 6. 家族 (親・配偶者等) の介護に関すること
 7. 病氣や医療に関すること
 8. 金銭管理ができない
 9. 収入に関すること
 10. 仕事 (仕事内容、職場での人間関係など) に関すること
 11. 住居に関すること (住まいの確保、バリアフリー等)
 12. その他 ()
 13. 特に関っていることはない
- Q2. 在宅生活を続ける上で、現在もしくは今後利用したいサービス・取組みはありますか (いくつでも)
1. 買い物支援
 2. 調理支援
 3. 掃除支援
 4. ごみ出しや電球交換等の支援
 5. 医療機関や銀行等への同行支援
 6. 配食サービス
 7. 定期的な見守りや声かけ
 8. 話し相手
 9. 運動・リハビリ等
 10. 金銭管理支援
 11. 緊急通報システム
 12. その他 ()
 13. 特に関心したいサービス等はない
- Q3. 問7-Q11 (P6) ですべての活動に「参加していない」と回答した方におたずねします。参加していない理由は何ですか。(〇は3つまで)
1. 時間がないから
 2. 健康 (体調) がすぐれないから
 3. 活動に魅力を感じないから
 4. 一緒に参加する人がいないから
 5. 開催場所までの移動手段がないから
 6. となり近所や地域からの呼びかけがないから
 7. 人の多い場は苦手だから
 8. 仲間に入りづらいうから
 9. その他 ()
 10. 特に理由はない
- Q4. となりの近所の人との交流について、今後どのような関係になりたいですか (ひとつだけ)
1. 簡単な頼みごと (ゴミ出しの手伝いなど) ができる程度
 2. 困りごとを相談し合える程度
 3. 立ち話や世間話など情報交換をする程度
 4. 顔を合わせたときに挨拶をする程度
 5. 近所づきあいはしたくない
 6. その他 ()
- Q5. 現在は就労していない方におたずねします。今後、就労したいですか。
1. はい
 2. いいえ
- ⇒Q5-1へ ⇒Q6
- Q5-1. 就労したい理由は何ですか (いくつでも)
1. 家計の維持のため
 2. 健康に良いから
 3. 自分の能力や知識を活かしたいから
 4. 自由におこづかいとして使いたいから
 5. その他 ()
- Q6. 問8-Q4で「いいえ」(病院等へ通院していない) と回答した方におたずねします。定期的に受診していない理由は何ですか。(ひとつだけ)
1. 連れていく人がいない
 2. お金がない
 3. 交通機関の活用ができない
 4. その他 ()
 5. 病院に行く必要がない
- Q7. あなたは将来介護が必要になったとき、どこで生活をしていきたいですか。現在介護を受けている方は、現在のご希望をお答えください。(ひとつだけ)
1. 自宅
 2. 施設等
 3. まだ考えていない

うるま市高齢者実態把握調査報告書
(うるま市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画)

平成27年3月 発行

発行：うるま市 福祉部 介護長寿課

〒904-2292

沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

TEL：098-974-3111（代表）